



競輪補助事業

平成 21 年度

シニアネット構築研究会

## シニアネット・フォーラム 21 in 九州

◇シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットはシニアの生きがい、  
シニアパワーを結集し、シニアネットの輪を広げよう◇

【報告書】

平成 22 年 2 月

財団法人 ニューメディア開発協会

## はじめに

現在、我が国は65歳以上の高齢者が約2898万人おり、実に人口比率で22.7%となっております。一段と高齢化が進み、4.4人に1人が65歳以上と言う状況であります。数年のうちには団塊の世代が高齢者の仲間入りする等、高齢化はますます進み、少子化と相俟って2055年には65歳以上の高齢者が41%を占めると予測されております。ほぼ二人に一人が高齢者という時代がやってくるということになります。

こうした高齢社会にあつて、旧通商産業省はかつて長寿社会対策として「メロウ・ソサエティ構想」を提唱し、高齢者が情報技術（IT）を活用して、生き生きとした生活を送り、社会に貢献する『高齢者自立型・参加型情報化社会』の実現を目指して参りました。

当協会は、かかる「メロウ・ソサエティ構想」を実現するため、その中心的な立場に立って長年、様々な事業に取り組んで参りました。この「シニアネットフォーラム21」は「シニア情報生活アドバイザー養成事業」等と共に、まさに同構想実現のための主要事業であります。

かつて団塊の世代がそうであったように高齢者が人口の面でメジャーとなる時代、まさに高齢者のパワーが社会を変えていくと言っても過言ではありません。今後、高齢者が社会の主役となって、高齢者の新しい文化を形成しつつ、様々な活躍をされることが益々重要となって参ります。まさに高齢者ひとりひとりが自らの生き方、新しい価値観を創り出していくことが肝要かと思われれます。

そうした中、好きなITを生かして充実したシニアライフを送りたい、そして少しでも社会のお役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」は、IT講習を行うなど地域に根差した様々な社会参加活動を通して、まさに高齢者の「居場所」「自己実現の場」「社会参加の場」となって「生きがい」づくりに大きな役割を果たすまでになってきております。

更に、こうした活動を通して自治体等と協働（コラボレーション）し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に重要な役割も果たしております。

今や、シニアネットは、高齢者そして自治体等にとって誠に意義深い組織であると言えます。

当協会はこの「シニアネット」の諸地域での活躍を具に見るにつけ、かかる「シニアネット」こそ、「メロウ・ソサエティ構想」実現に不可欠な、重要なパートナーであると強く確信し、「シニアネット」が全国津々浦々にあつて高齢者が生き生きと活躍している姿を創出していくことが急務と考えております。

そこでこの度は、当協会は経済産業省や財団法人JKAのご指導、ご支援を得て「シニアネット構築研究会」事業として「シニアネットフォーラム21in九州」を実施いたしました。

九州地方でのシニアネットの普及を図るべく、統一テーマ「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットはシニアの生きがい、シニアパワーを結集し、シニアネットの輪を拓けよう」のもとに、基調講演、パネルディスカッション、ケーススタディ、交流広場の四本柱の構成とし、高齢者にとって、社会にとってシニアネットの活動がいかに素晴らしく意義深いものであるか、初めての方々にも十分ご理解いただけるよう、具体的かつ啓蒙的なものといたしました。

定員を大きく上回る、多くの方々のご参加を得、熱心な議論と深い交流がなされるなど、お陰様で大変有意義なものとなることが出来たものと思っております。

熊本県や熊本市をはじめ、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

今後、この事業の成果が広く活用され、シニアネットの新規誕生やシニアネットの一層の飛躍に貢献できることを願っております。そして、かかる活動を通して地域の振興に貢献できれば幸いです。

平成21年12月  
財団法人 ニューメディア開発協会



## シニアネットフォーラム21 in 九州

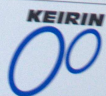
シニアが変わる、地域が変わる、  
シニアネットはシニアの生きがい、  
シニアパワーを結集し、シニアネットの輪を広げよう

■ 2009年10月23日(金) ■

10時30分～18時10分

- 主催 財団法人 ニューメディア開発協会
- 後援 経済産業省、熊本県、熊本市
- 協力 熊本シニアネット  
株式会社デジブック  
マイクロソフト株式会社

(五十音順)



この催しは、競輪の補助金を  
受けて開催いたします。

シニアネット・フォーラム21 in 九州 2009  
【報告書】

目次

(Ⅰ) はじめに .....	01
(Ⅱ) フォーラムの概観	
1. 開催の主旨 .....	04
2. 実施要綱 .....	05
3. プログラム構成のポイント .....	07
4. 実施状況 .....	09
5. まとめ .....	10
(Ⅲ) プログラムの詳細	
1. 主催挨拶 .....	12
2. 来賓挨拶 .....	14
3. 基調講演 .....	18
4. パネルディスカッション .....	28
5. ケーススタディ .....	49
6. 交流広場 .....	68
7. クロージングセッション .....	72
(Ⅳ) 付属資料	
1. 開催案内 .....	74
2. アンケート .....	80

## 1. 開催の主旨

現在、65歳以上の高齢者が約2889万人、人口比率で22.7%となっており、実に4.4人に1人が高齢者である。日本の総人口は既に減少に転じている中、団塊の世代の第1陣が定年を迎え、いよいよ高齢者の仲間入りを間近に控えているなど、高齢化はますます進み、2055年には41%が65歳以上という代がやってくると予測されている。

高齢者が数の上でメジャーとなる時代、まさに高齢者のパワーが社会を変えていく時代になる、と言っても過言ではない。「活老なくして繁栄なし」と言われている通り、今後、高齢者の社会での活躍がますます重要になってくる。

そうした中、好きなITを生かして充実したシニアライフを送りたい、そして少しでも社会のお役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」が各地にあって、仲間とともにITを勉強し合ったり、地域の高齢者の方々へのIT講習を行ったりと、地域に根差したさまざまな活動が活発に展開されている。

シニアネットは、まさに高齢者の生きがいつくりや仲間づくりに大きな役割を果たしており、高齢者が培ってきた知識・技術・経験等を活かして社会参加を果たし、シニアライフを豊かで楽しいものにしていく。そうしたなかであって、地域の自治体等と協働（コラボレーション）し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に重要な役割も果たしてきている。このようにシニアネットは、高齢者にとっては勿論、自治体・企業の方にとっても極めて意義深い組織であると言える。

旧通商産業省が提唱された「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指している財団法人ニューメディア開発協会としては、こうしたシニアネットの活動こそ、かかる構想の実現に重要と認識し、シニアネットを強力なパートナーと位置づけ、連携を強化してきた。こうした経緯から、当協会はシニアネットが全国津々浦々に数多くあって、高齢者が生き生きと活躍している、そうした姿を創出していくことが急務と考えている。

その為、これまで経済産業省や財団法人JKA、シニアネット諸団体等のご協力を得て、シニアネット普及・拡充を図るべく、全国的に「シニアネットフォーラム21」を開催してきた。

そこで、この度「シニアネットフォーラム21in九州」を開催し、全国のシニアネットが一堂に会し、お互いの意見交流・人的交流を行う中で、特に九州地方でのシニアネットの更なる普及・拡充を図ることとした。

既にシニアネットに加わって活動されている方々は勿論、「シニアネットに参加したい…」「何か地域で活動してみたい…」とお考えの高齢者や団塊世代の方、そして「高齢者と協働して施策や事業に取り組みたいが…」とお考えの自治体や企業の方など、幅広い分野の方々にご参加頂き、熱い議論と深い交流を通して、それぞれ今後の活動につなげて頂ければと願っている。

このフォーラムをきっかけに、シニアネットの普及・拡充が一層進み、高齢者の充実したシニアライフや豊かな高齢社会の構築を加速していきたい。

## 2. 実施要綱

- (1) 日 時：平成 21 年 10 月 23 日(金) 10：30～18：10
- (2) 会 場：くまもと県民交流館パレア 10 階パレアホール  
〒860-8554 熊本市手取本町 8 番 9 号 テトリアくまもとビル  
(鶴屋百貨店ビル 10 階)
- (3) 主 催：財団法人ニューメディア開発協会
- (4) 後 援：経済産業省  
熊本県  
熊本市
- (5) 協 力：(五十音順)  
熊本シニアネット  
株式会社デジブック  
マイクロソフト株式会社
- (6) 定 員：約 150 名
- (7) 参 加 料：無料
- (8) 参加対象：
- ・シニアネットへの参加や新規設立等
  - ・シニアネットに関心のある方
  - ・シニアネットのメンバーの方
  - ・団塊の世代の方
  - ・シニア情報生活アドバイザーの方
  - ・自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO 活動推進をご担当の方
  - ・企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリーなど
  - ・シニア向け商品、サービスの企画開発などに携わっておられる方
  - ・コミュニティビジネスや NPO 活動に取り組んでおられる方 等々

プログラム 10月23日(金) くまもと県民交流館パレオ 10階パレオホール

09:30~10:30	受付	
10:30~10:50	開会 オープニングセッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主催者挨拶 岡部武尚（財団法人ニューメディア開発協会理事長）</li> <li>●来賓挨拶 橘高公久（九州経済産業局長）（予定） 蒲島郁夫（熊本県知事）（予定） 幸山政史（熊本市長）（予定）</li> </ul>
10:50~12:00	基調講演	『高齢社会に於けるアクティブシニアの新しい生き方』 —シニアならではの新しい文化を創り、社会の主役に— 坂本 正（熊本学園大学学長）
10:30~18:00 12:00~13:00	シニアネット 交流広場 昼食	シニアネットの成果展示による相互交流の場
13:00~15:10	パネルディスカッション	『シニアネットはシニアの生きがい、新しい時代のシニアネットの魅力的な姿とは』 <ul style="list-style-type: none"> <li>●コーディネーター 吉田敦也（徳島大学大学院教授／地域創生センター長）</li> <li>●パネリスト(五十音順) 今津一躬（NPO 法人シニアネット久留米理事長） 田鍋晴久（NPO 法人シニアネット北九州理事長） 中村俊二（宇治市総務部次長/NPO 法人まちづくりねっと・うじ） 林恵美子（メロウ倶楽部） 堀池喜一郎（NPO 法人シニア SOHO 告及サロン三鷹元代表理事）</li> </ul>
15:10~15:20	休憩	
15:20~18:00	ケーススタディ	『シニアネットがシニアを変える、地域を変える』 <ul style="list-style-type: none"> <li>●司会 花田昌宣（熊本学園大学教授）</li> <li>●コメンテーター 江口 満（熊本県福祉部高齢者支援総室長）</li> </ul> 【テーマ1】「シニアネットはシニアの生きがい、自己実現の場」 山口隆信（熊本シニアネット天草支部長） 【テーマ2】「社会貢献はシニアネットの使命、行政との協働を促進」 二羽英明（NPO 法人シニアネットクラブ理事長） 【テーマ3】「無から有へ、熱い想いを形にするシニアネットの新たな立ち上げ」 高橋克司（NPO 法人とかちシニアネット理事長）
18:00~18:10	クロージングセッション 閉会	総括 中島敬也（熊本シニアネット代表）

### 3. プログラム構成のポイント

開催の趣旨に即し「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットはシニアの生きがい、シニアパワーを結集し、シニアネットの輪を広げよう」というキャッチフレーズのもとに、これからのシニアのあり方を根源的に考え、シニアネットのより良い活動に資するものとした。

そのため、プログラムを「基調講演」、「パネルディスカッション」、「ケーススタディ」、「シニアネット交流広場」の四本柱で構成し、全員参加型を目指した。

#### (1) 基調講演

我が国の高齢化は急速に進み、2055年には実に総人口の41%が65歳以上になると見込まれている。シニアが数の上でもメジャーとなる時代、まさにシニアがこれからの社会を変えていく、と言っても過言ではない。「活老なくして繁栄なし」と言われている通り、高齢者が主役になって社会で活躍することがますます重要となっている。

そうした中、多くのシニアがそれぞれの地域で「シニアネット」に集い、得意のITを駆使しながら元気に、楽しみながら、IT講習などをはじめとするボランティア活動等に邁進し、豊かで充実したシニアライフを送ろうとしている。まさに、自ら自立し、社会を支える側に立とうと意欲的な活動を展開している。

今や、シニアネットはシニアの生きがいづくり、地域の振興にと重要な役割を果たしており、シニアにとって大変有意義な組織となっている。シニアが地域社会の主役となって活躍する大きな場であり、シニアの新しい文化として今後の普及拡大が急務となっている。

そこで、一段と進む高齢社会、世界同時不況等激動の時代にある中、シニアが今後どう生きるべきか、シニアネット等シニアが行う市民活動の意義等について触れながら、経済学者であるとともに、シニアネット活動・ボランティア活動にも造詣の深い学識経験者より、示唆に富んだ提言をして頂くこととした。

#### (2) パネルディスカッション

我が国にシニアネットが誕生して以来10年余が経過、この間多くのシニアネットが全国に誕生し、各地でシニアの情報リテラシー向上を通してその活性化や地域の情報化促進等有意義な活動を展開し、大きな成果を挙げてきている。当協会のアンケートにおいても、シニアネットは今では“生き甲斐”として生活の中に定着してきており“元気に生きる源”になってきている。高齢社会はシニアが主役と言われる中、「シニアネット」の活動はますます重要になっている。

また、シニアの仲間入りを間近に控えた“団塊の世代”の新たな地域デビューが期待され、男女共同参画が謳われているなか、シニアネットの世界は、どちらかといえば“男社会”といわれているが、これからはこうした団塊の世代や女性の方々の積極的な参加も重要になってくる。

新しい局面を迎えようとしている今日、新しい時代におけるシニアネットのあり方について議論することは、シニアのこれからの生き方を考える上で極めて重要なことである。

そこで、各地で活躍中のシニアネットの代表者にご登場いただき、これまでの経緯を振り返る中、シニアがいきいきとシニアライフを送るため、これからのシニアネットはどうあるべきか、どう進化すべきか、参加者全員で今後のあり方を探っていくこととした。



### (3) ケーススタディ

シニアネットは、シニアの想いを実現する場として、様々な形で活動を展開し大きな成果を挙げてきており、まさにシニアの生きがいとなって生活の中に定着してきている。

団塊の世代がシニアの仲間入りを間近に控えるなど、また一段と高齢化が加速する新しい節目を迎えようとしているこの時、シニアネットの更なる普及、発展が急務である。

そこで、『シニアネットがシニアを変える、地域を変える』を統一テーマとして、シニアネットの主な活動事例を通して、シニアや地域にとってシニアネット活動がいかに重要であるかを皆で考え、多くのシニアがシニアネットに参加するきっかけを作り、今後の普及や発展の礎にすることとした。

#### テーマ1：シニアネットはシニアの生きがい、自己実現の場

高齢社会において、シニアは最大の社会的資源であると言われているが、とりわけシニアネットは、その活動実績等からシニアの生きがいとなってきており、シニアの良き拠り所、資源の源泉として大きく期待されている。多くのシニアの方は、これまで培ってこられた豊富な経験や見識等をもとに“自己実現”を果たし、シニアライフを豊かで実りあるものにしたいと切望している。

女性も男性も、そしてこれからシニア世代になる団塊の世代も、多くの方々がシニアネットに参加し、生き生きと活動でき、シニア一人一人の持ち味をいかんなく発揮できる魅力あるシニアネット像を皆で考え、実現させていくことは大変意義深いことと思う。

そこで、九州は熊本県で13の支部、20カ所のサロンに1,300名を超える会員が集い、生き生きと活発に活動している「熊本シニアネット」の活動状況を皆で学び合い、自己実現の場として、シニアの生きがいとして、シニアが参加したくなる魅力あるシニアネットとはどのようなものか、これからの姿について皆で考えて行くこととした。

#### テーマ2：社会貢献はシニアネットの使命、行政との協働を促進

多くのシニアネットは自ら持てる力をシニアのために、地域のためにお役に立てればと熱い想いを抱き、活動を展開されております。そのためシニアネットがシニア向けのIT講習等、その活動を通して社会に貢献しようとするとき、関係自治体や企業等と協働（コラボレーション）して事業を展開することは極めて重要であります。一方、少子高齢化と高度情報化が同時進行する社会にあって、自治体にとっても、高齢者の生きがいづくりや生涯学習等の諸施策や電子自治体や地域の情報化促進等地域振興諸政策を進める上で、シニアネットの豊富な経験や優れたノウハウを活用することは重要な要素となっていてきており、これまでも大きな実績を挙げてきております。今や、両者の協働（コラボレーション）は必須と言っても過言ではありません。

そこで東京の西、日野市を中心に行政との協働事業を積極的に展開し、地域社会に貢献している「NPO法人シニアネットクラブ」の活動を通して、今後、“世のため、人のため”行政とのコラボレーションのあり方や更なる促進を図るための諸方策について、参加者全員で考えることとした。

#### テーマ3：無から有へ、熱い想いを形にするシニアネットの新たな立ち上げ

最近ではシニアにとって、シニアネットが“生きがい”となって生活の中に深く関わってきており、シニアネットのさまざまな活動がシニアを元気にし、地域に活力をもたらしている。シニ

アネットは各地で大きく評価されてきており、今後もますますその活動が注目されていくものと思っている。

もとより、自らの想いを実現するためにシニアネットを設立したいとするシニアは多いと言われている。しかし、どうしたらできるのか、思い悩んでいるシニアが多いのもまた事実である。一方で、かかるシニアネットを全国津々浦々、至る所に存在する姿を創ることが急務となっている。

そこで、かつてシニアネットがなかった帯広市にあって、自らの熱い想いを実現しようと、同士を募って新たに立ち上げ、運営に当たってきた「NPO法人とまちシニアネット」の事例を通して、新規設立や運営についてその方策等を共に考えていくこととした。

#### (4) シニアネット交流広場

全国各地で活躍しているシニアネットの活動状況を展示しあい、参加者同士フェース・ツー・フェースで意見交換し相互交流を深めていただく場とした。また、協力企業のお役立ちコーナーも設けた。これまで多くの参加者から大変ご好評を頂いており、皆様の今後の活動に必ずお役に立つものと思っている。自治体や企業の方にも是非、立ち寄っていただくよう呼びかけた。

## 4. 実施状況

### (1) 参加者について

定員を大きく上回る 250 名もの参加があり、盛況の裡に終えることができた。当初はゆったり座って参加いただこうと机一つ当たり二人がけにしていたのを急遽、三人がけに変更したが、それでも座りきれず、壁側に椅子を出して対応した。

そうした中、参加者の熱心かつ活発な意見交換や質疑応答がなされるなど、大変有意義なものとすることができた。

参加者の年齢構成は 61 歳～70 歳が 43%と最多であったが、71 歳以上もまた 35%とまさに高齢者の意識の高さ、関心の高さが伺われた。60 歳以下の方の比率が 22%と比較的高かったのは、シニア予備軍のシニアネットへの関心が高まってきていることの表れと見ることができる。なお、男女比率では男性 65%、女性 35%と、これまでに比べ女性の参加が多い結果となった。

また、今回、自治体関係者の参加が約 4%とやや低い結果になった。シニアネットと自治体等との協働を呼びかけてきている中、大きな課題ではある。

### (2) プログラムの実施概要

今回は、基調講演、パネルディスカッション、ケーススタディ、シニアネット交流広場の四本柱で行った。九州地方での現状を考慮し、シニアネットの本質について理解を深め、シニアネットへの参加を促すよう、具体的な事例を踏まえて、その重要性や活動状況等を分かり易く伝える啓蒙的な内容とし、九州地方でのシニアネットの一層の普及と更なる飛躍を図った。各プログラムの内容については、その骨子を別項に記すこととする。

## 5. まとめ

(1) 当初計画を大幅に上回る多くの参加者を得、大変盛況のうちに終えることができた。九州地方においては、約 10 年の歴史を有するいくつかの老舗のシニアネットがある一方で、地域によってまだまだ温度差が大きく、その存在が見当たらない地域も見受けられる。それだけに潜在的なニーズは高いと思われ、今回はシニアネットの素晴らしさを九州一円に広く知らしめることを主眼に置いて行ったところ、多くの参加者により熱の籠もった議論や質疑応答が活発に行われるなど、参加者の積極的な取り組みでより充実したものとすることができた。

今回は、九州地方での普及を加速するために、多くのシニアや行政関係者等にシニアネットへの関心と理解を深めていただきたいと考え、啓蒙的な内容とした。アンケートの結果では、ほぼ 100%の方から「理解が深まった」という回答を頂いた。多くのシニアがシニアネットの活動に理解を深められたことで、今後シニアネットへの参加者が増大することを大いに期待している。

(2) アンケートの結果では、参加された動機の中で「シニアネットの活動に生かしたい」「シニアネットの参加に役立てたい」からと答えた方が 84%であったが、参加された結果、その比率が 93%に伸びた。これは参加する前は「シニアネットというものを詳しく知りたい」と答えた方が、参加後には「参加したい」という思いに意識が変わったと理解することができる。

このフォーラムをきっかけにして、多くのシニアの意識が大きく変わったと見ることができ、一定の成果を挙げることができたものと思う。

ただ、「シニアネットを設立したい」と答えた方が 0%ということは、大変残念であった。また、「シニアネットに参加すべきどうか分からない」「参加したくない」とシニアネットに関わることを躊躇している方が 7%ほどあった。いずれもその理由は把握できなかったが、今後とも関心を持ち続けていただき、何かにつけてお考えいただければと思う。本フォーラムが起爆剤となって、全国、とりわけ九州地方でのシニアネットの普及や拡充につながることを願っている。

(3) アンケートでのご回答がやや少なかつたものの、ほぼ 100%の自治体関係者の方が「シニアネットとの協働」に積極的である、との結果が得られた。地域での I T 講習等でシニアネットと自治体等との協働（コラボレーション）が諸地域で見受けられるが、これを契機に一件でも多く協働が実現することを期待している。

(4) アンケートによると、本フォーラムについて 93%の方から「役に立った」との評価を頂いた。一方で、「もっと議論や質疑応答が欲しかった」等示唆に富んだ貴重なご指摘を多数頂いた。事務局としても、もとより参加者全員による「参加型」を心がけてきているところであり、今後の企画・運営に是非とも活かしていきたい。

(5) シニアネットがそこで活動しているシニアにとって「生活の中で無くてはならない存在」「自分の場所」「生きがい創造の場」となってきたことがアンケートによって、あらためて浮き彫りになった。多くのシニアにこうしたシニアネットの活動を知っていただき、ご自分のシニアライフを充実させる方策の一つに加えていただければと思う。本フォーラムの果たすべき役割の大きさを痛感するとともに、参加された方々がその成果をそれぞれの地域に持ち帰って頂き、多くのシニアに広めていただければと切望してやまない。

シニアネット・フォーラム 21 in 九州

プログラム

## メロウ・ソサエティ構想の推進

— 円熟した生きがいある豊かなシニアライフを送るために —

財団法人  
ニューメディア開発協会理事長  
岡部 武尚

只今ご紹介いただきましたニューメディア開発協会の岡部でございます。

本日、「シニアネットフォーラム 21 in 九州」を、ここ熊本市で開催いたしましたところ、このように大勢の方のご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

また、今回の開催にあたりましてまずもって初めにお礼を申し上げなければと思います。

経済産業省様、熊本県様、熊本市様からのご後援をいただき、またご来賓といたしまして大変ご多忙のところ九州経済産業局地域経済部長の中島英史様、熊本県副知事の村田信一様、熊本市長の幸山政史様にご臨席を賜りましたこと心よりお礼を申し上げます。

本日の基調講演でございますけれども、熊本学園大学学長の坂本正様にお願いをいたしましたところ、快くお引き受けいただきまして心よりお礼を申し上げます。

今回のフォーラム開催にあたりまして、ご当地の熊本シニアネット様をはじめ多くの方に大変なご協力をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

さて、今まさに世の中は、未曾有の経済不況の中にあるわけでございます。また、一方でそこに新たな政権の交代が起こり、その中で地域の強化と活性化が進められつつあります。このようにあらゆる面で社会や経済の環境が大きく変わり始めているところでございます。

一方で日本では少子高齢化が世界最速のスピードで進んでおり、65歳以上の人口が2,898万人ということで、全人口の22.7%に達しており、4.5人に一人が65歳以上になったわけでございます。紐解きますと1950年には、その比率はわずか



4.9%であったものが、将来2055年には41%になると言われております。

かたや少子化の方向もどんどん進んでおりまして、15歳から64歳までのいわゆる生産年齢人口と言われる層が、今後50年で46%減少すると予想されており、今後の日本の経済産業を支える上からも非常に憂慮されるところであります。

こういう中で、シニアはまだ第一線で活躍することが必要ではないかと思うところでございます。シニア自身もこのような中で、価値観がだんだんと多様化しておりますけれども、皆様におかれても意識あるいは生き方を含めて自らが変革をし、シニアが新しい文化や潮流を作っていくこと、社会を変えていくことが期待されているのではないかと思う訳であります。

一方、我々の関係するITの分野でございますが、ご承知とおりインターネットあるいは携帯電話がどんどん普及しております。最近ではクラウド・コンピューティングという新しいITの活用技術などが出現し、普及しつつありますが、こういう中で我々の日常生活の中においてもITの活

用によって更に便利になっていく時代になっております。我々シニアがこうした IT 化の中で社会から取り残されないように十分考えて、対応していかなければと思う訳でございます。

このような社会の大きな流れの中で対応するべく、私どもの協会ではかねてより経済産業省が提唱するメロウ・ソサエティ構想を推進しております。この構想でございますが、シニアが情報技術を活用し、円熟した生きがいある豊かな老後を送れるような、高齢者参加型情報化社会を作り上げるという構想でございます。

このシニアネットフォーラムもメロウ・ソサエティ構想の一環として平成 12 年に立ち上げ、今年 10 年目を迎えたわけでございます。多くの先進的なシニアネットでは 10 年の記念の年を迎えているところでございます。

現在のシニアネットの数ですが、全国で 118 団体になります。昨年に比較しますと 1 年で 11 団体増加しております。シニアネットで養成されますシニア情報生活アドバイザーでございますが、累計の資格取得者数が 3,800 名、現在アクティブに活動している方々が 3,000 名近くおられ、多くの方が全国で活躍されています。

ここ九州地区では、シニア情報生活アドバイザーが約 290 名で全国の 10%にあたります。この中で日本を代表するようなシニアネットということでは今回ご協力いただいた熊本シニアネット、あるいは沖縄ハイサイネット、それからシニアネット大分の 3 団体様、大体 290 名を 3 分しているのではないかと思います。ご承知のシニアネットの老舗でございますシニアネット久留米様、各地で活発に活動していただいていると理解しております。

九州各県には概ね 1 団体のシニアネットがあるようになりましたが、各県の活動にはまだまだ温度差が大きいのではないかと思います。今後、さらなる普及と活発な活動を期待したいと思うところでございます。

ご当地の熊本県でございますが、現在 120 名のシニア情報生活アドバイザーが県内で活躍されています。今回ご協力いただいた熊本シニアネット様におかれましては、会員数が 1,400 名になっていると伺いました。これは全国で最大クラス、最大規模でございます。

特にご当地におかれましてはシニアネット情報生活アドバイザー制度を活用いたしまして、熊本県様、熊本さわやか長寿財団様と熊本シニアネット様との共同によりまして、シニア IT リーダーの養成が行われており、修了者には熊本県知事様から修了証書が授与されるという、他の県では見られないような積極的な活動が進められております。誠に感銘の至りでございます、意義深いものだと思っております。

これからは正に高齢者がメジャーな時代になる訳でございます。シニアの方々はこれまでに培ってきた知識、技術、経歴を十分に活用し、社会に再び参加し貢献するとともに、シニアライフを楽しく、また豊かな生き甲斐づくりにチャレンジしていただく「シニアのチャレンジ時代」であると思っております。

私どものシニアネットフォーラムも愈々 10 年経ちましたので、第 2 フェーズを迎えつつあります。今やこれからのシニアネットの在り方を考えていくことが重要になっているのではないかと思います。

かかる観点から、今回のシニアネットフォーラムは、「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットはシニアの生きがい、シニアパワーを結集しシニアの輪を広げよう」をスローガンに開催いたしました。

熊本学園大学学長の坂本正先生からの基調講演のほか、パネルディスカッション、ケーススタディを行うとともに、シニアネット交流広場においては全国各地のシニアネットの成果、活動状況の展示によりまして交流の場を設けておりますので、皆様ぜひ立ち寄っていただきたいと思っております。

今日一日多くの方々と熱い議論と、相互交流を深められますようお願い申し上げ、また、今日の成果を日頃の新しい生活の参考にされるとともに、高齢化時代を豊かに生き抜いていただきたいと思うものであります。

最後になりましたが、各セッションにご出席されお話をいただく講師の方々、並びに遠路ご参加いただいた方々に対し、心より感謝申し上げます。開催の挨拶といたします。

## シニアの豊富なノウハウを活かす

— 高齢者の現役復帰を促す新現役チャレンジ支援事業 —

経済産業省  
九州経済産業局地域経済部長

中島 英史

皆さん、お早うございます。

私、九州経済産業局から参りました、地域経済部長の中島と申します。

本日は、「シニアネットフォーラム 21 in 九州」が、全国多数のご参加のもと、かくも盛大に開催されますことを、先ず心よりお慶びを申し上げます。

また、皆様方におかれましては、コミュニティビジネスを含めて、常日頃より経済産業行政にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げる次第でございます。

シニアネットについてですが、各人が持つ特技や興味のある IT を活用して、地域で元気に活躍されている高齢の方々が、この、シニアネットを通じて、地域の情報化推進ですとか街づくり、地域振興に重要な役割を果たしていただいていると聞いております。この場をお借りして、ご礼申し上げます。この場をお借りして、ご礼申し上げます。

皆様、ご承知のとおり、先ほども岡部理事長からもお話がございましたけれども、わが国では、少子高齢化が進んでおりまして、市場の縮小ですとか、生産年齢人口の減少、こういった問題が起きているわけでございます。当然、一方では高齢者の方々が増えて、社会参加の機会が比較的増えてきているという実態でございます。

全国での高齢化率は 22.1%と聞いておりますけれども、九州は平均で 24.67%ということで、全国でも高齢化が進んでいるというふうに思うのであります。

そういう意味では、これから活力ある社会を維持していくためには、会社を定年退職等で辞められたという方々にも、働ける間はいろんな意味で



社会的に活躍していただくということが非常に重要になっていると思います。

会場には団塊の世代の方もいらっしゃると思います。日本において技術の継承は大切な問題の一つです。これまでは団塊の世代の皆様が技術継承の役を担ってこられました。現在、生産現場等でこれまで頑張っておられた団塊の世代の方々が退職の年齢に達しています。定年延長等をやることで、今は何とか技術の継承が行われているわけですが、非常に危うい状態です。

経済状況の厳しさから、雇用環境が変化し、早期退職や再就職の難しさが現実問題としてあり、この技術継承の問題を一層難しいものとしております。やはり、そういう意味では、わが国におけるシニアの労働環境について、経済の影響は拭えないものと考えております。

経済産業省といたしましても、当初のメロウ・ソサエティ構想により、さまざまな形で高齢者の方々の社会参加、社会貢献というものを進めてきたわけでございます。新現役チャレンジ支援事業

でございますとか、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスの進行、こういったものを通じて、現役を一度退いた方々に、今まで持っている豊富なノウハウや技術を活かしていただいて、直接、間接的に地域や企業でこれをいかしていくことで、活力ある社会を維持していきたいというふうに思っている次第でございます。

一方、実は私、来年で80歳を迎える両親がこの熊本におりまして、私が子供のころに較べると、80歳といっても非常に若いと思うわけでありませう。それだけに、60代というのはまだまだ身体さえ元気であれば、頭もはっきりしておられて、社会に貢献できる状況であるというふうに考えてお

ります。

そういう意味で、経済産業省としても、そういう活動を後押ししまして、ぜひ、再度申し上げますけれど、高齢化を迎えても活力ある社会、活力ある熊本、活力ある九州、さらには、活力ある日本を維持する努力をしていきたいというふうに思っております。

最後になりますけれども、本日開催されております「シニアネットフォーラム 21 in 九州」のご成功を祈念いたしますとともに、本日ご出席の皆様方のますますの、ご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。どうもありがとうございました。

## 来賓挨拶

# いきいき百歳に学ぶ 高齢化社会を恐れずに生きる3つの視点

熊本県副知事 村田 信一

皆様、おはようございます。私、熊本県副知事の村田と申します。

先ずは、全国から今日のシニアネットフォーラムにご参加いただきました方々に、心から歓迎を申し上げます。火の国・熊本へようこそお出でいただきました。

そして、皆様方、特にシニアの方々によるITを活用した社会参加、あるいは地域社会における社会貢献といった場面において、大変お骨折りいただいていますことを心から感謝申し上げたいと思います。

今もお話がございましたが、実は全国でだいたい5人に一人というふうに言われております高齢者、65歳以上の人口が5人に1人と言われておりますが、九州熊本はだいたい大雑把に言うと4人に1人という形になります。特に、熊本はたいへん長寿の県でございまして、私の記憶が間違っ



なければ、女性は全国2番目、男性は全国10番目の長寿県でございます。

この9月でしたか、100歳以上の方が熊本に951人おられまして、そろそろ1,000人を越えるかなという数字でございますが、非常にお元気なご様子の方々がたくさんいらっしゃいます。



## ● オープニングセッション

私、よくこういう場でお話しさせていただくのですが、いつも100歳以上の方々にお会いすると、三つのことに気がつきます。

一つは、手作業、手を動かすことを何かされていますね。熊本にある肥後手毬をお作りなるとか、雑巾を縫われるとか、竹箆を作るとか、そういうことをされておられます。

二つ目は、チビリチビリお酒をたしなまれる。私のようにガバガバ飲むというのではなくて、朝からでも飲んでいらっしゃる。いわゆるストレスのない、気をゆっくり持った生活をされている。

三つ目は、先ほどの手作りの話にも関係しますが、社会的あるいは家庭的な役割を担っていらっしゃる。例えば、雑巾を縫う方は、雑巾が貯まったら近くの小学校に寄付される。手毬もお客様のお土産に差し上げます。ご自身の家庭の中で一番朝早く起きて一番先に新聞を読んで、というようなことをされるそうです。

そういう三つの視点というのは、健康に高齢化というものを恐れずに生きて行くという証しかと。そういう意味で皆さん方がパソコンのキーを押されるというのは非常に指先が働くわけで、あるいは常に頭を使うという意味でもいいのではないかな、というふうに思っております。

そういう中で先ほどの65歳以上というのが、高齢化の法律的な分かれ目になっているようですが、100歳までの35年間、特に少子化が進む中で、おちおちと歳取りましたと言っておれない時代になりました。

今、蒲島熊本県知事のもとでは、高齢化になることを恐れない「長寿安心熊本づくり」ということを言わせていただいております。

そういう中で、シニアが主役での地域づくり、あるいは物づくりに関わりを持っていただくことが非常に大事ではないかと考えており、正に皆様方がそれを実践されておられるのではないのでしょうか。

ITといった切り口の中で、県としてもいわゆる情報通信技術を活用した、そういう能力向上をサポートさせていただき、生き甲斐づくりを進めて行こうと考えております。

長寿大学、いわゆる「熊本さわやか大学」と言

いますけれども、大変盛んであります。最近では、大学院まで作ろうというふうな動きまで発展をいたしております。

実は先日、熊本である学会がございました。医学の学会でございますが、遠隔医療学会というもので、本日配られた資料にも遠隔医療というものが載っております。遠隔地の遠隔、遠隔操作の遠隔ということだそうではありますが、正にITを使って診療する医療過疎の対応にも非常に効果があるということで、特に、北海道を中心に全国に広まっております。

そういう意味合いにおいても、ITが医療・診察・診断に用いられているというふうな状況の中で、皆様方の活動もまた一つ意味合いが深くなるというふうに思っております。

いろいろなことを申し上げましたけれども、そういう意味ではシニアネットの活動そのものが、今の社会のいろいろな問題の一つの打開の方策としてあるのではないかなと思っておりますので、ぜひ盛り上げていただき、行政も一緒にやらせていただきたいと思っております。

宣伝を少し……。熊本に新幹線が開通いたします。もう一年半後に迫って参りました。途中新幹線の高架をご覧になった方もおられるかもしれませんが、博多まで約35分、大阪までは約3時間で繋がります。

ちょうど2年後の10月、熊本で健康福祉祭・ねんりんピック熊本が開かれます。選手、役員等が全国から約10,000人がお出ででございますので、またそこでも一賑わいしていただければな、と言うことで今準備に入っているところでございます。

何でもかんでも喋ろうと思って、ちょっと盛り沢山過ぎましたけれども、その中でもぜひとも皆様方の活力を期待させていただきたいと思っております。

最後になりましたけれども、財団法人ニューメディア開発協会、それから全国のシニアネットのますますのご発展をお祈りいたしますとともに、今日の参加者の皆様方のご健勝を心から祈念をいたしたいと思っております。

## 熊本からホップ・ステップ・ジャンプ シニアネットの全国展開を願う

熊本市長 幸山 政史



みなさん、おはようございます。熊本市長の幸山と申します。

熊本市で九州全体の会議を開催していただいたこと、地域の活性化にも繋がるということで大変ありがたく思っております。九州からお越しの皆様方、あるいは九州以外からお越しをいただいているようでございますが、多くの皆様のご来熊を心から歓迎申し上げたいと思います。

どうぞ今日の一日間、みっちり日程が詰まっているようでございますので、十分にこの研修を深められてくださいませ。お話では全国で100を超えるシニアネットが出来ているという事でございますので、更にそれぞれのシニアネットが活発になりますことを、そしてまた更に全国へ大きく展開されていきますことを心から願うものでございます。

私の役目としては、やはり少し熊本市の紹介をさせていただきたいと思っております。熊本市、現在68万都市でございますが、来年の3月には2町と合併いたしまして約73万人の新都市として新たにスタートする予定になっております。

1年後には先ほどお話がありましたように、九州新幹線がこの熊本にもやっております。更に

その1年後の2011年(平成24年)には先ほどの合併を契機といたしまして、中核都市から政令指定都市への移行を目指すことになっております。地方都市はどこも厳しい環境にあります。この熊本の地でもホップ、ステップ、ジャンプと、元氣を出して頑張っているところでございます。

熊本といえば、まず熊本城でございます。もう足をお運びの方も多いかもかもしれませんが、一昨年、築城400年を迎えました。そして、それに合わせる形で熊本城の復元を着々と進めてまいりました。昨年その目玉としての本丸が完成いたしました。昨年1年間で200万人を超える皆様方にお越しをいただいたという事で、現在でも大変な賑わいを見せているところでございます。

このお城の復元は市民の皆様方、全国の城主の皆様方によって支えられているものでございます。「一口城主」という制度を設けまして、ご寄附をいただいて、これを復元に当てている取り組みであります。全国各地に今5万人を超える城主様がおいでになられます。

これは決して勧誘ではございませんが、まだ城主になっておられない方がおられましたら、熊本城を観覧するだけではなく、ぜひとも城主様になれることをお勧めいたします。城主様になっていただくと、お城の中だけではなく、この街中を歩きますと、いろいろな所に城主様だけの特典がございます。どうぞこのような楽しみでも、熊本に足をお運びくださいますようお願い申し上げます。

シニアネットと全く違った話になってしまいましたが、「シニアが変わる、地域が変わる」誠に私も実感している所でございます。皆様方のご来熊を心から歓迎いたしますとともに、皆様方のご活動がさらにご発展されますよう心から願ひまして、私の挨拶にかえさせていただきます。



## 高齡社会におけるアクティブシニアの新しい生き

— シニアならではの新しい文化を創り、社会の主役に —

熊本学園大学学長

坂本 正

### 【熊本シニアネットとのかかわり】

皆さんこんにちは。ご紹介をいただきました地元熊本学園大学学長の坂本でございます。今、副知事と市長から熊本についてのお話がありました。私も地元の大学学長ということで、今日何故ここに立っているのかということでございます。実は「熊本シニアネット」の立ち上げの時に、私どもの大学院の関係者がいたということでございます。教員と院生の関係者ということで、本学の大学サーバーが立ち上げの時にお手伝いをして、今もなお私どもの大学のサーバーとの繋がりがございます。

今日、本学でその事情を知っている人はほとんどいないのですが、学園大と熊本シニアネットとは立ち上げから今日まで一体化しているということで、私は呼ばれているのだろうなと思っているところでございます。さらに、現在代表をされておられます中島さんは、本学の卒業生であります。私ども、以前は熊本商科大学とっていました。その時の商学部を卒業されておりまして、同窓会でもずっとご活躍でございます。中島代表とは永いお付き合いで、そんな関係からも熊本シニアネットには何度か呼ばれて、お話をする機会がございました。

今日は、全国のシニアネットからのお集まりで、いろいろな体験談が発表されるとのことです。私の方から申し上げることはないようにも思われますが、私がただひとつ強調して申し上げたいことは、熊本シニアネットを訪れると、皆さん楽しそうだなという点です。沢山のサークルがありまして、写真を撮る人、山に登る人、これは何の会だろうというほどに多彩です。

懇親会の時に会員のお話をうかがうと、サーク



ルや趣味について、話に花が咲きます。これが本当に楽しそうにおやりになっています。お顔を見ていると社長さんであったり、前の大学の先生であったり、お医者さんであったりで、偉い人がずらっとおられますが、その偉い人というか社会的にいろいろな地位にあった人も、普通に來ている市民の人も全くみんな同じ立場で、同じように楽しんで、同じように「〇〇さん付け」で話をしています。

### 【シニアネットは市民社会】

つまり、私ですと大学の学長ですから学長という肩書になりますが、シニアネットの場合は「坂本さん」でしかない。皆、平等でやっています。そういう意味ではシニアネットの世界は市民社会なんだなと、この点が一番いいところだなと思います。

シニアネットに入るまでは社会的な肩書であったり、女性はお母さんと呼ばれたり、名前と呼ばれることは少なかった。働いたことがなくずっと専業主婦をなさってきた方などは、子供の名前

で呼ばれたり、旦那さんの名前と呼ばれたりして、どうしてもなかなか自分というものを前に出す機会がありませんでした。

あるいは、我々も大学の教員をやっていると、多少の幻想というのがありまして、先生と言われて何でもできるような気になりますが、家へ帰ると全く別です。私は金融論が専門です。さぞかし金儲けできるだろうとなりますが、私は一億円以上の金の計算はしないことにしております。つまり家庭のことはできないということになる訳ですが、大学に行けば学長といわれ、それなりの待遇をしてもらえます。

しかし、シニアネットに入って皆で助け合うとなれば、全く平等になります。片意地張ってやることもありませんし、どんなに社会的に地位が高くとも関係ありません。さらに、社会的に地位が高い場合は、パソコンやインターネットを使っていない可能性があります。周りのスタッフが全部やってくれますのでね。私が金融論という学問をやっていて一番面白かったのは、銀行の重役の中には自分の口座からお金を引き出せないとか、送金の仕方が解らないといった人がいたことでした。今さら誰にも聞けないような、当たり前のができないという笑い話です。そういう人が退職して社会に出て行った時には、改めて教わらないと、普通の市民生活ができない訳です。

その点、シニアネットに入った場合、そんな心配はありません。先にやっていた人が経験者、後から来た人は経験の浅い後輩という、シンプルな関係でしかないからです。後から入った人は教わりながら仲良くやればいい、それだけです。

### 【 熊本は超高齢化社会 】

今日は、村田副知事からも熊本の動向という話がありました。熊本は超高齢社会ですから裏返せば長寿の県だということにもなります。では、長生きをしてどういうふうに住生活をしていくのか、その課題に多くの市民が直面しております。今、県の政策でいろいろな町村合併を急速に進めています。これは一つの成果ですけれども、その反面、過疎化も進んでいるということになります。

現在、熊本市は政令指定都市を目指しております。この指定は大変難産いたしましたして、政令指定

都市周辺の町村が参加をしないと指定の要件がクリアできません。やっと今クリアしつつあります。まあそういった意味で大規模な都市圏になるのですが、その熊本市を中心とした都市圏を外しますと、いろいろな形で高齢化が進んでいます。

### 【 ネットワークの意義 】

今日、熊本シニアネット天草支部からも報告があります。注目していただきたいことは、天草が熊本から少し離れているということです。このように地域が広がった時のネットワークをどのように作って行ったらよいか。県もそれをいろいろな形でやってはおりますけれども、行政がどういう役割を果たしていくのか、まだ模索中であると思います。

その中で着実に成果を上げているものの1つがシニアネットだと私は思っています。今までの流れの中で、ネットワークをどこまで高度に使い切っているかは別としても、既にネットワークが存在しています。ネットワークがないがために話し相手がなくて孤立をしている人たちがいます。

以前ですと、家の中には必ず誰かがいました。子どもや孫がいて、「じいちゃん、ばあちゃん」をどうしようという話がありました。年寄りに多少記憶の衰えがあったり判断が鈍ったり、身体が弱ってきて、多分家族の中でどう面倒をみるかという役割分担があったと思います。ところが、子供が出て行ってしまふ。あるいは孤独な生活をしないといけない。本人は頑張っているつもりでも、仲間がだんだん周りにいなくなる、という状況が目の前に来ています。

そうなる前、皆さんがまだ元気な内にネットワークをつくっておけば、定期的に通信ができるということになりますよね。決して高度なネットワークが必要なわけではありません。連絡が取ればいいだけのことです。この繋がりをどういうふうに作っていくのかが、最初、一番大事なことだろうと思っています。

私自身は熊本の出身ではございません。岡山県の倉敷市で生まれ育ちました。そこの高校の同窓会が福岡市であり行ってきましたが、東京の同窓会と岡山、福岡の同窓会それぞれに特徴があります。卒業後は東京進出者が多いので、若手がどん

どんいなくなる。それはいいのですが、世代間のバランスが取れてないとコミュニケーション・ギャップが生じます。40代前後の人が中心になった同窓会では、高齢会員から「なんとかならないか」という話があったそうです。

ここにいる皆さんは問題ないのですが、同窓会で写真を撮りましてね、「メールで送りますので開いて見てください」と言われた。ところが「写真は送ってくるもので、今さら開いてくださいと言われても困るよ」という意見が出て、同窓会の中で大騒動になったそうです。パソコンを持っていない人には、受け取ることすらできないわけですからね。

連絡は全部メールで済んでしまう。これからはそういう時代なのでしょうが、パソコンを扱い慣れていない人にはギャップがあって、そこだけでデジタルディバイド(情報格差)が起こってしまう。これは金銭的なあるいはいろいろな意味でのギャップとは異なった、情報ギャップというものが起こっています。今はその繋ぎの部分の埋めていくことが大切な時代だと思っています。

コンピュータがいろいろな端末を使って便利になるという時期、携帯電話でこれから写真が撮れそうだという時期に、大騒動しながらシンポジウムをしたことがあります。ずいぶんと前のことですが、やっと端末を引いて、極端に言いますとホワイトハウスにアクセスして犬の鳴き声を聞いて、それがニュースになるような時代でした。

これからの時代をどういうふうにやっていけばよいのでしょうか。基本は情報を取ること、情報を発信していくこと、それからいかに連携するかです。デジタル機器はコミュニケーションをしていくための新しい手段だといえます。

### [ 情報量と地域格差 ]

熊本県の課題は、九州の中での超高齢化社会であると同時に、コンピュータの普及率あるいはその教育の内容ということになります。やはり小学校・中学校レベルでは低く、全国平均からいけば低い位置にあります。

本学も地元で大学教育をしています。実は情報教育が一番難しい。東京との地域格差なども、多分入学者の家庭環境とか学校教育の差から生ま

れるのでしょうか。本来初等教育はあまり時間をかけなくてできるはずですが、パソコンに触ったことのない学生がいて、それをそのまま進んでいくと、授業に付いていけない、就職の情報が取れないという学生が出てきます。できる学生にとってはパソコンを使うことは当たり前のことですから、そのギャップがそのまま実は地域の差、情報力の差となり、後々、就職の時の差に繋がって行く部分がございます。若い世代のところでさえ我々が苦勞しているのですから、シニア世代はもっと大変だと思います。多分これからのシニアは情報の取り方、あるいは街づくりの参加の仕方、お互いの相談の仕方という分野について、デジタル機器を使わざるを得ません。その意味で道具としてのパソコン教育を急速に進めていかなければならないだろうと思います。

私はインターネットを使い、メールでやり取りをするという行為が、やっと成熟してきたなと思っております。地元で「アースウィーク熊本」という環境運動がございます。ノーマイカーであるとか、いろいろな自然環境保護のことで、県内の環境団体が集まっておりまして、その代表を務めて15年以上になります。最初のころ、市民グループの人たちが集まると、侃々諤々の議論でした。電話とファックスはまだしも、都合の悪いことにメールとなるととどンドン来るのです。皆さんも経験あると思いますが、ファックスは夜中にガタガタ鳴って大変なのですが、メールに至っては2時、3時頃に送っています。朝起きたら大量に届いているのです。

しかも打っている人は熱中していますから、議論しているとだんだん攻撃的になって、読むとお互い喧嘩になってしまう。顔を合わせていれば遠慮もあり、理解もし合えます。それが10時頃に会議を解散して、すぐに寝ればいいのですが、興奮してそのままパソコンに向かってメールを打ちますから、かなり言葉が過激になってしまうのです。

見た方は腹が立ちますから、返信はさらに過激になってしまい、結局どこで収拾するかということ、ある時期に皆さんに集まっていただいて、私が仲立ちをして手打ちをするということになります。一つの言葉で譲れない。こういうことは起こりが

ちなことです。

**[ 人間関係とコミュニケーション ]**

それを埋めていくのが人間関係で、コミュニケーションが必要と思います。

メールはすべてではありません。時に、そういう形でどうしても攻撃的になります。

メールはあくまでも伝達の手段であり、あるい



はコミュニケーションを円滑にするための情報といえます。あるいはこれは情報リテラシーの問題になりますけれども、それを当然送って行く場合の節度の問題でもあります。基本的には、会が大きくなり成熟してまた新規の人が入ってくる時に、常に起こってくる問題だと思います。

また、いろいろな意味で立ち上げをしている時にもそういう話が起きます。大学でも職場でも弊害は当然ありまして、直接会ってのコミュニケーションをしなくなります。これが一つの弊害です。なんでもメールで済まそうという風潮になってしまいます。同じ職場で背中合わせなのに、メールで連絡しているわけです。直接顔を合わせて言えば済むことなのにです。メールで送れば時間がかかってしまう。誰もがものを言わなくなってしまう。コミュニケーションの基本から外れてくるのです。

そういう部分の弊害を埋めていかないと、IT社会の中の健全性とコミュニケーションの問題は解決しません。ひいては就職の時に悩む問題となるのです。学長として就職時の基本的な問題として思うのですが、保護者の方に「就職どうしたらいい

のですか」と聞かれます。「それは勉強をすることです。そしてちゃんと力を付けることです。サークル活動をやって瞬発力をつける。あるいは判断力を付ける。でも最後は目上に対する挨拶と礼儀だ」と。これができないと社会的なコミュニケーションはできません。お母さん方に「どうしたらいいんですか」と問われて、最後の決め手は「お母さん、家庭での躾ですから、ちゃんと電話かけられますか？ 手紙に何々様とちゃんと書けますか？ 箸はちゃんと持てますか？」と問いかけ直すことになります。箸の持ち方というのは、これ自体は人間形成に直接関係はないにしても、総合力ではいろいろな判断材料になります。

ある企業の就職試験で本当にあった話です。応募者を集めて食事をさせてみて、箸の持ち方があまり上手でない人は外したそうです。ここにはそういう経験者はいらっしやらないと思うのですが、これも一つの基準であり、人間観察法といえます。就職では総合力の基本を問われますのでね、やはり、コンピュータの使い方をベースにして、人間性の基礎がないと就職は難しいと、親御さんにはいつも申し上げています。

これからの社会は、今までの日本が持っていた文化と伝統、礼儀作法であるとか目上の人に対する接し方が、いっそう重要視されるでしょう。私も言葉遣いが少々荒っぽいので苦勞はしております。これは熊本の特徴でもございまして、初めて接した時に言葉は少し荒いかも知れないが、情の深いのが熊本だということで、これからもお付き合いいただきたいと思っています。

**[ 環境に取り組むボランティア活動 ]**

私、熊本でいろいろな活動しております、いつも凄いと思うことがあります。それは皆さんが熱心にやっておられる点です。

実は別のグループに「道のフォーラム」というのがありまして、これは自治体にもお願いして、市民グループの人が道を大事にする活動をしてい

ます。全国で行われている活動の中でも熊本が誇るべき活動であると思っております。景観、街道を綺麗にする、重視するという事では、阿蘇と大分を繋げた景観の道づくりをやっています。この基本は清掃です。自分の住んでいる所の道、使っている道、国道、県道、いろいろな道路がありますが、里山に近い所の道も含めて、どういう道づくりをやっていくのかということで、「道守くまもと会議」もつくっております。

そこでは各地区の人たちが朝からちゃんと清掃する、花を植える、本当につまみいんですね。花を植えていますが、県の助成金が出て花の部分だけお金が出たとします。ボランティアですから、花代が出たということで花を植え、水をやります。実は行政のやることは大したことではなく、ほんの少し花代をサポートすることでしかありません。大事なことは花を植えた後の手入れです。そのネットワークづくりが肝心です。そういう事情に気付かず、行政が大上段に構えると、業者に委託するという事になり、お金がかかります。

その点をクリアして花を手入れするネットワークづくりに成功したとしても、もうひとつ問題があります。道によっては手の出せないところがあるのです。自分のところの道はいいのですが、少し先に行くと県道になったり、国道になったりします。管轄外になると手が出せません。

ここの草を刈らして欲しいと思っても、事故が起きたりすると行政は責任が大変ですから、管轄するところが許可しないこともあります。所管では業者にやらせるのですが、お金がなくなってくると、草がぼうぼうになります。熊本にも東バイパス国道 57 号線があります。ここの緩衝帯の中にはちゃんと木が植えてありますが、放っておくとすぐに草がぼうぼうになります。以前は予算を付けて草を刈っていましたが、予算がなくなると年に 3 回が 2 回になるので、当然、景観は悪くなります。しかし大きな国道ですから勝手に入ると事故になる。どういうふうに草を取ったいのかです。許可を取れたら草取りしますよという人たちは沢山いるんですがねえ。

危険の伴わない県道のところでさえあれば許可をもらうことができ、私たちは責任もって草を取ることができます。しかも、ボランティアで無料

です。現在は、行政と協定を結び、危険に対する保険を掛けた上で契約、範囲を決めて草取りをしております。凄いなと思います。朝起きて清掃する人もいれば、グループを組んでやる所もあります。この建物のすぐ近くにロータリーがありますけれども、角々に花壇があります。本当は毎年植えておける花にしておきたいのですが、どうもそういう訳にはいかなくて 1 回 1 回植え替えなくてはいけないことになっています。

手が掛かるのですが、実はあそこの花壇も道守会議の人たちが、県の協力を得て花を植えています。で、その水はこの周辺の百貨店、銀行や不動産会社など、地元にお店を出している人たちが、夏場、みなで水をやりましょうということになりました。そんな話を地元企業として、発会式を行い「お水をよろしくお願いします」ということになっています。

### 【 ネットワークとボランティアが街を支える 】

町を綺麗にしていくことを 1 つ考えても、いろいろな形でのネットワーク、ボランティアがこれからの街を支えていくのだと思います。

皆さん方もそうでしょうけれども、関わり方はいろいろある訳です。意識的に町づくりをし、あるいは高齢社会に必要なサポートをいろいろやっていかなければいけないのに、なかなか情報が集まらない。認知症のような症状を抱えている家族をどうサポートするか。以前であれば地域との繋がりがありましたから、認知症の軽い症状の時にはそれほど問題なく、症状も悪化しない訳ですが、それが孤立すると悪化してしまいます。つまり、人は他の人々に認知されていないと、自分の場所がないに等しい。他人によって確認がされない時に、一人ぼっちになって症状が当然悪化していく訳ですから。そういう時の連絡網であるとか、声かけであるとか、そういうものも地域の中で作って行かねばならないという課題が、熊本にも沢山ございます。

アクティブに活動されている方が、日常生活の中で、自分の楽しみとしてサポート活動をするというのが一番ではないでしょうか。余裕があれば、周りにちょっと目を向けてみるとか、あるいはちょっと声をかけてみる。別に最初は IT とか難し



いこと言わなくても声かけでいい訳です。実は IT を誰が一番よく使っているかといえば、私の周りでもアクティブシニアです。時間があるので一生懸命練習できますし、頻繁に情報交換もできます。ある意味で代代的にいうと、シニアの質の高さは他の世代と比較しても群を抜いているのではないかと思っています。ただ、どこでもギャップはある訳ですから、それは埋めていかななくてはなりません。

元気な方は当然趣味を生かしていく、あるいは自分が今までできなかったことを始める。入ってきたときの条件は、先ほどシニアネットも第 2 世代といわれていましたけれども、やはり市民としての本来の在り方、今までの社会的な背景は本人の知恵とか経験の中に体现されている訳ですから、得意な分野を生かしていけばよい。それをどういう風にコーディネートしていくのが、非常に大きな道になるのではないかと思います。

### 【 経済大不況下の時代到来 】

今は経済状況が非常に厳しいです。社会的にいうと 1~2 年厳しいと思います。

私は学問の領域では金融論、金融制度論が専門です。流れからいうと、この間のサブプライムローン問題から始まった金融の危機の話、経済大不況の話が専門領域で、今度、徳島大学で学会がございまして、そこでも報告する予定にしております。

歴史は繰り返しており、今の経済不況も深刻なのですが、1930 年代に起こった世界大恐慌の再来と、簡単にいえば捉えていいと思います。人間は成長しないものだな、というのが私の実感です。1930 年代は大不況があって、ルーズベルト大統領の下で共和党から民主党に変わりました。これは本当に不思議なのですが、大恐慌とか経済不況の引き金といいますか、その時の政権は何故か共和党なんですね。経済拡大してどんどん規制緩和もしてという状況、実はアメリカの 1920 年代も同じような状況でした。

大不況になって、大変苦勞してフーバー大統領からルーズベルトになりました。ルーズベルトは偉大な大統領ですが、当初はそんな評価があるわけではなく、とにかく共和党は駄目、民主党であ

れば誰でもいいという中での選挙でした。従って、ルーズベルトも民主党の党首に選ばれるまでは、大激戦を勝ち抜かねばなりません。ニューヨーク州知事をしておりましたけれども、やっとのことでルーズベルトが大統領になりました。

その時の改革案というのは、フーバーがすでに作っていたのですが、それを更に徹底してニューディール政策という形に組み上げました。

ルーズベルトが大統領就任後にすぐやったことは、バンクホリデー（銀行休日）、つまり銀行の全国閉鎖でした。銀行閉鎖をして解除するための法律を作り、それから徐々に潰すところは潰す、生き残っていく銀行は生き残っていくというふうに変別をします。その後にできた RFC（復興金融公社）というのは、これもフーバーが作っていた組織ではありますが、公的資金を銀行に投入いたします。

聞いてきたような話でしょう。すごく新鮮に聞こえます。オバマ大統領になってグリーン・ニューディールという話があります。あの時より深刻なのは、大手の投資銀行がバタバタ倒れている点です。アメリカは、いま大手金融機関が潰れていますが、当時はそれほど潰れていません。つまり、現在の方が深刻だということになります。

どこが違うのか。現代の金融機関は、証券化商品、つまり証券化した金融商品を作って、仕組みを更に複雑にしてしまった。その分だけ回復は難しいと思います。採っている措置は、先ず銀行に対する救済です。このことはあまり言われていませんが、銀行を立て直すことからアメリカの不況回復は始まります。

今やっているのもルーズベルトの頃と同じです。アメリカの経済不況を占うやり方は、金融機関がどこに金を貸しているかです。基本的にはサブプライムローン、つまり住宅のバブルが弾けました。この住宅ローンが回復するかどうかです。で、この住宅ローンは、社会の底辺で生活していた一番金を持っていない層に金を貸したんですね、アメリカの銀行は。

これがサブプライムローンのポイントです。最貧困層に銀行が無理やり金を貸して、その貸したということで信用を増やし、さらに全部借金で家を建てさせた。たとえば最初に 1,500 万円貸して、

その信用のもとに1年たったら住宅ブームで3,000万円に価格があがります。その時、金利はゼロだった。1,500万円位の差額の支払い部分の借金を取り除くと、実は計算上、何百万円かは名目上資産として残る。その信用で追加融資を行う。そういうからくりでアメリカの金融機関は貧困層にも資産があると認めました。

そうなると地価は上がります。本来、砂上の楼閣にできた価格ですから、実質的な資産ではありません。それを資産として認めて、銀行は金を貸しましょうという。ちょっとインチキ臭いのですが、たとえばそれで融資を引き出すこともできる。そういうことをやったので、実は金がなくても土地、住宅を買えば資産が増えるというトリックを作って、金をドンドン貸したのです。でも、いつまでも無利子では貸せません。そこで、3年位たったら金利が上がりますよ、という話にしました。

極端なゼロ金利で金を借りても、3年目の時には10何%の利子を払わなければいけない。そんな支払いができるはずもないけれど、価格が上がっている内はまだなんとか自転車操業ができます。でも、価格が下がったらパンクし一気に潰れます。

日本も住宅金融の10年物が、今ちょうど返済の時期に掛かっています。変動金利を使った方は苦労していると思います。

このからくりだけなら返済できなくなった人は、日本と違って破産すれば借金は棒引きになりますから、路上生活するというで非常に悲惨な社会問題ではありますが、サブプライム問題は落ち着きます。ところが、現代の金融機関は、そのプライムローンのリスクを証券の中に組み込んで、立派な金融商品に混ぜ込んで売ってしまった。そうなったらもう解りません。綺麗に混ぜ込んだので、そのリスクが入っているかもしれないし、入っていないかも知れない。

金融商品を買う側もバカではありません。このからくり気付くと、買った側は不安でしょうがないということで、世界中で商品化証券が大暴落。リーマンショックになりました。1930年代とはこの点が違うところです。

従って、これからの経済を占っていく場合、住宅の価格がちゃんと戻って行くのか、という点に注目しなければなりません。今住宅の価格は少し

戻っています。しかし、借金が返せない人が増え、滞納率が増えている。

サブプライムローンということだけではなくて、良質のプライムレートで借りた人たちの滞納率も増えています。何故かという経済不況で、失業者が増えているからです。失業者が増えれば当然支払いができなくなるので、悪循環はまだ続きます。アメリカは公的資金を入れて、銀行に対してもいろいろ検査をして大丈夫だと言われていますが、今大丈夫だと言われて公的資金を返しているのは2社しかない。後は厳しいのです。

我々は良い情報を見ながら飛びつかなければなりません。

アメリカは開国始まって以来の財政赤字、大変厳しい状況がこれから続くと思います。我々も学生は就職難で大変厳しい状況にあります。しかし、シニア世代の皆さんはこんなことは言わないと思います。これは、私のあくまで感想ですが、周りの年金を貰っている人たちは、こんなふうに思っているのではないのでしょうか。「私たちはちょうどよかね。年金はちゃんと入ってくるし、就職の心配もしなくていい」と。皆、孫の就職を心配しています。そして、自分の子供たちが、何時首になるかわからないと、心配でしょうがない。

でも、自分たちは今安定している。もしかしたらシニア世代が今一番安定しているのかもしれない。私の周りではそういう人たちの元気な力や知恵、あるいは精神的な部分でも、非常に大事になってくるということを申し上げたい。この間まで正しいと言われていた経済のシステムが壊れた。規制緩和がいいとって壊れた。政権交代が起きてしまった。どれが成功体験でどれが正しいか、分からなくなってしまった。しかし、はっきりしているのは、皆さん方が培ってきた知恵と経験、これは間違いない。政策を間違えたり仕組みの作り方を失敗するという事はありますが、しかし、そこで培った経験と知恵は自分のものです。

経験と知恵は自分の財産です。この活かし方、いろいろな形で皆さんは使われています。国際的な観点から言えば、その伝統であるとか熟練の技、企業がもういらぬよ、といえは農業であれ、あるいは旋盤の技術であれ、大工さんやっている仕事であれ、請われれば皆さん海外に行ってボラン

ティアで、あるいは就職をして活かす道をいろいろ考えることができます。さらには地域で自分ができることを無償で伝承するというのもおやりになっています。コミュニティビジネスは、大きな話ではなくても、活性化に繋がる道といえるでしょう。

大型店が店舗展開をすれば地元商店街は疲弊していきますが、今までとは違う形でのサービスが考えられます。宅配サービスをするのか、それは IT を使って連絡をして、きめ細かい宅配サービスができるようになっています。実は、これは昔から日本がやってきたことなんです。御用聞きです。

昔から日本がやってきたことを、ある時期にはしなくていいよというふうに言った時代がありました。しかし、人情であるとか、生活に必要な状況が生まれているわけです。あるいはその考え方や商売の仕方が町を越えて海外に出て行き、それが現地で役に立てば企業収益を高めることになりまして、ひいては日本の評価も高めています。

### 【 学園大卒業生とネットワークの活性化 】

いま、熊本のシニアネットは全国でも有数規模だと言われて大変嬉しく思っていますが、私どもの学園大も 67 年の歴史があります。何故シニアネットに我々がいろいろな形でかかわるのか、あるいは何故我々が環境問題であるとか、道の問題に携わるのか。これは地元の大学で卒業生が沢山いるネットワークだからなのです。どこにいても実は卒業生がいます。商学部、経済学部、外国語学部、社会福祉学部、我々は元々語学専門学校から始まっています。短期大学があって商大、学園大と来た訳ですが、その短大を 4 年生にして短大の人たちから恨まれました。短大がなくなると。しかし、4 年制になって社会福祉学部とか外国語学部の生徒が入ってきた。

今日、コーディネーター役の花田昌宣氏もフランス帰りの当時は粋な男だったのですが、今はす

っかり熊本の人間になってしまいました。その彼が学園大学の社会福祉学部長をやっている時に一緒に九州を回ったことがあります。どこに行っても卒業生がいる、その繋がりですね。その時、熊本に来て日の浅かった彼にも、学園大に対する帰属意識が一気に生まれました。伝統というのはそういうところから生まれるのだと思います。

繋がりというのは、OB が居て地域の人に支え



られて初めて生まれるものです。長くいけば伝統が生まれる訳ではありません。コミュニケーションを取った時に、伝統は初めて継承される。本学の教員の大半は県外出身ですが、しかし、我々は学園大の 67 年の歴史の上にいるわけで、何処に行っても先輩、後輩が支えてくれているわけです。これはネットワークの基本だと思っています。この繋がりを基盤にして、地域に貢献するということも含めていろいろな試みをしております。

一つは会計の専門職の大学院（アカウンティングスクール）をこの 4 月につくりました。公認会計士の養成です。東京では珍しくなく、大阪にもあります。しかし、西日本以西、岡山以西では初めての会計学の大学院で、いま学生は北九州からも通っております。

もう一つは 4 年前に商学部でホスピタリティ・マネジメント学科をつくりました。これからの時代はおもてなしの心、ホスピタリティがなければホテルも銀行も仕事ができないということで、ホスピタリティ・マネジメント学科を持っています。東京のある大学でも同じ学科を今年開設い

たしました。熊本の新聞にも載りました。観光戦略にあわせた新しい学科構想である。熊本にもあるよ、と。実は本学が日本で最初なのです。今年卒業生を出しました。地域で人を育てるといのはそういうことかなと思っています。

### 【これからの福祉構想(社会福祉の在り方)】

その中で今一番力を入れているのは、社会福祉の在り方、社会福祉学部も福祉環境学科、子供家庭福祉学科をつくり、今年はライフ・ウェルネス学科を作りました。ライフ・ウェルネスとは、要するにちゃんと皆が健康に生きていくための学科だということです。

福祉の中にスポーツとか健康というものを織り込んで、これからの未来社会は環境と同時に福祉だと。遠からず日本は福祉、健康都市宣言をすることとなる。ドイツをはじめ、ヨーロッパではすでに始まっている動きです。

高齢社会になって地域をどう再生していくのか、人材をどう作って行くのかという時に、まず転倒防止であるとか、健康体操をするために、行政はいろいろな運動施設を作っています。しかし、サポートする人が居ません。

町に大きな施設はあります。健康器具もあります。しかし、指導する人がいない。人を雇うと金がかかる。行政に人件費までは出せません。「こうすると良いですよ」。「このメニューでは体を壊します」。「このやり方では、すぐ膝が痛くなりますよ」。「プールの中をゆっくり歩いてください」などなど、経験のない人たちではこのような指導はできません。

従って、我々高齢者であるとか、あるいは身体が不自由になっている人、そういう人たちと一緒にプログラムを組む、あるいはアスリートとして頑張るスポーツ選手を育てて行く人材を育てるのが、これからの時代なのです。

この我々のライフ・ウェルネス学科というのは、いろいろな大学でも作り始めています。ふつうはスポーツ系、あるいは教育学部系が作っています。福祉の中に作っているという意味では、本学が日本初だと思います。これは熊本の未来を担う、新しい福祉構想だと考えています。

これからの地域社会には団塊の世代がどっと戻

ってきます。病気を持っていないことはあり得ない。私も楽しそうに学長をやっているように見えますが、この10年、体の数値は全部ぎりぎりです。いつどこかが悪くなって入院となっても不思議ではない。いろいろな病気を抱えながら、皆生活しています。今日において、健康とは「病気を持っていない」ということではありません。よく一病息災と言われますが、「病気を抱えていたとしても、満足できる生活、あるいは病気をケアしていく自分づくり、そういうものが整っている状態」を健康というのでしょうか。福祉・健康というのは、スポーツも含めて、こういう形での街づくりでなければならないと思っています。

これを勉強するために、本学では今新しい試みをしています。福祉先進国・ドイツとの交流です。しかも、これを日本語でやろうと考えています。今留学生を増やすようにと政府の方でいわれていますが、一つ問題なのは正規の留学期間が1年、場合によっては半年しかないことです。福祉を学んで帰るには、言葉の壁があって短すぎます。日本においては英語教育が基本です。ドイツ留学は本学の学生にとっては大変な重荷といえます。

そこで、ドイツにおいても日本語でケアしようという事を考えています。ドイツ語の勉強に行くわけではありませんのでね。本学の学生は1年、2年生の時にドイツに行って、日本語でちゃんとサポートを受けて街づくりを見てくる。小さな村では循環型の綺麗な農業をやっています。しかも、リーダーと70人ぐらいの若い人が一緒に村づくりをやっている。それを見ただけでも、おそらく熊本に帰ってきた学生たちは、自分たちもやってみようと思うはずで。そういった若者たち、さらにネットワークを持っている市民の人たちにも参加をしてもらおうと、まあそういうことを今考え

ています。

これを実現させるための相互交流です。ドイツ人の中にも日本語を勉強して日本に留学したい人が沢山います。チャンスが無いのです。国際化といってもそんなに簡単ではないので、相互留学の道を作って、協力し合いたいと思っています。留学の情報発信もこちらから全部出して、向こうから連絡を受けて、足を運びコミュニケーションを

とる。連絡はメールでやりますが、ドイツへ行ったその時に、ああこれなら彼らと一緒にやれるな、と実感できました。

そういう意味では、これからの社会というのはたしかに不況ですが、物の考え方によっては新しい時代を作って行く転換期とも言えます。21世紀は「環境の世紀」なのですから。

同時に日本は「福祉の社会」でもあります。日本が作ってきた教育のシステムは北欧に移植されて、日本型のものが北欧では成果を上げています。日本は日本で、今までに作ってきた伝統の中で新しい福祉づくり、新しい環境づくりをせねばなりません。これには、シニア世代の参画が不可欠だと思っています。まだまだお元気で経済的にも多少余裕があって、今までの知恵と経験を生かし、それをネットワークで繋いでいく。それが町づくりであったり、商店街の活性化であったりします。ネットワークによる新しい市民社会の構築が、本来の意味で日本に根付くのは、このシニアネットの世代においてではないかと確信しております。

つきましては、是非ネットワークを広げて各々の地域で、自分のできることから片意地を張らずにやって行くことが、おそらく日本の新しい未来を作って行くことになるのだと思い、期待しております。ご静聴ありがとうございました。

## ＜ 質疑応答 ＞

**質問者** 先ほど福祉と環境がこれからとても大事だというお話がありました。私はシニアネット以外に街づくりということもやっています。確かに、今とても大切なのは福祉、環境といったことを地域の中でどうやって行くかということなのですが、大学の方で地域に出て行って、地域と一緒に実践するような機会を作っていただきたいと思うのです。そして、こういう活動こそ学生の教育の場になるとも考えます。このようにできたら嬉しいのですが、如何でしょうか。

**坂本** 地域における福祉、環境というのは言われる通りで、大学がネットワークの核にならなければならないと思っています。

よくフィールドワークと言いますが、授業を受けるだけではなくて、フィールド学習ということ

で地域に出て行って、街づくりでお城の景観であるとか、あるいは外国から来たお客さんに対するお持てなしであるとか、あるいは社会福祉学部の学生が黒川温泉へ行って車椅子をどう使ったらいいいのかということで、車椅子に乗ってみる。あるいは川辺川の清流のところに行って、その環境、景観を維持するにはどうすればよいかという実地見分などをやっています。

熊本は、水俣病事件で水俣病の問題をいまだに抱えています。本学は水俣学というのを持っています。水俣市にも現地研究センターを置いています。患者さんの調査だけではなくて、水俣病の分析をする環境づくりの中、芦北を含めどういうふうにしていくのか等を行っています。

いまご指摘のように、福祉と環境はこれからのキーワードです。我々も教育の観点から言って、こうした実践教育が物凄いいんです。農家の子が草取りしたことがない、田植えしたことがない、そういう時代ですから。学生にとってフィールド学習は物凄い感動があります。我々が草取りに連れて行き、お茶摘みをして、取り立てのものを食べさせ、農家の話を聞く。本音は「親から聞けよ」と思いますが、親が話をしていないので、学生たちはものすごく感動します。

今、本学は社会福祉学部だけでなく、フィールド学習の試みを全学で取り組んでいるところです。通常の授業の中でもっと地域を目指すべきだと、あるいは地域、行政とのネットワークを作るべきだと考えています。

我々も今まで以上にやりたいと思っていますし、皆さまも是非いろいろな大学に働きかけをください。文科省の方針でも「地域貢献をどうなっているのか」と、地域貢献が大学の評価に関わる時代になっております。この点が以前とは違います。先生の業績だけではなくて、地域貢献の評価によって予算も付くことになっています。

国立に比べ私学の方が予算が付きにくいのですが、そういう意味では先生が地域に出る、大学が地域に出る、これは諮問委員会に出るとかではなくて、街づくりに参画をする。あるいはITを使って街づくりの復興に役割を果たしていく。これは今、国の方針でもあります。是非ご活用いただきたいと思っています。ありがとうございました。

## パネルディスカッション

# シニアが変わる、地域が変わる シニアネットはシニアの生きがい シニアパワーを終結し、シニアネットの輪を広

### ■コーディネーター

吉田 敦也 徳島大学教授 地域創生センター長

### ■パネリスト

今津 一 躬 NPO 法人 シニアネット久留米理事長

田 鍋 晴 久 NPO 法人 シニアネット北九州理事長

中 村 俊 二 NPO 法人 まちづくりねっと・うじ

林 恵 美 子 メロウ倶楽部

堀池喜一郎 NPO 法人 シニア SOHO 普及サロン  
・三鷹元代表理事

### ■コーディネーター（吉田敦也、以下敬称略）



シニアネットの生きがい、『新しい時代のシニアネットの魅力的な姿とは』ということではばらくの間、皆さま方と一緒に考えて、学んでいきたいと思っています。

シニアネットというのは、地域の中でICT（情報通信技術、Information and Communication Technology）の活用を基盤にして、自分が輝いたり、仲間と楽しく、地域課題を解決するという目的のもとに、個人活動、交流、社会貢献活動、事業展開というものにアプローチをしていく。場合によっては実際にいろいろなことに取り組む、こういうネットワークスであり、社会関係資本とい

うことで、世界的に注目されている取り組み事業の一つです。


時代というものが非常に激動してまいりました。少子高齢化というのはもう当然そのセクションから言われていますし、我々は、一つは地域を基盤にした社会に変わりつつあります。それから、情報や技術というもの、そういうものが社会の根底になってきている。そのことによって労働とか雇用というものが非常に激動したスタイルに変わってきました。考え方というものも変わってきました。当然、シニアのライフスタイルというのも変わってきています。その証として、追いつけないくらいのICTの飛躍的進化というようなことも、言われるようになってきました。

時間制約の中で、司会者が一番時間を費やしてしまうのですが、昨日、「TSUTAYA」に行ったらこんな本を見つけました。


『ツイッターマーケティング』。「ツイッター（Twitter）」というのはご存知でしょうか。「つぶやき」と訳されていますが、今若者の間で急速に広がり、影響力の大きなコミュニケーション手段になっています。一度に投稿できる量は短いものですが、登録している人ならば誰も見られる、

パネルディスカッション

## シニアネットの生きがい、 —新しい時代のシニアネットの魅力的な姿とは—




シニアネットフォーラム21 in 九州 2009  
シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットはシニアの生きがい、  
シニアパワーを終結し、シニアネットの輪を広げよう  
2009年10月23日(金)  
くまもと県民交流会館/バレア  
コーディネータ 吉田敦也(徳島大学・地域創生センター)



## 人生の後半に必要なこと


- ・**自分のおきどころ**  
家庭以外の会社らしくない会社の居場所  
高齢者クラブでもなく、若者・現役サラリーマンのたまり場でもない第三の場所
- ・**しごと**  
続けられることなく、しかし、毎日(あるいは定期的)に取り組める仕事がある  
自分の能力を生かし、思い通りに進められる、自分サイズの仕事がある
- ・**つながり**  
ゆるやかで、ふれあいがあり、かつ、刺激のある人の輪  
自分(あるいは自分の能力や人柄)が期待される人間関係
- ・**研鑽**  
健康づくり、教養、スキルなどにおいて自分を磨ける学びの場所  
受け身だった自分を前向きにする機会
- ・**自己実現**  
人生の前半で実現できなかった夢がかたう、あるいは夢をつくる  
ただならぬ夢 <http://www.meti.go.jp/intro/kids/it/it0201.html>
- ・**ゆとり**  
時間的ゆとりがある  
ゆったりしながらも充実感を味わえる生き方にたどり着く



## シニアネットとは

シニアが、地域において、ICT活用を基盤に、「自分が輝く」「仲間と楽しく」「地域課題を解決」を目的に、個人活動、交流、社会貢献活動、事業展開へと接近し、場合によっては実際に取り組むための支援・推進システム、もしくはネットワーク。また、そうした地域ネットワーク参加を支援するプログラム。

米国シニアネットの使命(senianet.org)  
「50歳以上のシニアが、生活をより豊かにし、長い人生の中で築き上げた知や知識を広く社会の中で共有できるようにするためのコンピュータ技術活用教育を提供する機関である」  
暮らしを豊かにし、同時にシニアの持つ知恵を皆で共有する、それを情報技術で実現する、  
そのための教育や、環境整備を行うのがシニアネット



## シニアネットの10年 日本のシニアネットの成果

世界に誇れる日本の宝となった

- ・シニアネット10年の歩みと活動
- ・シニアネットフォーラムの継続
- ・シニア情報生活アドバイザーの活躍

オンリーワンの成果があがっている

- ・世界に類のない特色がある
- ・欧米: サービス提供型(プロバイダ型)活動形態
- ・日本: 会員相互の働きかけが基本の相互学習
- ・創発型(自律開発型・知識創造型)

掲示板チャットみたいなものですね。

それから、これ『次世代WAVE3.0』も買ってしまった。というようなことで、時代はもう激動しています。これは冒頭のご挨拶にもあったように、「百年に一度の経済危機」ということで、いろいろなことが言われている。で、そのなかでシニアが人生後半の必要なこととして、「自分のおきどころ」とか「仕事」とか「つながり」・「研鑽」・「自己実現」・「ゆとり」というものを作っていくために、いろいろなことを考えなくてはいけない、ということですね。

ひとつだけ例を申しますと、「家庭以外の会社らしくないところに自分の置き場所を見つける」ということが、これからの時代の中で大きなテーマになってくるということ。単に、定年後を考えるということではなくて、もっとプラスの自分というものを見つけ出していく。そのための研鑽が必要になってくる。

その中で日本のシニアネット、今日もこんなに

沢山の人が集まっていますよね。これは、びっくりするようなことなんですよ、実は。日本の底力というか、大げさにいうと国力というか、日本の力というものがここででき上がっているといっているくらい大きな成果です。

日本のシニアネットというのは、世界に類のない特色を持って個々に発展してきた。一言でいうと、サービス提供型(プロバイダ型)でない活動形態を持って、会員相互の働きかけを基本とした相互学習の上に、地域づくりというものを考え、自分の居場所を見つけ、より生き生きとした人生を作って行くという、開発開放型の人間観というものをシニアネットが担っている。これは日本の宝といっていると思います。

どういった成果が上がっているかという、三つの機能とされています。一番大きなことは、これはこのパネルディスカッションの結論になるかもしれませんが、「コミュニティプラットフォーム」というような働きを恐らくしていただく。そのための人材の発掘をしていかなければいけな

いだろうということです。

ということで、このパネルディスカッションが、意義のあるものになるんじゃないかなと思っております。九州では熊本を中心に非常にシニアネット活動が盛んになってきている。そこからの代表にお越しただいて、いくつかのテーマを提示していただき、パネル討論をしていきます。まず、それぞれの活動の良さ、特色、苦勞している点、あるいは将来展望というものをご紹介いただきます。それらをもとに議論をし、シニアネットの拡大あるいは進化、ひいては今後の展望について考えてみたいと思っています。

では、それぞれご紹介いただいた方から講演をお願いしたいと思います。

#### ■今津一躬（シニアネット久留米）

みなさん、こんにちは、シニアネット久留米の今



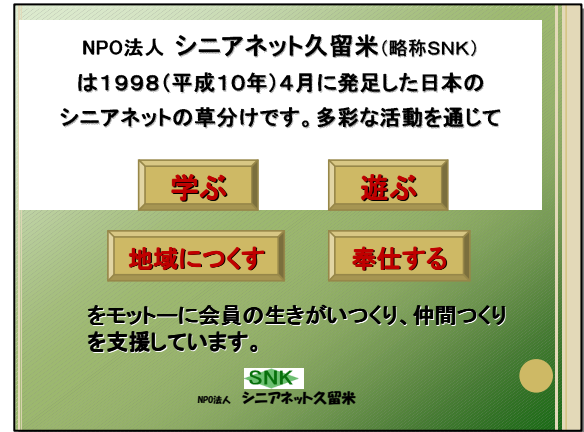
津でございます。

熊本シニアネットが 10 年をお迎えになり、本当におめでとうございます。また、「シニアネットフォーラム 21 in 九州」がこの地で開催されるということで、心から歓迎いたします。

今回のテーマは、「シニアネットはシニアの生きがい」ということですが、これはまさにシニアネット久留米に入会していただければ、それが得られると私は思っております。

繋がり、集うことによって扉が開き、交流の輪が広がっていきます。

シニアネット久留米のご紹介をしたいと思います



す。シニアネット久留米は、1998 年に発足したわけですが、「学ぶ」・「遊ぶ」・「地域につくす」・「奉仕する」をモットーに会員の生きがいつくり、仲間つくりを支援しています。

#### 【学ぶ】

まず、「学ぶ」ですが、パソコンを中心とした入門講座から応用講座までの 15 講座を開催しております。会員向け講座と市民を対象とした対外講座の 2 つの構成から成りたっております。対外講座は 2001 年から始まりました IT 講習が終わり、そのあとがまととしての講座を作っております。ピーク時には、年間 400 名位の受講者がございましたが、最近はずいぶん減っているのが現状でございます。

会員向けとしてはブログ講座が人気でございます。この応用講座は会員が作成して、会員が講師をし、会員に対していろいろな講座を行っております。

#### 【遊ぶ】

次に「遊ぶ」ということですが、シニアネット久留米は、遊ぶことは得意でございます。

- ・会員の交流会
- ・うまかもんば喰う会
- ・チクゴ・アミーゴスバンド

といったサークルがございます。

会員の交流会は新入会員歓迎会ということで、年 2 回開催しております。新しく入られた会員の方が次年度の幹事を勤めることにしております。



**地域につくす**

**商用ホームページ作成や行政との協働による地域貢献事業**

行政との協働・・・総務省・県・久留米市などの事業委託  
 総務省 ……デジタルアーカイブ事業  
 ・筑後33市町村資料などのデジタル化  
 ・2004年eふるさとよりAAA評価  
 ・2009年国立国会図書館データベースにリンクさる  
 久留米市 ……広報くろめ、情報誌ジョイナスの取材委託事業  
 ・にこにこステップ運動の事業委託  
 ホームページの作成・・・個人、企業の依頼により作成しています

NP法人 シニアネット久留米

**奉仕する**

**ボランティア活動での地域社会への貢献!**

筑後川流し灯籠・・・保存会への協力・・・  
 灯籠の組立、販売、川からの回収  
 教育支援ボランティア・・・地元小学校への教育支援  
 チッゴ・アミーゴスバンド・・・  
 各施設の慰問、各イベントへの出演 等

NP法人 シニアネット久留米

いろいろな会の進め方、運営の仕方を見まして、その幹事の方々を運営要員にスカウトする場になっております。

シニアネット久留米の名物会になっております

「うまかもんば喰う会」:

楽しい会で非常に盛んです。飯場を改良したアジトを持っていて、そこを中心に活動しています。春のたけのこ掘り・たらの芽・じねんじょ・竹の間伐材の破碎チップで作った堆肥等を会員向けに販売しております。夏には、佐賀の鳥栖の清流の傍でそうめん流しをやっております。筑後川畔での秋の芋煮会も盛況でございます。つい先日 10月 17 日に開いたばかりでございます。

次に、暮れの餅つき大会ですが、手作りの足踏み餅つき機を使いまして、もち米は 100Kg、臼数にして 50 臼位をこなします。手でやってはシニアの私たちでは対応しきれません。暮れの 12月 29 日にやっております。もう 8 年程になります。歳末のしめ縄作りなども行っております。

「チッゴ・アミーゴスバンド」:

「珍竹林バンド」として福岡シニアネットさんとジョイントして博多ドンタクなどに出たりしておりましたが、助成金を得ましてボンゴ等楽器を購入し、名前を「チッゴ・アミーゴス」に改名しました。慰問、子どもたちのキッズフェスタやNHKにも生出演しました。

「ふるさと探検」:

各種のサークル活動で楽しい仲間たちと、歴史・文化の名所を探訪しております。久留米かすりの産地、酒どころの城島の近辺を訪ねたり工場見学しています。来年は国際ツバキ会議が開催予定で、久留米は世界的にも有名な産地といわれています。そこで、SNKは協賛して今年のツバキウオークに、27 名程動員参加しました。

### 「地域につくす」

行政との協働としてやってまいりましたが、その中でご紹介したいのは、デジタルアーカイブ事業。私たちの看板的な事業ですが、いろいろな古い資料・地域の物をデジタル化しております。ふるさと財団より 3Aの評価を得ており、嬉しいことに、今年は国立国会図書館のデータベースにリンクされることになりました。広報久留米、情報誌ジョイナスの取材を受託したこともあります。現在やっておりますのは、にこにこステップ運動の委託事業です。

我々のHPで紹介しております。久留米市の長寿介護課の委託事業をお受けしていますが、これは企業としては企画・指導を福岡安全センターというところと組んでやっておりまして、私どもとの 3 者契約の形で、3 年目にきております。久留米大学との連携事業荒木農園などもやっております。

### 「奉仕する」

ボランティア活動で、地域へ貢献しております。筑後川の灯籠流し、地元小学校への教育支援、クラブ活動の囲碁・将棋の指導をやっております。毎年 8 月 15 日の筑後川の灯籠流しは私どもが支援しています。灯籠の組み立てから販売、川に流

SNKの諸活動の基盤は  
組織運営と健全財政によって支えられています。  
その状況と課題は…

#### [組織運営]

- 理事会、運営委員会と事務局の3本柱
- 課題
  - ・活性化と若返りの為の人材確保  
(役員・講座の講師)
  - ・新規会員の入会策
- \*シニア情報生活アドバイザーに注目

 SNK  
NPO法人 シニアネット久留米

した後の回収をやっています。3千灯籠位になります。

#### [組織運営]

以上、私どもの活動状況を駆け足でご説明しましたが、こうした活動は組織運営と健全財政によって支えられた上に咲く花だと考えられます。組織運営とか財政については厳しいものがございます。これについて努力しよう、汗を流そうという人材を求めるのは大変でございます。

理事会、運営委員会と事務局の3本柱にしておりますが、理事会はまったくボランティアで、事務局は1日おきで交代し、交通費支給・弁当代が出る程度で協力いただいております。シニアネット久留米の創立以来興味をお持ちの方がこの会場にも居られましたが、2000年にNPO法人となりました。その頃にいろいろな助成金をいただいています。マイクロソフト社からもいただきましたし、ご存知のIT講師もやりましたから、スタート時はラッキーで推進力を得まして、非常に華々しい上昇気流に乗ったわけでございます。その後、助成金を得られる経営は難しくなってきましたので、実は2003年から運営体制を一新しまして、現在の体制に持ってきた訳です。3本柱体制は比較的うまく行ったのではないかと思います。現在、活性化と若返りというのが課題となりまして、役員、講座の講師として新しい人材が求められています。新規会員の入会については、メディアを通じて募集PRしたいと思っても、予算の面でなかなかかきません。今回、熊本シニアネ

#### [財政運営]

- 会費、講座収入及び事業収入(行政との協働など)
- 支出の負担は家賃・駐車場代が大きい
- 安定の為にもう少しの安定収入
- 行政との協働は良い形
  - ・にこにこステップ運動での3者協働のケース
  - ・結果の自己評価の必要性
  - ・複数年度予算に注目

 SNK  
NPO法人 シニアネット久留米

ットが、あるいは他の地域でやっておられますシニア情報生活アドバイザー制度は、いろいろな意味での人材を呼び込む仕組みとして大変有力ではないか、ということで今回参加させていただき、一つの勉強課題とさせていただきます。

#### [財政運営]

助成金や補助金に頼らない、会費、講座収入を柱としてやってきました。しかし、家賃、駐車場負担が大きく、もうちょっとの安定収入が欲しいというのが本音でございます。そこで、行政との協働の形は、にこにこステップ運動で、非常に良い形になりました。補助金等を貰いっぱなしでなく、自分たちでやった結果を評価する、どの程度の効果が上がったかということ、行政の方にきちっとフィードバックして、消費者の目で見えて報告するようにしております。

政府の方でも複数年度の予算というものが出てきていますが、こういったものが大切ではないかと思えます。単年度で後が続かないということでは、私たちも財政の柱として受け入れることはできにくいのです。そこで、シニアネットは地域に良いネットワークを組んだ体制がありますので、行政がやっていくような地域内での展開には、いい形で協力ができますし、今後もっと充実したやり方で持って行きたいと思えます。どうもご清聴、ありがとうございました。

#### ■コーディネーター

次、田鍋さんお願いします。

■田鍋晴久（シニアネット北九州）

ただいま紹介にあずかりました、シニアネット北九州の田鍋と申します。よろしくお願ひします。



シニアネット北九州設立のいきさつから話してみますが、我々の団体も平成 12 年 3 月に設立致しまして、今年が 10 年目ということになります。皆さんとほとんど同時期にスタートした訳ですが、ちょっと設立の状況が皆さんとは違います。誰でも参加して良いですよ、インターネットに繋がらなくても良いですよ、とそういうふう呼び掛けたのです。

シニアですからね。その当時 10 年前は、まだまだそんなにインターネットが普及していない時代です。それで、どんどん入ってくださいと入会を勧めました。3 ヶ月位で約 100 人位に膨れ上がったんですが、その約 8 割位はインターネットができませんでした。できる会員の方々に、「できない人に教えてよ」ということでパソコン講座を作りました。10 年経ちましたけれども、当初からの 100 人の内、現在残っている会員は、約 2 割位です。延べ 400、500 人の入退会で現在の在籍は 100 名です。メロウ・ソサエティ構想というので、高齢者が情報技術を活用して、何時までも生き活きと、そして楽しく充実した生活を送り、かつ、充実した参加型社会の実現を目指してゆくということに挑戦してきました。

平成 18 年の 1 月に、NPO 法人に認証していただくことができまして、IT をベースにして、今日までやってきております。皆さんが言われてるよ

うに、会員がこれまで培ってきた知識とか技能・経験を生かした環境活動を我々の中に取り入れて、社会に参加できる機会を作って行こう。シニアの生き甲斐の場を作って上げましょう。ということを進めてきました。これからその辺の活動の内容を少し、パワーポイントで説明させていただきます。

環境活動（1）

「さわやか清掃」。JR 小倉駅周辺の清掃を実施、毎月 1 回（第 4 土曜日）。

先程紹介しましたように、我々の活動の主な内容は環境活動であります。開設以来、ずっと継続しているのはこの「さわやか清掃」です。「町を綺麗にしましょう」ということで北九州では、10 月 4 日は市民いっせい美化の日でありまして、それに参加すること 76 回目になりました。スタートした時点では、ゴミはもの凄く多かったです。最近では、我々が一生懸命ゴミを拾って居る姿を見た人が、「やっぱりここに捨ててはいかんのだ」ということで、だんだんゴミが減ってきました。我々は、JR 小倉駅周辺で毎月一回、第 4 土曜日午後にはやっております。最初は集めたゴミの捨て場がないくらいにあったのですが、最近は 2、3 個位になりましたので、集積場に持って行って捨てるようになりました。

環境活動（2）

ダンボールコンポスト「ダンボっち」の実践・普及。

今日展示させていただいたのですが、ダンボール生ゴミポスト。これも皆さんに紹介がありましたように、「家庭から出る生ゴミを、家庭内で処理してしまおう」という事で、ダンボール箱に生ゴミをどんどん入れて、そのまま堆肥にしてしまう、そういう活動をしております。我々は「ダンボっち」という名前を付けています。これはダンボールの「ダン」と、たまごっちの「っち」。たまごっちは可愛がれば可愛がるほど、育っていきますよね。そういう意味を込めて「ダンボっち」という

名前にしたのです。これを市民に広げて行こうと、出前講座もやっております。北九州市にある環境ミュージアム、エコライフプラザ、各地の市民センターから依頼される出前で、そういうことをずっと継続しております。これは後でも申しますが、汚い生ゴミが綺麗な堆肥になるのですよね。それを今度は畑に持って行って、ということをやっております。

### **実践：子どもたちと環境学習（1）**

**テンプラ廃油を使用してのキャンドル作り、ペットボトルを使用して燃料電池の実験。**

我々のもうひとつの活動に、最近特に子どもに対して、一緒に楽しみながら勉強しようというのがあります。ひとつは家庭から出る廃食用油を利用したキャンドル作り。これは年末にもキャンドルナイトとして灯します。それからクリスマスに灯すようなキャンドルを作り、コミュニケーションをとりましょう、というような形で、今教えているんです。この後、ひとつ紹介したいのですが、ペットボトルを利用した燃料電池の実験というのをやっています。今からのクリーンエネルギーという考え方に立ち、実験しています。ペットボトルを利用した燃料電池は、簡単に実験できるんですよ。もしご覧になりたい方は、私どものHPを見てください。燃料電池の原理を教えたいと思います。水を電気分解して、その電気分解した酸素と水素をまたくっつけて電気を作る、というのを子どもたちと一緒にやるんです。小さなプロペラを廻したり、小さな電球を点けたり、ということでこの件は終わりたいと思います。

### **実践：子どもたちとの環境学習（2）**

先程ちょっと言いましたが、できた堆肥を田んぼに持って行って、まず田植えをさせる。子どもたちを引っ張って行って田植えをさせる。それから中間では案山子を作り、案山子を立てます。子どもたちの作った案山子のコンテストをします。今年は10月10日に稲刈りをしました。稲刈りの後、そのコンテストの発表をして、副賞に新米を

あげます。まあ、そういうことを一緒にやっています。動画でお見せしたかったのですが、時間がありません。

### **実践：環境イベントに参加（2）**

**環境ミュージアム「未来ホテルデー」。**

もうひとつ、環境イベントにも参加しています。北九州市には環境ミュージアムがあって、毎年6月の第一週の土、日に、集まってきた子どもたちに、我々のITグループがその場で写真を撮って名刺を作ってあげる。子ども達は喜んでます。そんな事でやっています。そこでも出展して、SNQの活動を紹介しております。今年は、北九州市にはまだ数少ない燃料電池自動車を導入し、この普及活動を協力しています。イベントにきた子どもたちを乗せて、「燃料電池の車に乗ったよ」というようなことで、記念として運転免許証を作ってあげました。これもIT技術を生かした活動ということで、子どもたちが喜ぶようなものを取り入れています。

### **IT活動・交流活動（1）**

**各種パソコン講座の開催、SNQウォーキング。**

パソコン講座は毎週月、火、木に我々のサロンなどで開いています。各市民センターから要請の講座、あるいはデジカメ講座をやってくれとか、いろいろな要請がありますので、そういう所でもやっております。

### **交流活動（2）**

**英語の会、自然観察会、囲碁クラブ、らくらく健康塾・えがおの会。**

交流活動は我々グループの活力の原点ですから、やっています。「ウォーキング」、それから最近では「英語の会」とか、野鳥を観察したりだとか、草花を観ながら歩く「自然観察の会」も盛り上がっています。「らくらく健康塾」を毎週木曜日にやっています。シニアの健康づくりということで、ストレッチ、指圧や体操したり、いろいろやっています。

## シニアライフの課題

### 地球の共有財産、地球上の財産、守るのは人類。

我々、特にシニアは何をしたら良いのでしょうか。地球の温暖化防止とか、低炭素社会が話題になっています。太陽熱の利用とか、光、水、地下資源、森林、そういうものを守るのが我々に課せられた使命ではないか、とっております。培われた人類の知恵を有効に活用して、子どもたちに残してやらなければいけません。要するに持続可能な社会にしてやらねばなりません。それがひとつでも、ふたつでも子どもたちに繋がればいいかな、ということでやっております。

シニアネットの課題としては、活力として、IT環境情報を発信して行こう。環境情報というのは、なかなか発信しづらいところがありましてね。そういうところを、ネットを通じて発信して行こうと、取り組んでいます。イベントを企画しております。

私どもの活動を市町村の活動の参考にさせていただき、皆さん方の生き方を見つけていただければ幸いです。下記に HP のアドレスを書きました。ぜひこの動画を見ていただきたいと思っております。これで、私の説明は終わります。ありがとうございました。

SNQ（シニアネット北九州）は、貴方の生き方とマッチングしましたでしょうか。環境と IT に取り組む SNQ の活動がシニアの生き方に参考になれば幸いです。

<http://www.mottainai.or.jp/>

SNQ の詳しい活動や動画は上記の URL でご覧いただけます。

## ■コーディネーター

中村さん、次をお願いします。

## ■中村俊二(NPO 法人まちづくりねっと・うじ)

京都は宇治から来ました中村と言います。私は役所の人間でありますので、今日は、役所から見てといただきますか、そういう切り口でお話をさせていただきます。



## シニアの力が地域を変える

さっそくですが、役所は大変困っています。お金がないということです。これは国も都道府県も市、町、村全部がそういう状態になっています。平成 20 年度の国の一般会計ですけれど、分かり易いようにということで、それを家計に当てはめたらどうなるかということです。ここの家は給料が 40 万円で、ボーナスがないということで、年収 500 万円くらいです。家のローンが 14 万円、日々の食費等で 33 万円。これですでに赤字になっている。

この仕送りというのを説明させてもらいますと、国が地方自治体にいろいろ出していますよね。それをここでは仕送りという形にしていますが、合わせて支出が 58 万円。収入が 40 万円で、14 万円返済するのに、毎月 18 万円借りているという状況なんですね。

これは国ですから、自治体とはかなりの違いはありますけども、概ね苦しいという状況になっています。そのローンの残高がなんと実質 500 万円の収入で、なんと 5,000 万円位のローンがあるというようなことです。家計と国の予算となかなか対比できないんですけども、苦しいのは間違いない。ほっとけない。という状態です。この辺、皆さんご承知かと思えます。

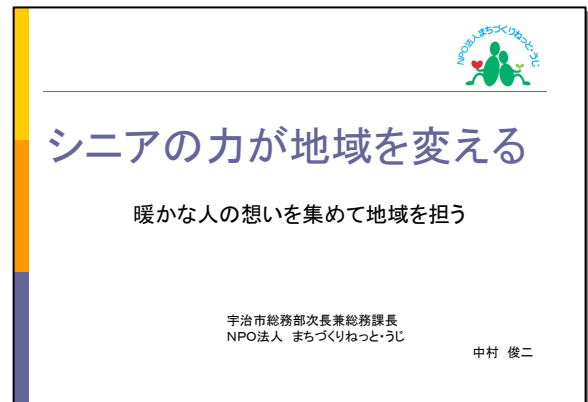
少子高齢化の話は先ほどされたということで、この話は飛ばしますけども、人口の減少があって、経済の単位が小さくなっていくということです。またいろいろなところで、いびつな社会になっているように思います。いざ、地域を見たときに、昔だったら例えば子どもができたといったら、隣のおばあさんがいろいろ教えてくれたり、町内にすごいおじさんがいて、その地域を守るとか、いろいろなセーフティネットができていたわけです。


今はどうかというと、なかなかそうはいかない。これはいろいろ景気が良くなったりして、行政がドンドンいろいろなところにお金をつき込んで、私から言わせれば本来地域がやった方がいいところまで、手を出してやってきた。そんな中で今までに紡いできた地域のセーフティネットがどんどんなくなっている現状だと思います。いろいろな意味でセーフティネットが欠落している。そういうふうには私は今感じています。

ふと見ると、地域で暮らしてる方がほんとにたくさんおられる。宇治市は、大体 20 万都市です。そこで毎年 60 歳になられる方が、1,500 人くらいだったのが今までのパターンでした。それが去年くらいから毎年 3,000 人の方が 60 歳になられるという状況です。今まで仕事社会の中でほんとに頑張ってきた方が、ドンドン地域のなかに暮らしを移されている。その意味では、まさに地域はシニアの活躍の場といえます。仕事の関係で住民協働みたいな形でいろいろやらせてもらった時に、元気のいいシニアの方と接することができて、私自身がどんどん変わっていきました。まずは「地域にはとても元気のいいシニアがいるじゃないか」いうことですね。

### IT を ICT に変えての地域活性化

それと、私は今、役所の総務課に所属していますが、今年の 3 月までは IT 推進課というところで ICT の業務担当しておりました。IT といったらインフォメーション・テクノロジーということで、パソコンや機械ばかりですけど、最近



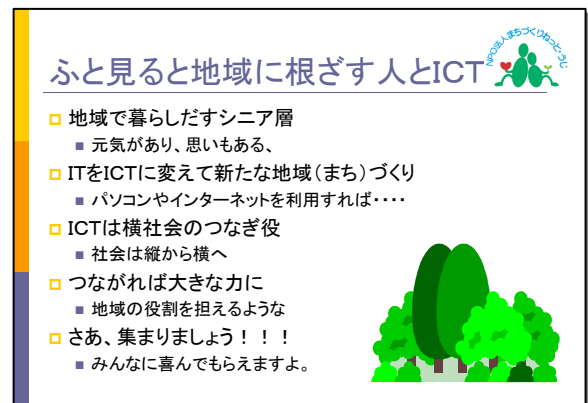



## シニアの力が地域を変える

暖かな人の想いを集めて地域を担う

宇治市総務部次長兼総務課長  
NPO法人 まちづくりねっとうじ


中村 俊二





## ふと見ると地域に根ざす人とICT

- 地域で暮らしだすシニア層
  - 元気があり、思いもある、
- ITをICTに変えて新たな地域(まち)づくり
  - パソコンやインターネットを利用すれば……
- ICTは横社会のつなぎ役
  - 社会は縦から横へ
- つながれば大きな力に
  - 地域の役割を担えるような
- さあ、集まりましょう!!!
  - みんなに喜んでもらえますよ。



よく ICT (情報通信技術) といわれますよね。IT の時代は、「パソコンはソフトがなければただの箱」と言われていました。最近は「パソコンって、インターネットに繋がらなかつたらただの箱だね」と言われているように、「人」が介在していること (ICT) に皆が気づき始めました。必ずパソコンを触ったらその向こうに人がいるというようなことで、そのインターネットなり、ネットを使えば自ずと人と繋がっていくわけです。

私思うのですけれど、これまで日本は縦社会でした。私、役所にいましてそう思うのです、国からいろいろおりてくる政策は、必ず間に県庁が入ってきます。で、市長さんですね。今は、インターネットがありますから、国から市町村に即下りてきたりとか、例えば、市役所の中でもいろいろな決済とかがあります。係長が見て、課長が見て、部長が見て市長が見てとなるのですけれども、ネットでしたら決済関係者の誰も見れるような状況になっています。したがって、必ずしも決裁書類を縦に流さなくても、決済そのものは済ませることが出来ます。それだけに ICT、いわゆるネッ

ト社会になったら、きっと縦横関係なくできる作業がいっぱい出てくると私は考えています。

実際そうだと思うのです。地域では、皆さん、いろいろな活動をされています。ダンスとかテニス、旅行とか福祉ボランティアとかされていると思うのですが、その中には必ずパソコンの得意な人が一人や二人、三人といるんですね。さあ皆さん勉強しましょうかと言ったら、地域のいろいろな人が来られます。そういう方は人と会うのが好きですし、頑張ってやってくださる方も多い。その中心人物と言いますか、そういう人が大勢おられて、これはすごいな、繋がっていったらどんどんどんどん大きな力になれるんじゃないかな、と思ったものです。その思いは、私自身、実際に地域の中に入って活動してみると、実感できました。


この実態を見て、今までは役所がやりすぎていたのではないかとさえ思いました。セーフティネット一つ考えても、地域のシニアが中心となって担っていきける、そういうふうには私は感じています。現在、NPO 団体に自らかかわることで、いろいろやらせてもらっているところです。建て前は、私もやってみて、楽しくなければ続かないですよ。だから ICT は生活を豊かにするシニア・アドバイザーそのものだと思います。やっぱり自分の生活をエンジョイできるということ、しっかりやっていく。それと、先に言いましたけれど ICT とは人と人の繋がり、ほとんどリアルに社会を創っていくこと、それが大事だと思います。繋がるということは、そこにはきっと必要性というか、必然性というか、そういうものがあって、社会のセーフティネットが築かれ、いろいろ動き出す。そうしたらそこにいろいろなものが生まれてくると私は考えています。


### 社会貢献は生きがいであり喜びである

そんな中でいろいろな活動されて、社会の中に貢献できて皆に喜んでもらえる。それを実際にやっておられるシニアの方々には満足感というのがありになるのではと思います。私もその中の一人

## でも、楽しむことを忘れずに

- ICTは生活を豊かにする
  - 自分の生活や趣味を満喫する道具として
- 人と人との交流を作ること
  - ICTは人と人がつながり、リアルな社会の反映
- 社会や地域への期待にこたえること
  - この満足感は病みつきに





ですが、やみつきになってきましたね。そうした喜び、満足感を広めていきたいなというふうに思いますので、私自身、仕事と日々の活動を両立してやらせてもらっています。

ということで、今活動していることを簡単に報告させていただきます。

京都府には NPO パートナーシップセンターがあります。私どもの団体は去年の4月にできたばかりで、まだ1年半です。それからシニア情報生活アドバイザー講座、これもやっています。今日ここに来ておられる瀬田さんが一生懸命がんばっておられます。私は瀬田さんに促まり「やれ」と言われたので、ここに立っているようなものです。実際シニアネットを頑張っておられる中から3人ほどが、京都府の初心者向けパソコン教室の先生になったりとか、市役所の中のパソコン教室の先生になっています。この実践されているということに大事にしていきたいなと思っています。パソコン教室も皆さんと同じようにやらせてもらっています。

「いつでも、どこでも、なんでも、だれでも」が合言葉になっているユビキタス社会が語られるようになって久しいですが、京都府でもユビキタス事業がおこなわれています。宇治市に平等院がありまして、旅行に来た若者がシニアボランティアの説明を聞いて楽しんでいる、という活動もその一つです。

宇治川で花火大会がありまして、パートナーシップセンター宇治川の近くで花火がドーンとあがります。自分たちだけで見るのはもったいないか

らと、インターネットで配信しようということになりました。今年その花火大会のホームページも自作をしました。2万5千件のアクセスがあったということです。

それから京都府の受託になりますが、eラーニング事業をさせてもらいました。範囲としては京都の宇治南のほうから、北は舞鶴と宇治までの地域を含みます。加えて、地元の商店街とも連携してお祭りに参加したり、「勉強せなあかんね」ということで、市長を招いてのセミナーなんかもやっています。

最後に、ITではなくICT、ITに人を介在しようということ。そして行政を動かそうと、私自信が役所の人間なので、一所懸命やらせてもらっています。仲間がいるってことはすごく楽しいし、シニアが元気な町は地域も元気です。やったことに対して地域なり、周りの人が感謝をしてくれます。ただもう一步進めて、お金に換えてやっていけるようにしたいというのが、今後の課題です。ご静聴ありがとうございました。

## 最後に

- ITではなくICT。
- お役所は期待しています。
- 仲間がまっています。
- シニアが元気な町は、地域(まち)も元気。
- きっと楽しみがいっぱい。
- ありがとうございます。



## ■コーディネーター

ご発言ありがとうございました。では、林さんお願いします。

## ■林恵美子（メロウ倶楽部）

みなさまこんにちは、メロウ倶楽部の林と申します。今回のお話をメールや資料でいただきましたときに、持ち時間が13分と別にディスカッションが7分ぐらいでしたか、20分ぐらいというこ

とでしたので、実は大変申し訳ないのですが、パワーポイントで資料を作成しておりません。



## メロウ・ソサエティ構想を福岡で実践

メロウ倶楽部と申しますと、1999年のメロウ・ソサエティ構想の名前をそのまま引き継ぎまして、パソコン・クラブの有志数名で立ち上げられました。今日は、口頭で皆様方にこのメロウ倶楽部のことを紹介したいと思います。

メロウ倶楽部は、今お話を聞かせていただいた皆様方のシニアネットと少し内容が違っておまして、会員の所在が全国エリアです。今年の7月11日で会員数は411名でございました。実は5つのエリアに分かれております。関東エリア、北信越敦賀エリア、東海エリア、関西エリア、そして九州エリアですね。私はその九州エリアの中の福岡グループの1人でございます。

私自身は2000年にメロウ倶楽部に入会いたしました。入会のきっかけは、地元の新聞の掲示板でございます。パソコンに興味のある方どうぞお入りください、というような掲示板でございました。なにせ、9年前のことでございます。インターネットには興味を持っておりましたが、どこで教わればよいのかさえ、全く分かりません。それだけに、その掲示板に引き寄せられました。

立ち上げたばかりの頃は、会場探しからという状況でした。それから9年経ちまして、メロウ倶楽部は月に2回ほど勉強会をやっております。1ヶ所は福岡県の男女共同参画センター、春日市にございます県の建物でございまして、その中の



「あすばる」という会館 4 階の OA ルームをお借りしております。20 台のパソコンがございまして、そこで勉強しております。

福岡グループには現在 70 名ほど会員がおります。男性と女性の比率ですが、全国では大体 4 割が女性 6 割が男性なんですね。それが福岡だけは逆転しておりまして、女性が大体 6 割、男性が 4 割です。とても女性パワーのあるところがございます。今日もそうした仲間たちが何人も応援に駆けつけてくれました。

### 韓国シニアとの国際交流

メロウ倶楽部の特徴はと申しますと、今までお話をいただきました中の内容と少し似通っておりますが、国際交流も行っております。これは韓国のシニアと国際交流を行っておりまして、KJ 倶楽部といいます。始まりは 1999 年でした。韓国と日本を交互に訪ねるという 1 年おきの交流を行っております。最初に韓国に行きましたときに、私も参加させていただいたのですが、韓国のシニアの方たちは、とても日本語が上手なんですね。

ちょうど時代背景も影響するとは思いますが、60 歳代以上の方たちは日本語がペラペラなんです。そして歌も、演歌を歌われます。とても日本語が通じる国でしたので、なんにも支障はなく交流をすることができました。釜山から始まりまして、あちこち交流する会場も変わっております。また、韓国の方も福岡に来られたり、済州島に行かれたり、今度は京都なども予定されておまして、お互いに行ったり来たりして交流を深めております。

### シニアにやさしいアクセシビリティ

もう一つ、アクセシビリティ、ちょっと耳慣れない言葉かもしれませんが、紹介させていただきます。日本語に訳せば「近づきやすさ」といった意味です。「Web アクセシビリティ」というと、ホームページが高齢者や障害をもたれる方たちにとって、優しい対応がなされていることを意味します。具体的には、手や腕に障害がありマウスが

使えない人は、キーボードだけで操作ができます。また、視覚障害の方には音声で読み上げをします。高齢者はフォントサイズを簡単に大きくすることができます。このようにメロウ倶楽部の Web サイトはアクセシビリティ対応になっておりまして、トップページを含めて、約 200 ページについてアクセシビリティ対応になっております。

メロウ倶楽部のトップページからは、数多くのサイトがリンクされています。趣味の部屋、俳句の部屋、川柳の部屋、それとフォトサロンだったり、喫茶室があったりですね、特別なコンテンツなどもございまして、とてもとても 1 口では言えないくらいのたくさんのページが用意されております。全体的にはそういうふうにはたくさんのコンテンツからなっておりますが、私は福岡のことを紹介させていただきます。

### 福岡における実践活動

福岡では毎年 11 月に男女共同参画センターが入っております建物の「あすばる」の中でお勉強をさせていただいております。毎年 11 月には「あすばるフォーラム」というのがございます。文化祭みたいなものと考えていただければ結構でございますけれど、その「あすばるフォーラム」にメロウ倶楽部が毎年参加しております。

入場されたお客様、特に文化倶楽部の方たちがいろいろな作品を出品なさっており、私たちはパソコンで協力させていただいております。沢山の方がお見えになりますけれど、今年は名刺作成とカレンダー作成をやりました。今ちょうど準備中で、たくさんの会員の方たちが 2 つの班に分かれまして、お勉強会をしております。そこに呼びこみ隊という方たちも班を作るんですね。そういう方たちが玄関にいて、「4 階のパソコンルームではこういうことをやっていますよ、ああいうこともやっていますよ、どうぞどうぞ」というふうにしてご案内させていただいております。

名刺作成といいますと、もう皆様方もすぐ頭に浮かべられると思いますが、見本を大体 10 パターンに分けまして、まずお客様の希望をうかがい

ます。1つのパターンを選んでいただいた後、ご自分のご住所と名前を書き込んで名刺を編集します。その場でプリントアウトして名刺10枚をお持ち帰りいただくというふうになっています。毎年お顔を出していただく方々もいらっしゃいます。中には、お孫さんとお祖父ちゃんとお祖母ちゃん、また親御さんと小学校のお子さんというふうにして、もうそれこそ家庭的な雰囲気です。

もう一つはカレンダーを作成しております。まず、室内に入っていた方たちのお顔をデジカメで撮りまして、そのお顔をカレンダーの中に挿入して差し上げます。このようにして製作しますと、皆さん喜んでお持ち帰りになります。福岡グループでは、全員が一丸となってメロウ倶楽部の活動しております。

### 講師は得意な分野での持ち回り制

もう一つのお勉強会場は、博多駅近くにある企業のパソコンルームをお借りしております。ここでは講師も生徒も共に会員です。講師はシニア情報生活アドバイザーの資格を持つ人がいたします。ちなみに、私たちの最初のシニア情報生活アドバイザー資格は、熊本シニアネットさんで取らせていただきました。福岡では、現在16名ほどがこの資格を持っております。その資格を持った人たちが当番制で、「貴方ちょっとやってくれませんか」というふうに依頼して、その方の一番得意とする分野の講師になってもらいます。テキストも講師が自分で作り、そのテキスト代は1ページ20円支払っています。

ですから講師をした方には、交通費とそのテキスト代を、会のほうから支払っております。高額を支払うということはずりません。参加費用は1回につき500円です。任意の団体ですので、それこそ会計は収支が合えばという感じでございます。会計の担当は大変苦労しているようですが、それこそ皆で和気あいあいとやっております。

ネットで繋がっていますので、結局オフ会もと

ても盛んでございますね。やっぱりネット上で会話をしておりますと、お互い顔が見えるのと見えないのでは全然違うものですから、たまたまお顔を拝見しまして、「あら、あの書き込みは貴方だったの」とかいうふうに初対面の方とも会話ができますし、また一度お顔を合わせておきますと、ネット上の会話の内容も大変違ってまいります。やはり心が通じますので、とてもいい状況になっております。

### 初めに資格を活かしたいとの“思い”ありき

メロウ倶楽部の説明はこれくらいにして、私の経験談を少しだけお話したいと思います。と申しますのは、わたくし、シニア情報生活アドバイザーの資格をこちら熊本シニアネットさんの暖かい心で取らせていただきました。しかし、資格を取っても最初はなかなか活かすところがありません。資格を取った後、更新をして3年経った頃でしょうか、何かこの資格を役立たせることができないものかと思っております。

私は福岡県の筑紫郡那珂川町というところに住んでいます。那珂川町のシルバー人材センターのほうから、「エクセルの中級の勉強会をします」という募集がかかってきました。それで私もすぐそれに応募いたしました。会場には20人ほどの人が集まりました。ところが講習が始まってみると、中級にもかかわらず「私は始めてパソコンに触る、マウスも初めて持つんです」という人が数名いらしたんですね。しかも皆さんの状況を見ると、文字入力がかんたんでき、ある程度表の挿入とかが問題なくできる方は、ほんの2~3名しかいらっしゃらない。

10日間ぐらいの講習を受けましたけれど、皆さん終わった時には何がなんだか分からないという人が半数以上いらっしゃいました。その時に私も何とかこの方たちを手助けできないだろうかと考えまして、それでシルバー人材センターに掛け合いました。「皆さん方が少しでもパソコンを覚えたい、年賀状を作りたいと、こういうふうになってらっしゃるので、どこか会場をお願いできません

でしょうか」と、申し出ました。もう一人、福岡シニアネットの方いらっしゃいまして、その方もそういう気持ちでございましたので、ああ、会場とパソコンがあれば何かお手伝いができるのではなかろうかと思いました。そして、そうすることがシニア情報生活アドバイザーの資格を活かすことにもなりますのでね、それでずっと話を進めてまいりました。

### 行動すれば協力は得られる

その頃、「ちょっとパソコンができますよ」くらいでは会場を貸していただけませんでした。「平日の午後、放課後、春休み、夏休み、冬休みでいいので生徒さんが使っている 50 台のパソコンを貸してもらえないでしょうか」と地元の学校にお願いしたのですが、OK は出ませんでした。セキュリティが問題なのでしょうね。それで大変苦労しておりましたところ、シルバー人材センターの局長さんが、「じゃあ人材センターの 2 階の会議室をどうぞお使いください」と言ってくださいました。良かった、場所が確保できた、と。さてパソコンはどうでしょうか。それで役場などで、もう使われなくなったパソコンがあったら、貸していただけないでしょうか、というふうに話しましたら、そういう所はなかなか貸してくれません。そこで県のシルバー人材センターに問い合わせたところ、「貸し出し用のパソコンがありますので、どうぞそれをお使いください」と言ってくださったのです。これで、ようやく会場とパソコンが揃いました。

私たちはまだまだスキルが高いわけではありませんが、「初心者の方たちの手助けならば何とかできるのではなかろうか」とお思いまして始めたのです。ところが、貸してくださったパソコンはウィンドウズ 98 でした。これには困ったと思いましたが、ただ、「もう始めたんだから、仕方がない」と思ってやっておりました。ところが、やはり一人一人後ろに回って「ファイルからですよ」、と言いながら時間がかかるんです。そこで局長さんに「本当に厚かましいお願いですけど、プロジ

ェクターを買っていただけませんか」と申し出ました。そうしましたところ、ちょうどシニア情報生活アドバイザーの資格を持っていたのと、福岡県の IT リーダーの資格を持っておりましたので、それを提示しました。そうしたら、即、予算が取れたのです。

### 講習会の運営は総て会員の協力で行う

それでプロジェクターを買ってくださって、おまけにパソコンも 1 台、Vista を買ってくださいました。これには飛び上がって喜びました。それで皆さん方も今不思議に思われるかと思います。生徒さんも、生徒さんといいますが、語弊がでますけど、習う会員の方たちはウィンドウズ 98、講師のパソコンは Vista です。全く画面が違うんですね。ですけれど会員の方たちの中に 3 人ほど Vista のノートパソコンを抱えてくる方がいらっしゃいますので、そういう方には同じ画面でお話できますし、また、98 の方たちにはちゃんと後ろに回って画面は違いますが「ファイルからですよ」、「ページの設定ですよ」とこういうふうにして、皆さんと楽しくやっております。

また、その借りに行くパソコンも、会員の方が 30 分ぐらい車を運転して借りに行って、会場に持ってきます。10 日間程は会場にお借りしておいて、皆で楽しく使用し、また会員の方が戻しに行かれるというふうに、会員全部が協力し合って、今こういうパソコン講習会を運営しております。これこそ私はシニアの方々にやさしい、シニアの方々が活性化できるパソコン講習ではないか、と思っています。

### “ゆっくり、繰り返し” がシニア流

会員は 60 歳を超えた方々ですので、時間は十分あります。ですからもう特別に慌てて勉強する必要はありません。じっくり同じことを何度も何度も繰り返しながら、お勉強できます。そして今年の冬でも年賀状が作れたらいいなという、そう思われるような会員が、実は多いのです。

このシルバー人材センターの中でやって参りま

して、ちょうど今年で2年になります。去年の冬も年賀状を作成しました。お正月に会員さんから年賀状をいただいた時は、本当に嬉しゅうございました。今年も「10月から年賀状作成に入りますよ」というふうにして、今勉強会をやっております。シニアの方といっても、今現役で働いておられる方はほとんどパソコンの操作はできますが、60代、70代、80代の方まで会員さんとして来ていらっしゃる方がいますので、そういう方々にしたらパソコンは本当に目新しいものなんですね。

家族に聞いても親切に教えてくれない、息子に聞いてもすぐに怒り出す、もう何度言ってもわからない等々、子どもが親を叱るような状況になりますよね。それで、やはりシニアはお互いシニア同士でゆっくりパソコンを操作し合うというのが、一番いい塩梅じゃないかなと思って、今進めております。ご静聴ありがとうございました。

#### ■コーディネーター

しんがりは堀池さん、お願いします。

#### ■堀池喜一郎（NPO 法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹）



シニア SOHO 三鷹という、シニアが地域参加し、得意技を活かして事業をするというプラットフォームです。これを1999年に立ち上げ、2000年に動くようになりました。私は6年ほど代表理事をしていましたが、今は会員として活動しています。

#### 事業として確立した“シニア SOHO”

シニアネットフォーラム21in九州 PPT (堀池)

# 生きがいでいれるのか

## Digital @ging

「便利さ楽しさを伝える」上に  
「地域で信頼・やりがい事業」してきた。  
時代はその次に移る。

NPO法人 シニアSOHO普及サロン・三鷹 会員  
広域関東圏コミュニティビジネス推進協議会 幹事  
どこ竹@竹とんぼ教室 代表幹事  
堀池 喜一郎 sukoya@ca2.so-net.ne.jp

私は、まず「シニアネットは生きがいである」というテーマに対し疑問を一言申し上げたい。それからこれからの魅力あるシニアネットはどのような姿になっていくのかということで、ちょっと変わった言い方ですが、デジタルエイジング(Digital @ging)、「@」が入っている Aging、つまり高齢化する、年をとっていく、それがエイジングです。それに@を付けてエイジングと言っています。これからの高齢化の問題をインターネットとかデジタルということで繋いでいく企画をやりたい。便利さ、楽しさを伝えるということをやっています。

シニア SOHO 三鷹は、地域で信頼されて、やりがい事業を毎年、年間人件費収入1億円を得る活動をしてきている訳ですが、もっと違うことをやらなければいけないのではないかと今感じていますので、そのあたりをお伝えします。

その他に私が働く会、「どこ竹@竹とんぼ教室」というのはインターネットを介してシニアの人が各地域で工作をして世代間交流する。つまり、孫世代に知恵を伝える、楽しい活動の会であります。シニアは、一人ではなかなか地域活動入っていきません。どうすれば地域活動を生み出していけるか、竹とんぼの活動にはいろいろなノウハウが凝縮されています。私が代表をやっていますので、その話をちょっとして、参考になればと思います。

シニア SOHO ですけれど、これはどういう会かということ、先月、10周年記念を皆さんにやっていただいた。150人の会員で年会費が12,000円ですから、年会費収入で年間180万円入ってくるんで

### 2008年度の地域協働プロジェクト

1. IT講習(一般市民) 2百万円
2. 学校IT支援(三鷹市教委) 4
3. 三鷹いきいきマッチング(三鷹市健康福祉部) 4
4. 市役所内ITヘルプデスク(三鷹市情報推室) 3
5. 企業との協働(日立、でんさテクノ) 9
6. わくわくサポート(補助事業・三鷹市経済課) 16
7. コミュニティビジネスサロニスタッフ(まち鷹) 6
8. みたかスクールエンジェルス(三鷹市教委) 29
9. 三鷹市ユビキタス事業事務局(まち鷹) 6

パートナ  
シップ  
分野が  
多岐

2004年情報化促進貢献団体 経済産業大臣表彰

p. 2

す。お金はいろいろなところと協働事業をやりまして、予算が 9,300 万円、実際は一億円くらい入っているはず。この活動でお金を取っているシニアが 100 人います。

どういうふうになっているかといいますと、ベースになるのはパソコン教室ですね。ここにシニア情報生活アドバイザー（以下、シニアド）の資格を持っている人が 100 人います。普通の人が入ってきて、シニアドになって、講師をやっているうちにお金を取る仕事を覚える。この教室で年間 3,500 人教えていますので、350 万円位の収入があると思います。無償の活動は一切やりませんので、どのように品質を上げればお金を稼げるか、という練習をしております。

行政からみると、人を育ててシニアを地域活動に参加させる、つまり地域の課題が解決すると評価するわけです。ということで行政とシニア SOHO の代表が契約した契約事業は、1 件が大体 2,900 万円だとか、350 万円、700 万円といろいろなケースがあります。私が言うのはおかしなものですが、優秀な人が集まっている訳ではなく、特別ではない普通の人たちです。

5 年前に私に代わった会の今の代表は、私より 10 歳若い女性の方です。主婦経験しかない人が入ってきて数年でそうです。そういう方が代表をやっています。いろいろなトラブルがあっても解決できる会になっている、こう申し上げたら今の代表にはその優秀さあるとご理解いただけるでしょうか。ということで、行政に信頼される会にシニア SOHO はなっています。この会は以前、私が代

表をしている時のプロジェクトを超える好業績です。事例を 2 つ紹介します。

### 三鷹スクールエンジェルス

三鷹スクールエンジェルスというのは、15 の小学校の安全見守りです。これは朝の 8 時から夕方 4 時まで、おじさん、おばさんが交代でピカピカの服を着て、学校の裏とか教室とかを見守っている訳ですね。250 人くらいの人を受注したシニア SOHO が束ねています。学区の中に老人会、PTA

### 地域課題を解決のコミュニティビジネス (=「弱者が成功する」新しい動き に注目)

- ① 徳島・上勝町の葉っぱビジネス「いろどり」:  
起業した一人一人のばあちゃんの個性発揮が夢(収入と健康)を生む。
- ② 茨城・ひたちなか市の NPO・くらし協同館:  
団地シニア女性の「店舗・居場所・学習」が地域連携で、地場農産品全国販売も担う。
- ③ 埼玉・上尾市の「ABCEC(アブセック)」:  
市内在住の企業OB交流会。中小企業と年間400件のマッチング。地域交流事業展開。

p.4

とかこの仕事に関係する団体が 40 団体ありますので、それらと教育委員会との連絡を取っています。この仕事で三鷹市から年間 2,900 万円いただいている。そっくり同じ仕事を、関東地方の某市役所は警備保障会社へ 1 億 2,000 万円支払っています。三鷹市は 1 億 2,000 万円が 2,900 万円で済んでいる。非常にコストパフォーマンスが高い。かつ、私どもは 40 団体と連携していますので、時間外にあたる日曜日とか夜でも連絡とりあうことができます。何か事が起これば必ずどこかが対応できますので、24 時間体制といっても過言ではありません。そういう見守りの束ね役をしています。

### 三鷹ユビキタス事業

三鷹市では「いつでも、どこでも、誰でも」、つまり、ICT の活用によりくらしの豊かさ、便利さ、楽しさを実感できる地域社会(ユビキタス・コミュニティ)を実現しようということで、いくつものユビキタス事業を行っています。

シニアが社会で果たす役割  
～高齢者介護制度で考える～

- **介護施設に入る高齢者の生活**  
能力を眠らすお地藏さん／高齢者だけの世界

↓

- **徳島県上勝町「いろどり」**  
～シニアの働き/元気/健康を異世代が感動～
  - ・毎日やることがある(脳の健康)
  - ・自分のために好きなことで働く(生きがい)
  - ・社会に効果を生み出す(やりがい)

p.5

**能力を目覚めさせ「生きがい+やりがい」事業**

その一つとして「みたか地域 SNS ポキネット」をシニア SOHO が、年間 600 万円の費用をいただいで運営しています。三鷹市の SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の運営ですね。このサイトは 1,400 人の仲間によって 100 位のコミュニティがつくられ、生活情報を発信しています。この活動も行政の課題を一つ解決し、地域に役立っているのではないかと思います。

### 「竹とんぼの会」の試み

「竹とんぼの会」は、私が代表をやっています。竹とんぼは、昔やっていた趣味ですが、竹とんぼを子どもたちにきちんと教えて、楽しんでもらおうという趣旨の会を 2004 年につくりました。5 年間で 200 人の講師を育成して、昨年度は 60 の都市で教室を 250 回やって、1 万人の子どもが自分で作った竹とんぼを飛ばすという実績をあげました。これはナイフを使わない独特の竹皮竹とんぼで大変よく飛びます。孫世代に技術を伝える楽しみを作っていく人たちの集まりになりました。

今 11 の地域グループができて、チームで活動しています。私がどこかに行き行ってやるということではなくて、各地域で地元の人がどんどん講師育成を含めて展開している。しかもメーリングリストとブログでどんどん情報を公開しています。こういう活動はコミュニティで、信頼されて、課題を解決していく活動と呼ばれると思いますが、シニアネットの中にはあまり見かけません。なんでシニア SOHO や「どこ竹」みたいな、シニアネットが出てこないのかなというのは、後半のテーマ

**これでいいのかシニアネット**

シニアの電子ネット利用: 1990  
メロウソサエティ事業

↓

シニアのインターネット活用: 1998  
シニアベンチャー支援事業

↓

地域情報化推進: 2001  
シニアド制度推進

↓

健康・生きがい型      地域事業・やりがい型      ?

**Digital@ging**

p.8

**【地域課題】**

IT講習

地方分権

SNS

ふるさと振興

農工商連携

CB推進

ですけれど、徳島の上勝町の葉っぱビジネス「いろどり」の人たちの活動は、いい事例だと思います。非常に個性があって、一人年間何百万円かの収入を得て、シニア世代が非常に健康になっています。

### 地域を活性化するコミュニティビジネス

次に茨城県のひたちなか市には 1,000 戸規模の団地があります。若い人がどんどん京浜地区に出て行くので、おじいさん、おばあさんしか居ない団地で、スーパーが撤退してしまいました。このスーパーの跡地にシニアの女性達が NPO を作り、自分たちの居場所、つまりその場所を学習室や店舗を始めたのです。その結果、地場の特殊な煮物・干芋などを生協経由で全国販売するまでになって、非常に注目されております。

また、埼玉県の上尾市には「上尾アブセック (ABCEC)」というシニア団体があります。ここに住んでいる人たちに商工会議所が呼びかけて作った組織です。企業を退職した OB の人たちが商店街や中小企業に出向き、得意技の経理だとか、技術を提供する。年間で 400 件のマッチングがあるそうです。非常に単価が安く、1 時間 1,000 円ということではありますが、これが全国の中小企業のモデル事業になっています。

ここも竹とんぼ教室を取り入れまして、去年 2,000 人の子どもに教え、今 80 の小学校が授業に竹とんぼ作りを取り入れています。これは市の 50 周年記念事業になり、教育委員会から講師のシニアにお金が出まして、有償で竹とんぼの授業をや

っています。地域課題として、子どもたちに竹とんぼを伝承していこうということが、ひとつのテーマになっている。こういう動きが全国でどんどん出てくると、シニアは力づけられますね。

### “生きがい”から“やりがい”へ

どうしてそんなことができているのか、ということを感じて聞かれます。それは、三鷹だからできたんでしょうとか、堀池さんだからできたんでしょうとかね。しかし、それでは学んでもしょうがない偶然のことです。そうじゃなくて、私たちがやってきたことの中に法則性があるのではなかろうか。その法則は何なのかということに着目して、三鷹の活動が進化していった流れを見ていただくと分かります。

最初はシニアがネットの活用を生きがいにする、ITの先生をやるのが非常に楽しいことだったんですね。それが、三鷹ではやっていくうちにテキスト開発も上達し、講師育成も非常に上手だからと、地域情報全体を担ってくれということになっていった。2003年頃より周辺の世田谷区や杉並区からも、三鷹での活動をうちでもしてほしいと頼まれるようになりました。会員の中に大企業で営業の得意な、営業部長をしていた人がいて、自分の知っている区役所の人のところへ売り込みに行ったりね。

こういう活動がどんどん協働事業になってきて、「生きがい事業」じゃなくて、「やりがい事業」ですね。尊敬されて「あなたのお陰で非常にうまくいく」と言われるから、「生きがい」の上に「やりがい」が生まれるわけです。この「やりがい」をやっているうちに、だんだんスクールエンジェルズとか、今、認知症予防ファシリテータ育成事業という、大きなテーマにつながり、取り組むようになるわけです。これは一つのシニアの活動の方向性の法則じゃないかなという気がします。

### 注目される健康生きがい型シニアネット

この会場に理事長がおられるので、声を大にして言いたいことがあります。シニアネットがどう

いうふうになってきたか。2001年にシニア情報生活アドバイザー制度が生まれ、定着してから非常に長い時間がかかっていますね。8年、9年、この間に地域課題はどんどん変化している。いま地域住民、市民にとって何が重要かということが変わってきているのです。

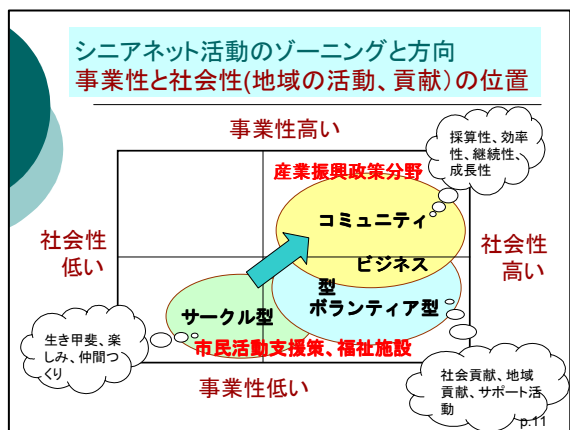
2001年頃、IT講習をしたのですが、地域ぐるみの大きな動きになって、全国に取り入れられるようになった。なぜ取り入れられたかというのと、ITの普及が大きな地域課題だったのです。

その後の地域課題は故郷振興とか、食糧危機の問題とか、農商工連携、いろいろ大きなテーマになっているわけです。農商工連携みたいなものを、シニアネットがなんでやらないのでしょうか。シニアネットの中には「健康生きがい型」というのがあります。主流ですね。しかし、隣に書いている「地域事業やりがい型」というのはまだ少ない。いくつかの自治体やNPOから私に問い合わせがありまして、シニアのグループを作って2年、3年経っているが、どうも地域社会解決型の方向に進みません。困ったな、という質問・要請が多いんです。これはやればできるんですよって言うのですが、なかなか実践できません。なぜなのか、そこに「デジタルエイジング」、つまりデジタル技術を高齢者がどのように活用するか、という「活用の普及」の問題が今あるのだと思います。

### 韓国で開催される世界老年学大会

コミュニティビジネス推進（CB推進）というものがあります。私も委員をやっていますが、去年は六億円の推進事業費が経産省から出ています。これとは別に最近非常に驚いたのが、世界老年学大会です。4年毎に行われている世界の高齢化の問題を議論する世界大会です。そのスタートは2003年のリスボンでの国連の会議でした。そこで、高齢者福祉の問題はアクティブシニア、あるいはプロダクティブシニア、つまり地域に貢献し、支援する側に回るシニア、そこがポイントですよ、という宣言を出しました。

2013年の大会にはソウルが名乗り出て、「2013



韓国」という世界老年学大会をやります。実行委員長の論文を読みましたら、高齢者の中心課題は、「①健康、②経済、③役割、④家庭」の4つだと言うんですね。つまり、韓国では健康＝慢性病、経済＝終の棲家をどこで終えるのか、つまり家というものをどうするのか、ということが高齢者にとって、一番大きな経済問題なのだそうです。それから役割＝仕事がない。それに対して非常に退屈しています。それをどうするか。家庭＝核家族化が進んで、85%がいわゆる子ども世代と一緒に暮らしていない。したがって、シニアが家族として疎外されているという問題があるのです。

実行委員長さんは 2030 年までに韓国はこの問題を解決する、トータルの社会福祉、高齢者社会福祉政策を成功させると言っています。その時にデジタルエージング、韓国は 2013 年の世界老年学大会で、大会のテーマとしてこれを演出します。デジタル技術が高齢者が駆使することによって、この 4 つの問題を解決するとね。日本でいうと、健康＝ちょうど認知症の問題、経済＝過疎地と都市での孤独の問題、それから役割＝地域活動になかなか入れない、入らないって問題。家庭でいえばこの先年金が崩壊するという問題が出てくる可能性がありますから、日本でも同じといえます。

### 韓国が推進するデジタルエージング

韓国がなぜデジタルエージングを進められるかということ、ここ数年、釜山を中心にサイバー・ネイバー運動が展開されています。これは各市町村が経営して始まりました。インターネットを介し

て核家族化した家、お父さん・お母さんと中学生一人しか居ない、そういった家のお子さんが、血の繋がっていない孤独なおじいちゃん、おばあちゃんとネットで家族になる。この縁組を行政がやります。これによって高齢者がインターネットを習う目的が出てきます。楽しみなんでしょうね、その中学生とメールのやり取りを盛んにやっています。実際に聞きましたら、この活動は単なるデ

### Digital@gingへ向かう 「地域シニアプラットフォーム」を！

- 1) (背景) 期待が高い2つの事業
  - ① 深刻な認知症介護 → 認知症予防プログラム  
<http://blog.livedoor.jp/sukoya2008/archives/1189053.html>
  - ② 地域活性化コミュニティビジネス(支援)
- 2) (制度) シニア事業のためのプラットフォーム  
シニアの「主体化」変身センター
- 3) (体制) 地域・行政・企業が信頼できる継続
  - (1) 明確に発信(誰のため、何を)
  - (2) 分担と責任、お金の計画
  - (3) 地域の産業・雇用に繋がる連携

p.12

ジタル活動ではないなと思います。芋煮会だとか、運動会等を行政が担い、地域ごとに活動が行われ大きな成果が出ているのだそうです。

その実績をもって韓国はデジタルエージングというものをやっつけようということで、日本もやりませんかと問いかけられたんです。私もそこまでの IT 活用は考えていませんでした。日本のシニアネットと比較すると、韓国はデジタルを社会的な役立ちつまり「やりがい」ということに直結させています。

### 地域社会におけるネットワークの重要性

それから、地域社会とネットワークをちゃんと組んで活動すること、これが重要なことじゃないかと思っています。シニアネットの活動が今いくつか紹介されましたけれど、サークル活動、ボランティア活動が多いです。左上の図をご覧ください。これは左側：社会性が低い、右側：社会性が高い、下：需要性が低い、上：需要性が高いことを表しています。これからのシニアの活動はもう少し右上の産業振興政策分野に係わってくるのではないのでしょうか。そして、コミュニティビジネ



スはシニアが中心を担うようになっていくのではないかという感じがします。

### 地域シニアプラネットホームを目指そう

私は「地域シニアプラネットホーム」というものにシニアネットがなったらいいなと思います。おそらく、シニア SOHO 三鷹の人は、生きがい活動のプロジェクトが提案になったら、半分くらいの人は喜んで入ると思いますけど、半分くらいの人は関心がないと思うのです。深刻な認知症介護の問題をどうするのか、地域活性化のコミュニティビジネスをしている若い人たち、主婦の人たちの活動を支援する。IT をもって支援する。非常にニーズが高いそちらのテーマをやろうと思うんですよ。シニアが自分で考えて、活動していくようになる、「主体化変身センター」の活動をやっていく。そこで、行政側からも信頼される、3 つの条件です。

- (1)明確に発信(誰のため、何を)
- (2)分担と責任、お金の計画
- (3)地域の産業・雇用に繋がる連携を整えて

シニア SOHO にはプロジェクトがもう 12 もあって、それぞれ相応しい人が入っています。私自身はここから離れて、6 月から「ブログを作ろう！地域と私、初めの一步塾」という講座を始めました。なにもしてないシニア、シニア SOHO に入っていない人を集めて、「ブログっていうのは面白いんだよ、自分の思っていることがいっぱいあるでしょ、それをブログに書いていくと、こんなことが起こるんだよ」という講座をやって、今 35 名がブログを作っています。

### 経済効果が注目される「浜松方式ブログ村」

非常に特徴のあると注目したのが浜松です。ここ数年で 1,000 人のブロガーができたんです。このアクセス数が膨大な数で、テレビ・新聞より影響力があるために、静岡県が県をあげて推奨しています。ブログをどんどん作っていくことは、すごい経済効果があるんだということになりました。


これを「浜松方式ブログ村」といいます。浜松に学んで、私の始めた講座のしくみです。

ブログを作っていると、指導者はその人の動きが見えますので、行き詰っているときには指導できるんですね。ブログの作り方、活用のし方を座学で学んだあと、オフライン会としての「ブログ村」を月例で開催します。ここでは単にブログの作り方を質問したりするのではなくて、こういうお菓子作りのお店始めたんですよとか、こういうブログを始めてみたんだけどここに問題があるとか、一緒にやる人いないかみたいな、リアルな活動の交流会といえます。これはすごく面白いです。

シニア SOHO の中に、この方法を採用した、新たなプロジェクトが出て、どこかの行政さんと協働事業をして、というのが出てくるかも知れない。私のやり方を学んで、そういうことで仲間が増えていったらいいと思います。熊本でもやりたいって方がいれば、この「一步塾とブログ村」のノウハウを伝授します。ありがとうございました。

### ■コーディネーター：最後のまとめ

そもそも、結論としてプログラムに無理がありました。一人一人が基調講演といってもいい内容

 **まとめとして**

1. 総和としての情報発信
2. 蓄積を活かす工夫と仕組みづくり
3. シニアネットモデルの確立
3. 社会活動とICT技能講習の体系化
5. 特色・役割を意識した活動
6. もっと手をつなごう！
7. もっと楽しく！

を持っていて、これを深める議論をするのが本来なのですが、あと、2 分しかありません。問題点を質疑応答ということですが、後のプログラムがありますので、時間進行が悪いということでお許しをいただいて、まとめて終わりたいと思います。

「シニアネット久留米」さん、老舗ということ

で、学ぶ・遊ぶ・奉仕をするということで情報提供、かつ紹介をいただきました。理事会・運営委員会・事務局ということで、3本柱が成功の秘訣だということですが、お互いに課題をお持ちで、そのためのアドバイザーに注目しているということです。財政問題はこれから考えていきたいと思います、ということです。

「シニアネット北九州」さん。ここも老舗の一つで、幸せな九州だなあとと思います。当初、会員の8割がインターネット不可という状況だったのがここまで来て、セカンドライフを地域社会で活かそうということで、さわやか清掃活動、環境活動、子どもたちとの異世代交流をされている。また、シニアライフの課題とは何かということ地球レベルで考えていこうというテーマを、動画コンテンツなどで拝見しました。

「まちづくりねっと・うじ」さん。私も10年前に京都にいましたので、大変懐かしく聴かせてもらいました。シニアの力が地域を変えるということで、役所が困っていること、それから役所がある種やりすぎていることを、むしろ地域に委ねていくべきではないかと、そこで役所とのパートナー性が成り立ってくる。非常に、奥の深い、未来的な考え方ですが、市民活動としての地域というのが今回出ています。そういうような観点が、これからの町、ひとつの地域のあり方だということです。ライブ中継が2万5千アップということをやっておられて、内容的には非常に斬新で1年半のネットにしては、これがあるべき姿だなあと垣間見ました。楽しいこと、満足感というのを大事にしているということです。

それから、「メロウ倶楽部」さんは、福岡、九州のウーマンパワーと言うと、今時、逆に失礼かもしれませんが、大変なことを披露いただき、国際交流とか、地域的なことをお話ししていただきました。

最後の、「シニア SOHO 普及サロン・三鷹」さんの「生きがい」から「やりがい」へというのは、一つの答えをここで提示されました。冒頭で私がシニアネットとは、ということで申し上げた問題

がいろいろ出てきただけにとどまらず、刺激的なキーワードもいっぱい出てきました。シニアネットの品質保証、それが行政の信頼を得て、ひいては地域還元につながると言っておられました。

これは大変いいメッセージですし、いわゆる弱者を成功者にしていく、という形での社会展開を作っていくのだということです。それが学校見守り事業とか、ネットインフラ事業の整備ということで、難しい問題のように思ったのですが、実は「竹とんぼ」やってみた、というような話がでてきて、私たちの世代が、あるいはもっと先輩のシニア世代の人たちが小さい頃、当たり前父親や職人の背中で覚えたことが、今の子どもたちの教育になっています。そのことを軸にして展開していくことで十分可能性が開けていくんだということをご紹介いただきました。

シニアネットの活動はモデル化すると、全国どこでも真似ができる、つまり神業ではないということです。シニアネットはもっと提言するべきであるし、もっと主体的に活動すべきである。そのために国はもっと積極的に支援すべきである。それが高齢社会のビジョンに結びつくというお話でした。そのことを具体的にどう実現していけばいいかということ、シニアのプラットフォーム作りであるし、具体的作業課題はブログ村である、ということでした。

定番あり、新しいシニアネットあり、ということで、楽しく私は聞かせていただきましたし、大変勉強になったと思います。

人のやりがい、出番作りというのは、簡単なことではないような気がします。それゆえ、シニアが携わっていけるような仕組みが重要です。それゆえアメリカのネットワーク、専門性のあるシニアネットを育てていこうじゃないかという支援母体の蓄積という考えは、もっともっと活かされるべきでしょう。加えて、日本のシニアネットの特色は、楽しく生きがいを作る、満足感というのが基本にあるのだと改めて実感しました。

本日はこれで終了ということになります。

## ケーススタディ

# シニアネットがシニアを変える 地域を変える

### ■司会者

花田 昌宣 熊本学園大学社会福祉学部教授

### ■コメンテーター

江口 満 熊本県健康福祉部高齢者支援総室長

### ■発表者

山口 隆信 熊本シニアネット 天草支部長

二羽 英明 NPO法人 シニアネットクラブ理事長

高橋 克司 NPO法人 とかちシニアネット理事長

### 成功談よりも失敗談を重視する

司会（花田昌宣、以下敬称略） 皆様、こんにちは。花田と申します。よろしくお願いいたします。

全体として、時間が随分遅れておりますので、ここからのセッションは、18時終了を目途に進めたいと思っております。できれば、パネラーの壇上での議論、フロアとの議論などをつくっていただければ、と思っております。

さらに、発表される方々には、会が始まる前に無理難題をお願いいたしました。それは、それぞれのシニアネットが抱えている活動上の問題点を、どのように乗り越えて来られたか、あるいは乗り越えられなかった場合、その問題点は何なのか、つまり、たんなる成功談よりもむしろ、失敗談をぜひお聞かせいただき、今後の課題もお話いただくということをお願いいたしました。

さて、皆様はすでにプログラムをご覧になったかと思いますが、今日発表される方は、熊本の天草から山口さん、日野市から二羽さん、そして遠くは北海道十勝の高橋さんの3名の方々です。それぞれ地域のバックグラウンドが違います。遠方や首都圏など、地域性の違ったカラーのお話が聞けるかな、と期待しております。

加えまして、コメンテーターとして、熊本県庁



健康福祉部高齢者支援総室長の江口さんに来ていただいております。江口さんの役割は二つありまして、厚生労働省におられ、今は、熊本県で高齢者関連のお仕事をされていますので、そのような観点からのコメントをお願いします。

さらに、江口さんは現在35歳で、おそらく、この会場の中では最年少だと思います。ですから、役人としてではなく、若者の視点から、若者代表として何かご意見をお聞かせいただければ、というように予定をしております。

では、早速それぞれの報告・発表をしていただきます。まず、一番バッターは熊本シニアネット天草支部長の山口さんです。

よろしくお願いいたします。

## ケーススタディ 1

# シニアネットはシニアの生きがい 自己実現の場

熊本シニアネット天草支部部長  
山口 隆 信

### スローライフを求めて天草に居住

皆様、こんにちは。ただ今、ご紹介いただきました天草支部長の山口でございます。熊本シニアネットの会員さんの中には素晴らしい方がたくさんいらっしゃいます。その中で、一番ふさわしくない者がここに立っておりまして、非常に心苦しい気がいたします。熊本シニアネットに入会して9年半、この間に何をして来たか、結果はどうであったか、体験したことを発表して欲しい、ということでお引受けしました。

今日は、県外から多くの皆様がお出でになるかと思ひまして、熊本シニアネット、熊本県の観光PRを織り込んでお話したほうがいいかな、と考えておりましたが、こうして会場を見まわしますと、仲間の顔が多いですね。こうなりますと、予定してきたお話は、すでに皆さんがされている活動ですので話がしにくくなりますが、ご勘弁ください。

私は約40年間、東京の満員電車で揺られながら自宅と会社を往復しておりました。毎日が時間に追われる日々でしたので、定年後はこのような生活ではなく、「田舎でのんびりしよう、人と接触することを少なくし、時間に拘束されることもなく、ゆったりとした日々を過ごしたい」ということで、11年前にスローライフを求めて天草に住居を移しました。

そして、天草でのスローライフが始まるわけですが、人と接しない、時間に追われない生活となると、自然が相手になるんですね。昨日は海に、今日は山に、明日は川に、という具合です。その合間に、家庭菜園を耕すという状況です。そうになると、田舎は特に人が少ないので、極端に人との会話がなくなります。来る日も来る日も、話す相



手となると家内だけです。そうすると話題も毎日同じなんですね。そして口数も少なくなってきました。このような状態が続き、「私は孤独ではないか、この状態が長く続くと、呆けてしまうのではないか」と思っている時に、新聞が目にとまりました。

「熊本シニアネット、孤独を失くして、生きがいの創造!」、私はすぐに入会しました。

シニアネットに入会した翌日から、メールの山です。毎日、朝一回、夜一回メールを開くのが楽しみになりました。もうこうなると日課ですね。そのうちにメル友もでき、随分増えました。いろいろな情報も得ることができるようになり、新しい社会が開けました。生きがいも感じるようになり、行動が前向きになりました。「よし、やってみよう!」という気持ちになってきますね。

### サロン形式は天草が第一号

皆さん、今日は朝からのお話でお疲れだと思いますので、ここからは、映像を見ていただきます。文字は少なくして、写真を多くしています。今日

は県外の方が多いた  
らうと思い、熊本シ  
ニアネットを纏めて  
来たのですが。熊本  
シニアネットには、  
14の支部、20のサロ  
ンがあります。会員  
番号は 1,324 まで

天草支部 2008 年度サロン活動状況		参加人数 (延)	
老人センターサロン	865 名	有明町サロン	504 名
中央公民館サロン	1314 名	五和町サロン	449 名
N T Tサロン	824 名	檜本町サロン	432 名
倉岳町サロン	309 名	アドバイザー研修	512 名

発行されています。他にもクラブやサークルがあり、皆さんはどこかのクラブ・サークルに入られて生き生きと活動されています。

天草サロンですが、熊本シニアネット (KSN) 本部からバスで約 2 時間 30 分ほどかかります。今は、天草五橋ができたので陸続きとなり、車で行けるようになりました。天草に松島というところがありますが、そこは海の色がとてもきれいです。仙台の松島よりもきれいだと言われています。そのような場所・天草に 2001 年 4 月、天草支部を自宅に設立しました。旗や看板も私が作り、自宅の玄関に掲げました。

この頃のサロンは今とは全然形態が違います。当時、私のメル友は熊本だけでした。そのメル友が熊本から天草に遊びに来た時に、休憩してコーヒーでも飲んで帰っていただくと思って始めたのがサロンです。そうして、皆と集まってワイワイいいながら話していると、新しい情報なども入りますので、自分にとってもありがたいことだと思いました。

また、熊本シニアネットのホームページや総ての資料の中には、天草サロンは常にトップで紹介されています。天草は、あいうえおの「あ」だからトップだろうと思われがちですが、違います。天草がサロン第一号なんのです。その頃、本部以外で人が集まれる場所は、天草が最初でした。だから第一号だというわけです。

さて、これからご紹介する写真は、天草支部の中のサロンです (右、次ページ参照)。私の自宅では PC 教室はできませんので、皆が天草市内に集まってパソコン談義をする場所が必要ということで、最初は「老人センター」に作りました。これを作ったきっかけは、時の総理大臣が IT の普及を始めたので、それに乗りました。初めは、行政で始めたので 20 代も 70 代も一緒でした。ところ

が、それでは若い人は理解できても、高齢者はなかなかそれができません。「では、高齢者だけ、私が引き受けますよ」ということになりました。

当時、行政の IT 講習は、覚えようが覚えまいが 12 時間で終了です。ところが、高齢者はとても 12 時間では覚えられません。そこで、60 歳以上の高齢者には 18 時間を設定し、高齢者用の IT 講習を始めました。ただ、皆、習っている間はいいいのですが、18 時間で終了し、その後何もしない人は忘れてしまい、元の木阿弥になってしまいます。それをフォローするために、その後も講習を続けました。分からない人が一人もいなくなったら、止めようと思っておりましたが、とうとう 8 年半続けました。

### みんなが生徒、みんなが先生

そして、天草支部には 7 つのサロンが、集まる場所としてできました。サロンへのアドバイザーの振り分けもしています。また、そこで活躍するアドバイザーは、人に教えるために自分自身も常に研鑽しないといけないということで、週に一回アドバイザーの研修会をしております。



A 最初のサロン

それから、去年 2008 年度の報告を本部にいたしました (上表参照)。これまでに、5,208 名の方がサロンに参加されています。参加者の多いサロ

ンと少ないサロンがありますが、多いところは週に2回の例会です。木曜日と金曜日です。木曜日に行けなかった人は、金曜日に行ってもいいし、両日の参加もできます。

それから、各サロンの写真の説明ですが、「A」は最初のサロン、「B」が中央公民館です。

次のサロン「C」はNTT本渡営業所です。ここにサロンを開いたきっかけは、シニア情報生活アドバイザー養成講座の教室として使わせてもらったからです。その時に、所長を紹介していただきお話をしました。所長と雑談をしている中で「光ケーブル契約者がなかなかいない」というお話が出ました。営業マンも毎日家庭訪問しているが、契約に結びつかない、と。そこで私は言いました「所長、お客様は自分で作るものです。私に任せてください。その代わりにNTTのこの会議室を無料で使わせてください。初心者を集めて、インターネットの楽しさを教えます。そうすると、家にインターネットを引いてみようということになり、光契約者が増えるでしょう」、と。そして、それは上手く運び、これまでに20名の人を紹介しました。

そして、契約後は私個人への謝礼ではなく、NTT本渡営業所の営業マンの成績となりました。その代り、会議室を無料で貸していただくようになりました。会議室費・空調費、そして業務用のネットを使わせて貰っていますが、総て無料です。ありがたいことです。まさに持ちつ持たれつの状態です。また、サロンに来る方たちから「サロンの日が待ち遠しい」という人が結構います。ありがたいことですね。サロンですので、各人がしたいことをして、分からないことをお互いに教え合う、まさに、熊本シニアネットの方針である「みんなが先生、みんなが生徒」です。

天草支部では行政との連携で、年に3回中央公民館で高齢者IT講習をしております。講師依頼もありますので、その都度、講師を派遣しています。「D」の写真は、中央公民館での「子どもIT講習」の様子です。ここも経緯がありまして、たまたま厚生省と県下のIT担当者を集めての説明会があったそうです。ところがどこの自治体も、IT講習の開催には乗ってこないとの話でした。ところが、天草だけは手を挙げました。IT担当者の



B 中央公民館



C NTT本渡営業所



D 中央公民館の「子供IT講習」

話では、天草には熊本シニアネットの天草支部があって、講師の心配はいらないと言われていたそうです。他の市町村は講師がいない、だから、なかなか頼めないとのことでした。

つまり、シニアネットのアドバイザーは、常に行政との連絡を密に取っておく必要があると思います。行政からの話があった場合でも、講師については心配いらない、ということと言えますからね。それからこれ以外に、行政から頼まれたIT講習は、障害を持つ方たちのIT講習、特に全盲の方のIT講座がありました。これは大変でした。マウスが使えませんので、音声ソフトを入れて、あとはキーボード操作です。キーを2つも3つも同

時に打ちながらでしたが、逆に教えている私たちのよい勉強になりました。この講習は1年間続きました。

また、障害を持つ方たちは補助金を貰ってますよね。それで、予算書・決算書を役所に出さないといけないのですが、その予算書・決算書も各自パソコンで作れるようになりました。目の不自由な方が、年賀状も立派に作りましたよ。皆さんすごいと思いませんか！

それから、勉強ばかりでは楽しくありませんので、遊びもしています。各サロン間の交流、サロン同士の交流会が初めてありました。その中で、高校卒業後40年振りに再会というような、懐かしい出会いもあったりで、非常によかったと思っています。



E さわやか大学受講風景



F 研修を兼ねた修学旅行

### さわやか大学の設立

そして今までの話は、パソコンを介しての仲間づくり・生き甲斐づくりでしたが、地域にはパソコンに興味を示さない人が多数おられます。それで、そういう方達とのシニアネットも必要だということで、さわやか大学を作りました。さわやか大学だったら、県のさわやか長寿財団がやってるじゃないかと、皆さん おっしゃいますが、天草は違います。1997年・1998年・1999年はやってくれました。ところが、2000年からは八代市に移りました。

ですから、天草の高齢者は困りましたね。県に再開の申し出をしましたが、予算がない、と言ってやってくれません。それならば、自分たちで始めようということで、2004年に161名の入学者を迎え、自主運営のさわやか大学を開校しました。その間、152名、162名、168名、177名と増え、6年後の今年は、何と183名が入学をしております。さわやか大学はキーワードもありません。口

コミで広がっているようです。2004年4月27日に開校式を行いまして、今日、お見えになっている安藤実奈子さんに第一回の基調講演をしていただきました。開校当時は、KSN仲間の安藤さんからいろいろなアドバイスをいただきました。安藤さんは、今ではいろいろな所で講演活動をされていますが、おそらく天草のさわやか大学が講演デビューだったのではないかと、思っております。

「E」の写真は、受講風景ですが、皆さん熱心に聞かれています。机の前のほうにナンバーカードが立っていますが、これは班分けの札です。なぜ班分けをしたかという、一人で全体の面倒をみることはできないので、10名程度の班を作り、班長に世話をさせる。班長は家族の長のようなものです。班員は家族のように考えて行動してください、連絡を密に、会う機会を多くしてください、ということで、食事会とか日帰りの温泉旅行などをされています。盛んな班は、月に一度は食事会をするということもあります。そして、欠席す

ると「来なかったけど、病気じゃないの?」と、電話がかかります。これがいいんですよ。こうすることで孤独感を防ぎ、孤独死を失くすのではないかと思います。音信がないと連絡するということが、とても良いことだと思っています。

さわ大では、今の市の財政状況などを話してくれる市長の講演があります。市長には毎年一回、講演をお願いし、市の状況・施策などを話していただいています。それと状況によっては講演会をしなくてはならない時があります。たとえば、2、3年前には裁判員制度とかありました。この時は、熊本の検察庁に講演のお願いに行きました。「どういう団体ですか?」と尋ねられたので「自主運営のさわやか大学です」と伝えると、行政からの依頼ではなく、民間からの講演依頼は初めてだとのことで、大変喜んでいただきました。さらに、後期高齢者医療問題・年金の天引き・予防医学などについての講演も行い、時代に遅れないように勉強しております。もちろん、遊びも大事です。福岡の博物館まで3台の貸し切りバスで行ってきました。世界遺産に登録をしようとしている万田



G 大分県から自主運営を見学に来た皆さん

炭鉱館にも行きました。どうですか、60歳を過ぎてなお、研修を兼ねた修学旅行ができるなんて、すばらしいと思いませんか。

それから、「G」の写真ですが、大分県から自主運営のさわやか大学の見学に見えました。最近は、県外から見学によく見えますね。宮崎や鹿児島からも来られました。今は、どの自治体も財政が厳しいので、自分たちのことは自分たちでやって欲しいということですね。自主運営のノウハウがな

いので、参考にしたいということです。こういう時は天草市からも観光PRのパンフレットを持って来られました。このようなつながりもいいことだと思っています。以上で、私の発表を終わります。

### 質疑応答

**司会** はい、ありがとうございました。これまでのお話の中で、何かお尋ねになりたいことはありませんか。

**山口** 本のことを忘れておりましたので、紹介します。『シニアよ、ITを持って地域へ戻ろう』という本で1月にNTT出版社から発行されました。この本の中には、安藤さんも載っておられますが、私はこの本に書かれていることを11年前にすでに実践していました。東京からITを持って田舎に帰り、ITの普及をしている、ということです。

**司会** 会場の皆さんは、その本は持っておられるのでしょうか。

**山口** 分かりませんが、私はネットで買いました。

**司会** 『書を捨てて、町へ出よう』(寺山修二)ではなくて、「ITを持って、田舎で生きよう」ですね。

他に質問ありませんか。では、私のほうから質問をいたします。先ほど、会場からも「おう〜」という声が聞こえましたが、サロン参加者が延べ5,208名というお話でしたが、その数はどうやってカウントされたのですか。

**山口** 延べ人数です。毎回来る人もいるし、年賀状の時期だけ来るといった人もいるし、分からない時だけ来る人など、

さまざまです。

**司会** では、コアの人数だともっと少ないということですか。10回来たら、10回数えるということですね。ありがとうございました。他に何かご意見などありませんか。では質問が出ませんので、江口室長にコメントなり、ご意見なりをお願いいたします。

**コメンテーター**(江口満) 皆様、こんにちは。熊本県高齢者支援総室の江口と申します。コメン



テーターの役目をお引き受けはしましたが、先輩方を前にして大変緊張しております。



私は現在、おもに高齢者の介護保険を担当しておりますが、それだけではなく、元気な高齢者の方の支援もしております。たとえば、ねんりんピックってご存知ですよね、2年後は熊本で開催されますが、その準備などもしております。先ほどの山口さんのお話の中で、なるほどと思うところがありましたので、その部分についてお話をさせていただこうと思っております。

山口さんのお話の中でシニア情報生活アドバイザーの方は、行政と密に連絡を取っていくことが必要だ、とのお話がありました。それは、行政でいろいろなITの講習を企画し、講師依頼をどうしようかという時に、ITを学ばれている高齢者の皆さんが「講師は自分たちができるので、ぜひさせて欲しい」ということで、行政と上手く結びついたというお話でした。

行政の立場で言わせていただきますと、役所ではいろいろな企画を立てます。そして当然ながら企画には予算が必要となってきます。ただ、予算が有ってもそれを担う人達がいなければ何もできません。つまり、企画を立てて、この企画はあの人ができるということを合せて考えないとなかなか企画したことが上手く運びません。役所は意外にネットワークがないんですね。ですから、行政に対して「自分達の団体は、このような活動をしているので、ぜひ活用して欲しい」というような提案は、とてもありがたく、助かります。山口さんたちのように「自分たちを使って欲しい」というような投げかけがあって初めて、行政と民間の関係が上手くいくのではないかと思います。

**司会** 天草は上天草市と天草市がありまして、とても広いんですね。そんな中に合併前には自治

体が沢山ありました。中心にある本渡の役所の人たちのことはお互いに分かっていても、最南端の牛深の地元のことになる、意外に分からなかったりしますので、その辺りをどう耕すか、ということになるかと思えます。それでは、何かご質問はありませんか。

**質問者** さわやか大学のコストと講師謝礼についてお聞かせください。会場費とか、講師はボランティアなのかとか。

**山口** 講師は総てボランティアです。それと、本渡から倉岳などに出かける場合は、ガソリン代として500円位を出してくれるよう、サロン長に頼んでいます。また、会場費は全て公の施設、公民館で無料です。年間を通して曜日を決め、借りています。行政が協力的でありたいと思っています。皆さん、思いませんか。私達がしていることは市の生涯学習課がすることなんです。それを私達が代わりにしているわけですから、会場を無料での提供は当たり前です。いかがですか。

**司会** 今の山口さんのお話は、サロンの話ですか。さわやか大学のことですか。倉岳など、いろいろな所に回って教えに行かれているわけですか？

**山口** 大学の話です。PC教室(サロン)は公民館だけです。

**司会** では、講師料は無料で、電車代の代わりにガソリン代を少し出しているというお話ですね。

**質問者** ほとんどコストはかかってないということですね。ありがとうございました。

**司会** よろしいでしょうか。それから、シニアネットとさわやか大学の関係はどうなるのでしょうか。

**山口** さわやか大学の運営者は、パソコンサロンでパソコン操作のできる人が運営に関わっています。ですから、パソコンサロンでさわやか大学の運営者を養成したということです。

**司会** なるほど、シニアネットの活動はそれはそれとしてあって、さらに目に見える形で大学に発展したということですね。面白いケースだと思います。他にありませんか。

では、次の事例に進みたいと思います。海のない地域の二羽さんです。よろしくお願いいたします。

## ケーススタディ 2

# 社会貢献はシニアネットの使命 行政との協働を促進

NPO 法人シニアネットクラブ理事長  
二羽 英明

### 数人のスタッフからのスタート

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました、「NPO 法人シニアネットクラブ」の二羽と、申します。NPO 法人として発足して 7 年ですが、初めて公の場での発表となります。

本日は、「社会貢献はシニアネットの使命」と、題しまして事例報告という形でお話ししたいと思います。朝からお疲れのところですが、少し我慢してお付き合いをお願いしたいと思います。

私どもの活動地域は、東京の西のはずれになります。立川から多摩川を渡ると日野市があり、その南側に多摩市、西側に面積の広い八王子があります。この辺は、昔は雑木林と農地が広がっていましたが、現在は、有名な多摩ニュータウンをはじめ、ベッドタウン化しております。以前から大きな工場もあったのですが、八王子市を中心に都内から移転した大学が 20 数か所となり、学園都市を形成しております。人口は 3 市合わせると 86 万人です。



私どもは、実際には 2001 年ごろから活動を始めたのですが、2000 年ごろから、先ず動機として、高齢者が急激な IT 社会の環境の変化に対応でき



るように、パソコンが慣れ親しめるいこいの場を持つように、そしてきめ細かなフォローで仲間意識を持ち、パソコンコミュニティを作れたらいいなという発想からスタートいたしました。日野市は、IT 啓蒙活動の機材・施設を活用してパソコン専用の学習施設として、交流センターの一部を開放しました。利用団体は、これを無料で使わせてもらうのですが、自主協議会として自主営をし、その利用規約に則って予約をとり、使用しました。その時の機材は、講師用のパソコン 1 台と受講生用のパソコン 20 台を、無線 LAN でつなぐ環境の場所でした。

私どもは、「日野パソコンクラブ」と称して、初代理事長が中心になって立ち上げたもので、初めは数人のスタッフで、町の集会場を利用してスタートしましたが、自分もその仲間の一人として参加しました。交流センターの利用は、世帯が大きかったので、複数の教室を使わせてもらいましたが、いつまでもそのまま使い続ける訳にはいかなかったので、2002 年に本格的に独立を目指し NPO 法人の申請を行いました。

そして、2003年3月31日に、東京都から、「特定非営利活動法人シニアネットクラブ」として認証されました。

早速、4月1日より市内に、日野パソコン教室を開設いたしました。時間をかけたので、順調にスタートできました。そして、日野市以外にも同様の需要があり、八王子市には東京都の住宅供給公社の団地があり、世代交代が進んだ町には空き店舗が目立つようになっていました。

そこで、改装費を持てばパソコン教室に貸してもいいということになりました。東京都と交渉して準備に入り、2004年4月に、八王寺教室もでき、日野と八王子のトータル受講者が、400名に達しました。

### 円滑な運営をするための条件

私どもは、全くパソコンに触ったことのない人を対象にしようというのが、この運動のそもそもの発想です。集まってくる人は、今から7~8年前ですから、皆さんもそうだと思いますが、パソコンに触れたことのない人が圧倒的に多かったのです。そういう方々を対象の中心にしております。2005年になって、それでは多摩市にもということになり、多摩市にもご協力をいただきながら、立ち上げる事ができました。2006年時点で、受講生総数が500名に達し、その後、教室枠の割り振りを工夫して、2008年にはトータルで700名という形態で現在、運営しております。

先ほどもご質問がございましたが、私どもは全くの無償ボランティアではございませんので、NPO法人として日野税務署に届けております。その売上げの消費税は全部自費で支払い、受講生には請求しておりません。また、定款に定める理念がございまして、この中には、高齢者へ敬意を表して人間尊重を先ず挙げまして、次の3つのキーワードがあります。

1つ目は、高齢者がパソコンを楽しく学べる場を、提供する。

2つ目は、教える側もまったくの同年輩なので共通の仲間意識を持って友人の輪を広げる。

3つ目は、パソコンを通したネットワークを生かした日常生活が送れるように、常に連絡をとりあい、共に助け合う環境をつくる。

### 2003年

- 2003年3月31日  
NPO法人シニアネットクラブとして認証される。
- 同年4月1日  
中央線豊田駅7分の地点に独自教室を開設。
- 八王子市横川町 住宅供給公社の空き店舗を改装して教室を設ける案を東京都と交渉を始めた。

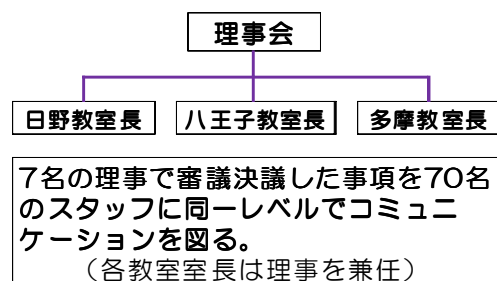
### 組織力 1

#### ○活動理念

シニアネットクラブは、人間尊重を基本として高齢者が楽しくパソコンを学べるように手助けし、仲間意識による生活のネットワークとパソコンによる趣味を生かした豊かな老後生活作りを通じて、地域社会に貢献することを目指す。

### 組織力 2

#### ○3教室同一レベルの品質保証



「シニアネットの仲間というのは、永遠である」という前提に立ちますが、最後に述べる行政とのコラボレーションのところにも関係しますので、大きな目標の一つに掲げております。

組織力を生かして3教室同一の環境、品質にするために、品質レベルを保たなければなりません。そのためには7名の理事と、現在70名のスタッフがおりますが、そのスタッフに対して、同一レベルのコミュニケーションをとるということに、務めています。

先ほど司会の花田先生より宿題がありました。今までの体験上で、どんなことに困って、どんな

ことに失敗したかとありましたが、これもそのひとつです。

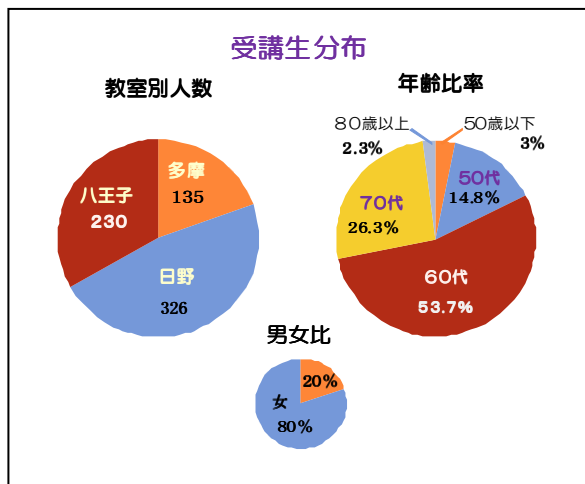
まず、ポイントとして、いかにパソコンと遊んでもらえるか、いかにパソコンに体を順応してもらえるか、いかに記憶を蘇らせてもらえるか、これが高齢者に接する重要なキーポイントです。

それから「カリキュラムはあっても、教えない」もポイントです。これも大きな失敗をしております。新しいスタッフが、自分の持っているもの総てを出して教えてしまって、何が何だかわからない状況になったということがありましたので、その辺に鑑み、とにかくたくさん教えないで、一日にひとつをゆっくりとマスターしてもらう形にしよう、スタッフの教育をしております。

円滑な運営をするということは、先程も申しましたが、スタッフ全員のベクトルが合わないという意味がありませんので、特に高齢の方に対しては、そのベクトルを同一にして、700名の受講者様に綿密なサービスを行う、一様といってもそのレベルが違うので、スタッフと講師の連携で調整しています。そのモットーのひとつは、やさしく接することです。その人のレベルに合わせた教え方で、ほんとにゆっくりゆっくりと、昨日忘れた記憶を今日思い出していただくように、ポイントをひとつでも覚えて今日は良かった〜と、帰って頂くことを目標に、教えていただくようにしております。

また、所作とか礼儀、これも目上の人を大切に思う気持を常に持ってないといけません。その人の体面を尊重して、親切に接することが大事ということがわかりました。

この受講生分布のグラフ（右上）をみると、50歳以下が3%、50代の方が14.8%いますが、これは、まったくパソコンに触れたことがない主婦の希望がかなりあるためです。一般の教室では、半ば営業的に先に先にと進むので良くわからないが、「高齢者と一緒ならば大丈夫」という気持で入って来られる落ちこぼれの人かなり多いです。60代になると、ほぼ7~8年前に退職した人が多くて、53%、70代は完全にご高齢の方で26.3%、80歳以上も2%~3%という割合で、この比率は段々多くなってくると思います。男女比は、女性80%、男性が20%です。スタート当時は、男性は



### 行政とのコラボレーション事例1

#### ○日野市

- ・PC利用団体のための交流センター  
自主運営協議会の運営を任されている。
- ・公民館パソコン事業  
期間を決めた市民への無料講習をシニアネットが一括受けて対応している。
- ・日野市活動者団体連絡協議会  
PC教育に関して講師派遣をしている。

10%くらいでしたから、この数字を見ても、まだ今だに男性の方が、ひきこもりが多いのではないかと思います。そうしながらもゆっくりゆっくり4年、5年と繰り返して毎回楽しみに続けられて、見事な作品を作られる方もいます。交流広場には、実物が展示してありますので、ご覧ください。

それから、当初のスタッフの養成は本当に苦労したのですが、何と言っても人間性を第一に、スキルは二の次にしています。最も望まれるのは、高齢の受講生と同一目線でお付き合いできる人、聞き上手な人、気配りができる人、協調性のある人、もうひとつ、人には個性がありますから、「受講生の興味をいかに引き出すことができるか」も、必要な能力です。

3番目にスキルアップの点ですが、公に資格管理をする所に所属することも大切です。私どもは、当初よりニューメディア開発協会のご支援をいただいております。現在、70名のスタッフのうち、35名が資格を取りました。最近はその受講生の中から講師になり、資格まで取った人もおります。

われわれが求めるスタッフとして、当クラブにおける非常に理想的なパターンだと思っています。失敗談もお話いたしました。活動事例としては、こういう形で組織をしっかりと作って、皆さんと一緒に楽しくやっています。



### 行政とのコラボレーション 1

次に、行政とのコラボレーションの事例を申し上げます。社会貢献活動をするには、行政との信頼関係が非常に重要であり、実力が伴わないうちから「できる」と言うのは、絶対にダメです。小さい事の積み重ねが肝心です。内部の組織を堅固なものにして、スタッフのレベルが揃ったことによる着実な行動が、組織力を上げることによって、それが行政からの評価につながります。時間はかかりますが、これに徹しました。

日野市の場合、パソコン利用団体のための交流センターでの自主運営協議会の運営を任されています。公民館パソコン事業、これは先ほどの山口さんのお話と全く同じことをやっております。最初は日野市も民間に丸投げをしていましたが、組織力があり、スタッフのレベルが均一になっていると、私たち団体が評価されることになり、日野市から受託を受けて続けております。現在では日野市活動者団体連絡協議会に加入して、そこでのパソコン教育に関しても講師派遣をしております。

八王子市では、既に5年間続いておりますが、東京都の予算で私どもの教室を使って、ひとり親家庭の支援事業として、パソコン講座を開いています。一年に3回くらいで、2ヶ月間の毎日曜日、それも6時間位かけて終日、就業目的のための講

座を開いています。終了後、希望者にはパソコン検定の認定を実施して、就職した人からも喜ばれ、市からも信頼を得ております。

多摩市においては、廃校の空き教室を市が開放しています。ここで行っている私たちのパソコン講座ですが、圧倒的に利用者が多くて、ずっと使って欲しいといわれ、こちらだけは使用料、光熱費も無料です。我々にとっては財政的にも助かっております。

### 企業との協働事例

次に、企業との協働事例ですが、日野教室の近くにデイケアセンターがあり、通ってくる人たちに講座を開いています。大体、1人に20~30分の目安で1回に3人くらい、週に30名前後、7名のボランティアで、これは完全無償で行なっております。

これは俳句を詠む98歳の方が自分でデザインした暑中見舞い状などの作品例です。他にも鉄道唱歌、百人一首などを全て打込む人たちも、毎回楽しみに来られて、自分の体調もよくなるし、記憶力も蘇って活性化したと、本人からは大変喜ばれています。また、施設からも非常に良い例だと大変感謝されております。昔、その人が関りあったことを引き出して、パソコンにつなげてあげたことによって、その人の活力が増してくるといったことで、これは非常に良い例だと思っています。

### 行政とのコラボレーション 2

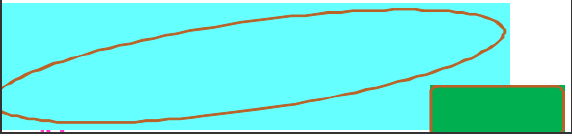
最後に、行政とのコラボレーション事例で、今後の課題として申し上げます。

「一人暮らし高齢者との、生活ネットワークの構築」ということです。当クラブに縁のあった一人暮らしの高齢者と、常に連絡をとりあっていると、それを生活支援相談につなげていくことができます。行政では、介護保険を利用している人のデータは把握できても、こういう独自に生活している人たちの情報を得ることは非常に難しいと思います。私どもは、高齢者について、今までの豊富な経験やノウハウに基づいてそのコミュニティをつくることによって、この方の状況を把握することができます。もし、SOSや手助けが必要な場合は、それを察知して、真っ先に駆

けつけることもできるし、行政への連絡もできることでトータル的に、社会貢献に繋げていけると思います。今、この運動にどういうふうに取り組んでいくかを、検討中であります。

**次世代のシニアへ**

- 21世紀初代の我々シニアが、次世代シニアへ託すシニアライフの現状
- 高齢化するシニア世代に、シニアライフの充実を支援出来るための施策を行政とのコラボレーションで遂行



最後に、21世紀初代の我々シニアが、次世代シニアへこの活動を託すために、この活動の端緒についてばかりの現状をまず把握してもらい、ますます高齢化するシニア世代のために、シニアライフを充実した状態で社会貢献をしてもらいたいと願います。そのためにも、行政とのコラボレーションをとって、全国的な展開で認知されることを望みたいと思います。私どもも、今のうちから常にスタッフの層を、より深く厚くするには、どうすればよいかを考えながら、機会あるごとに、理解ある人に訴えて活動していきたいと思えます。断片的なお話で申し訳ありませんが、これで私の事例報告を終わりにしたいと思います。

#### <質疑応答>

**司会** 二羽さん、ありがとうございました。いろいろな話がたくさん出てきたのですが、ご質問、ご意見がありましたら、どうぞ。

**質問者** あちこちでパソコン教室をやられる時の、パソコンの調達はどうされたのでしょうか。PC設備のある部屋なのか、自分たちで持参なののでしょうか。

**二羽** 写真掲載をしておりますが、先月のニューメディア開発協会のレポートを見ればわかるのですが、八王子教室にデスク型が16台、日野教室は12台と7台の2部屋、多摩教室は10台と、夫々が設備のある部屋です。

当初はお金がなくて、半数は企業やマイクロソフト社から、使わなくなったパソコンを譲っても

らってのスタートでした。NPO法人となってからは、200万円の融資を受けて20台を購入して、4年経ったのでローン返済も終わりました。XPは、仲間のお古をもらって修理部隊でメンテをしながらでした。今は、XPが揃い、新しく増やしたVistaにディスプレイを切り替え式にして、VistaとXPを画面切り替えで使用しています。

**質問者** 行政の補助は、会場だけでパソコンはないのですか。

**二羽** 無料の使用は団体登録が必要で週1回、1団体に1教室という割り当てで、そのうちに1教室は20台のデスクトップ型、講師用デスクトップとプロジェクター、無線LAN完備です。

**質問者** 発表の最後の方で、一人暮らし高齢者との生活ネットワークの構築とありましたが、これは、一人暮らしでパソコンができない人も含むのですか。

**二羽** ちょっと違います。当クラブに5年間も親しく縁のあった人が、急に顔を見せなくなったことがありました。仲良く通った仲間に「主人が亡くなって落ち込んでいる」と話した。それを聞きつけたスタッフの助けで、またクラブに復帰できた事例があります。パソコンのネットワークのコミュニケーションのお陰であり、もし何かがあれば、市にも連絡ができています。

**質問者** インターネットができる人はいいが、パソコンに縁がなく情報に疎い人へのフォローは、どうでしょうか。私は、これを期待しましたが……。

**二羽** パソコンは習っていてもインターネットを自宅でしない人もいますのでそれについては、これからの参考にさせていただきます。

**質問者** 理事7名、スタッフ70名に驚いています。内訳は35名がアドバイザーということですが、受講者に対してのスタッフなのですか？その組織の中に所属している方なのですか。

**二羽** もちろん、所属しています。そして実際に仕事をしてもらっています。

**質問者** もう一点、行政との信頼関係が非常に大切ということですが、大分でも3年間ほどの共同事業でやってきました。しかし、期間が3年間と限られています。50数名のアドバイザーがいますが、残念ながら、行政との関連がうまくいって

ない状態です。何か良いノウハウがあれば、教えてください。

**二羽** 実は、私も同感です。確かに市は原則的には、同一団体と長くは契約しないようです。営利団体でなく、他に適切なボランティア団体がなければ、当然受託できる訳です。もし同じような団体があって、組織的にレベルを常に保っている団体と、全く個人でやっている団体も沢山あるわけですから、その違いを市がどう解釈するか、という問題に繋がるのではないかと思います。

我々も行政からの信頼を得ることができても、それが永久に続くとは思っていません。ただ、八王子市の例のように、このテーマはここにと、長く契約が続いていることもありますから、正解はできませんが、その辺は悩む所です。

**質問者** 私は、熊本シニアネットに入って長いのですが、初めて全国大会への参加です。200万円の融資とか、消費税とか、行政との強い繋がりなど、熊本との大きな違いを感じました。熊本では、今まで企業や有志の方々のご支援等でやってきましたが、最近の不況で難しくなってきたので、自分のパソコンを持ち込んだりしての講座です。

先ほどの天草サロンが、熊本では一番行政とうまく行っていると思っていましたが、二羽さんのクラブのお話は、まるで違っていました。行政とうまく繋がった展開など、もう少し説明をお願いします。

**司会** 熊本は全くのボランティアでやっているのです、事業としてのやり方を説明されてはいかがでしょう。

**二羽** そうですね。今のご質問は、私どもが商売をやっている団体と思われるようですね。NPO 団体の活動というのは、完全に無償ボランティアではなく、定款の事業計画に基いた非営利の形で市民のためであれば社会貢献になり、商売とは違って利益を残さないならば、法人として届け出て事業ができます。熊本とは、そのスタート時点の違いがあると思います。

**司会** ということは、パソコン教室は受講料が有償で、それから講師料やパソコン費用なども賄っていると、いうことですね。

**二羽** そうです。その受講料は、市民が納得できる安さにしています。そこが違います。

**質問者** とても大切なお話でした。品質保証をすることは、とても丁寧に受講生のレベルに合わせて、身になって同一のレベルでとありました。それだけでなく他にも何かあるのではありませんか。講座設計は、カリキュラムは、どんな形で、どんなインストラクチュアルデザインを使っているのか、教えてください。天草では20名の受講者に講師が1名、10数名のアドバイザーが補助に付いて、レベルを保っていますが、そちらではどうやっていますか。

**二羽** この話は長くなりますが、結論的には、当クラブでは、70名のスタッフを抱えているので、受講生5~6名に、アシスタントが1人の割合で付いています。もうひとつは、層を厚くするために、原則1人が多くても、2枠までの教室を担当しているので、スタッフが35名でちょうど均一に保たれています。採算的にも、この辺が適切ではないかと思います。

教科書、カリキュラムはあるが、「全く使わない」ではなく「詰込みはしない」に努めています。教科書は、スタッフのキャリアを基にしたたたき台にして、3教室総てにフィードバックをし、その中の引き出しから受講者のレベルに沿って教えています。

**質問者** 「社会貢献はシニアネットの使命である」とありますが、足元の地域貢献に置き換えることは、どうですか。私は熊本市内のある730世帯の自治会長をやっていますが、自治会への新加入がほとんど少なくなっている問題があります。

地元新聞に掲載された県内の人吉盆地の話ですが、市役所から自治会長に、地域住民への身の上相談が依頼されていました。自治会長のなり手が少ない中で、連絡等にインターネットを使えば、役目も軽減されるかと思うが、なかなか難しいようです。この件に関して、地域との取り組みはどうされていますでしょうか。

**司会** ご質問者と二羽さんの地域では、町のづくりが全然違うような気がします。今の話は、シニアネットと地域の老人会や自治会の活動とのつながりが見えないが、どうなっているのかということではないでしょうか。そのあたり二羽さん、いかがでしょうか。

**二羽** 私たちのスタートは、地域にある自治会

の集会場を使って、先ず地域の人とパソコンをやるということでした。2003年にNPO法人になるまでは、地域の自治会の方々と仲良くやりましたし、現在も、市の自主協議会の講座には、地域の代表の方々も見えていて、仲良くやっています。地元からのスタートですから、地域一体型だと、考えられて結構だと思います。

**質問者** 今のお話を聞いていて、どうしても噛み合わないと思える面があります。先ず問題は、一人暮らしの高齢者が多いが、その人たちはどうしてもパソコンに拒絶反応が強いところがあります。私たちパソコンに携わっている者はいいいのですが、パソコンに縁のない人たちを救うために、先ず携帯のメールなどで端末に親しませることが、大事な要素ではないかと思えます。

私の地域で一人暮らしの老人の会ができ上がったので、10回位携帯メールの講座をやったら、管理者の方に毎朝、毎晩挨拶メールがくるようになった。この実験からパソコンへ移行して行ってもいいのではないかと思えます。それから、一人暮らしの高齢者に対する面について、行政とのコラボレーションの方法など、いい案があれば、ご披露をお願いします。

**司会** それは、パソコン教室に来ない一人暮らしの高齢者と、どう繋ぐかという問題でしょうかかね。

**質問者** そうですね。

**二羽** ですから、その第一歩としてネットを通した繋がりを持っていけば、さらにその近隣の事にも拡大していく、という問題提起をした訳です。こういう忌憚のない意見をいただいて、これを参考にして、いつかは、活動事例報告がしっかりとできるようにしたいと思います。今は活動事例の案の状態ですが、これは、全国的な問題だと考えています。

**司会** では、ここで行政の立場から、コメンテーターの江口さんにコメントをお願いします。

**コメンテーター** 社会貢献はシニアネットの使命であり、それを具体的にどう行政と協働で実現していくかというお話だったと思います。ここ熊本県でも全体の2割が高齢者の世帯であり、これをどういう形で支援するか、行政にとって難しいけれど、非常に重要な課題です。平成18年より

市町村で始まった介護予防の取り組みの中で、サロン活動として生き生き体操教室などを始められたが、本当に支援が必要な人の方がなかなか出かけて来られない。ここにどうやって行政が入っていけるかが、大きな課題です。この一人暮らしの高齢者が増加していく問題は、田舎からこれからは都会へと移行して行きます。そこにシニアネットが必要で、行政にとっても強力なパートナーだと考えています。そんな中での今日の発表事例で、デイケアでの活動や、一人暮らしの高齢者との生活ネットワークに至った経緯などがありましたが、どういう形で行政との関わりを始められたのか教えていただきたいですね。

**二羽** 実は、2001年 森首相時代にIT啓蒙施策ができた時、何回も市に出かけて、「こういうこともできますよ」と提案したが、その時は実績がないために、全然受け付けられなかった。そこで、実績づくりに励んだところ、今度は市の方から依頼が来ました。そこで、自信を持ってそれを組織化して、市担当窓口の人の信頼感を強くしていきました。もうひとつは、時代のタイミングが合ってきたと、理解しています。

**司会** ここで、同じことを、天草の山口さんにもお願いします。行政との定期的なコンタクトや意見交換はあるのでしょうか。あれば、そのきっかけなどを、お願いします。

**山口** うちでは、常に役所に出向いて、情報交換をすることが基本です。普段の協力があると、例えば、さわやか大学の学生募集をしたい時に急に割り込んだ時でも、市報に載せてくれたりします。行政は人を集めてその継続が苦手なのですが、我々はそれが得意分野です。パソコン教室など無償で、あちこちで継続してやっている事が、信頼されている基だと思います。

**司会** はい、そろそろ次へ進まないといけません。冒頭でいべきだったのですが事例研究の趣旨は、シニアの生きがいをどう作るか。自治体との協同、地域の活性化、これはすでに出ています。新しいシニアネットを今後どう立ち上げていくのかということです。一番遠くの十勝からお見えの高橋さんは、新しくシニアネットを立ち上げた時からのお話からあるようです。



## ケーススタディ 3

# 無から有へ、熱い思いを形にする シニアネットの新たな立ち上げ

NPO 法人とかちシニアネット理事長  
高橋 克 司

全国のシニアネットの皆さんの立ち上げた生い立ちは、地域性とか、立ち上げた人だとか、いろいろな要因があろうかと思えます。都市圏だとか、あるいは熊本シニアネットと熊本学園大学との関係とかですね。また、それぞれの地方でも、人が多いとか少ないとかの関係がありますね。我々は北海道の田舎で活動しておりますけれども、地方でもやり方によっては、その地域において存在感のある活動ができるのではないかと、考えております。

### 十勝の概要

私どもの十勝という所は、北海道の行政区域で十勝支庁が在りまして、その中心に帯広市がございます。この十勝支庁の面積は熊本県と長崎県を足した面積に匹敵します。これだけ広いということです。

人口は帯広市が 169,000 人、先程お話をいただいた日野市と同じくらいです。十勝支庁は 354,000 人ですが、熊本市は今日市長がお話されたように 680,000 人、この辺を比較してもらおうと、十勝がどんな所かがわかっていただけるかと思っております。

私どもの十勝は、農業主体で畑作、酪農・畜産が主な産業となっているわけがございます。十勝の宣伝ではございませんが、今、花畑牧場の生キャラメルが全国的に有名になっています。ご存知ですか。これは帯広市の隣、中札内村という所にあり、田中義剛さんの拠点になっています。次に、帯広市の「ばんえい競馬」というのはご存知ですか。馬そりに錘をつけて坂を駆け上がる競技で、競馬とは違うものです。私も 40 年ぶりに熊本を訪れたのですが、帯広は馬の産地でもありまして、熊本の馬刺しとは昔から縁があったと聞いております。このような地域ということを入り込んで聞



いていただければと思います。

### 「思い」を形にする

定年を翌年にした平成 12 年、パソコン、インターネットが一層普及していく中で、パソコンはシニアにとって最大の道具になるのではないかと、そのためには指導するための環境（場所、人材）が要るな、と漠然と考えていました。メロウ・ソサエティ構想、シニア情報生活アドバイザー制度等をインターネットで知り、資格を取得しました。そのことで社会に貢献する充実感があるのではないかと、立ち上げの意思を固めた ということでございます。

そこで、企業で培った人脈を活用するとともに、商工会議所、IT 関連企業との情報交換で知恵を拝借しました。そのなかでシニアネットにはしっかりした組織が必要とすることを把握しました。ここで最大の味方になってくれたのが、地元の十勝毎日新聞でした。街中活性化事業の一環で、場所、パソコンを期限付き（2 年間）ではありますが、無償で貸与していただいたことです。またネット回線は、地元 CATV 社の回線を無償で提供していただきました。この支援を得たことが最大のポイ

ントでした。

### 設立趣旨

パソコンを道具にして「人の輪」「情報の輪」を広げよう。情報化社会というのは高齢者でも利用が不可欠ですね。今も話が出ましたように、抵抗感・敬遠そして逆に不便な扱いも受けますよね。豊かな人生経験、知識を、生きがい作りの最適なツールとして利用してもらおう。そのためにはパソコンに関する技能を一定レベルまでご指導しよう。ゆっくり、ただし繰り返しやっていきましょう。そのためには根気が必要、また人の輪が大切で、趣味のサークル活動も一生懸命やりましょう、ということで立ち上げました。これが一点目です。

二点目は、現役を引退する方に対して、能力を発揮する機会を作ります、ということです。三点目は、協働事業に取り組み、財政基盤の一助としよう。こういったことを設立の趣旨として、新聞社ともいろいろ話し、7月3日の新聞に右写真のように出してもらいました。7月6日に新聞で公募し7月16日には発足会をやりました。

公募の条件として、申し込みは総てメールでやることにしました。その結果、即刻32名が入会し、10日目には発足会ができた次第です。このように地元の新聞がドンドンPRをしてくれた、ということがございました。私の自慢では無いですが、地元の新聞を上手く活用したということがございます。

### 存在感を高める、活発な活動・会員増対策

そうした中で、存在感を高める活動をしなければ成らない。その為には活発な活動、会員増がなければならないとの事で、地元新聞に何としても掲載してもらおう。その為には機会ある毎に記者との情報交換をやり、発足時は2、3ヶ月に1回は掲載されました。それから行政、商工会議所、IT業界にPRして、帯広市広報に紹介してもらったり、商工会議所の会員になったり、またIT企業の幹部社員が講師をして下さったり、サーバーの管理支援を受けました。その外には高齢者学級、老人会等いろいろな団体への講演を積極的にやりました。450名参加の講演会もやりましたが、その中でインターネットをやっている人は10名程

度で、携帯電話はほとんどが持っていないかたようです。これらの講演活動では即効性は在りませんでしたが2、3年後、その人たちが入会されて会員増に結び付いています。またパソコン無料体験講座を開催し社会貢献活動を行ったことも会員増に結び付いたようです。



### 健全運営の基盤作り

健全運営を行うため入会金3,000円、会費月に1,000円、つまり年間12,000円、パソコン使用料1講座200円これが運営のための基礎財源となっております。会員の増加を図ると共に、パソコン等整備の財源確保の為に、事業収入の拡大を図りました。その1例として各種団体からのパソコン講座の一括受諾、ホームページの受諾等実施しております。受諾に当っては、法人格は必要と考えNPO法人の取得を平成15年7月におこないました。発足から2年間は街中活性化事業の支援を受けましたが、その後は支援を当てにしません。それから講師育成としてシニア情報生活アドバイザー養成に力を入れています。

### 協働の評価

元気なシニアの集団で活発な活動ができていくこと/会員200名超、帯広市人口170,000人の0.1%に当たり、人口比率では全国1位。

ITに関心があるシニアの受け皿になっている事/ユビキタス社会で、シニアがITを活用することが重要であり、普及活動が大事である。

街中活性化の一助/入居ビルに1日平均会員等20人程度が入居している。また各種イベントに参加している。



入り口ギャラリー



拠点のビルを見た帯広駅



交流広場

## 運営状況

### ◆運営体制

- 理事 17名 ・ 監事 2名 ・ 理事会 年 6 回開催

### ●部会

- ・講習部会：講師がメンバーで、月 1 回催、講座の企画、日程調整
- ・HP 部会：誰でも参加でき、月 1 回開催、情報発信の為の企画、役割・分担、全国シニアネットのHP 閲覧、情報発信の方法等の勉強
- ・事業部会：情報交換&受諾した案件の進捗等
- ・社会奉仕部会： 商工会議所からの要請に対して、是非の検討と推進  
パソコン無料体験講座の推進

- サークル会：毎月開催 パークゴルフ、ゴルフ、俳句会、フォトクラブ、シネマの会、卓球、麻雀の会、おしるこの会、山登りの会

- 懇親会：年 2 回、1 月・8 月実施 毎回 65 名程度の参加

### ◆会員の動向：235 名（09 年 8 月末）

男女構成比：女性 57% 男性 43%

### ◆パソコン等機器：

VISTA 23 台（購入 23 台）

XP 27 台（購入 12 台、会議所から譲受 15 台）

（パソコンへの投資 3,404 千円）

プロジェクター 3 台

### ◆講座状況（平成 20 年 1 月～12 月）：

講座数 337 回、

受講者数 3,637 名 平均 10,8 名

### ◆サークル活動：

平成 20 年 延参加人員 1,330 名

パークゴルフ、ゴルフ、俳句会、フォトクラブ、シネマの会、卓球、麻雀の会、おしるこの会、山登りの会

## 活動の一部をホームページで見る

その中に“何か探し隊が行く”というサイトがあります。目的は地元のちょっとした情報、知っているようで知らない所、旅行記等、自ら取材して、自ら投稿する、ということをやっております。この効果として、担当することでスキルアップと同時に製作の喜びに触れることができます。また時には懐かしいとか、もう少し情報を教えて欲しいとか遠いところからメールが来る場合がございます。もうひとつは“時代の語り部”でございます。目的は「戦争」という悲惨な体験をした人に、文字打ちの練習として、その体験等を打ち込んでいただき、忘れ去ることのできない過去の歴史を、未来に語り継ぐことであります。反響として、地元新聞が特集で取り上げました。今でも見た方から同じ部隊で、近衛兵に世話になったとかのメールが来ています。

## 会員の声

### ◆楽しい!!!

- ・友人が増えた 会員仲間／スカイプ等で全国の方と
- ・サークル活動・情報発信ができるようになった／ブログ、ホームページ
- ・デジカメ写真、水彩画等の作品
- ・挑戦し、孫と会話ができる事に喜びを感じる
- ・脳が活性化したのか、ボケが無くなった（83 歳の男性）

### ◆行くところ・場所がある!!!

- ・会に行く事、サークル活動に参加する事が生活のリズム

- ◆仕事に役に立っている!!!
  - ・会社の仕事 ・町内会、趣味の会の仕事
- ◆問題、相談、即解決!!!
  - ・いつでも会で相談受ける（管理当番）
  - ・自宅訪問サポート体制/有償
- ◆教え合う事に喜びがあり、生きがいになっている!!!
  - ・特に、女性のアドバイザー
  - ・指導することでスキルアップになっている
  - ・社会に少しでも貢献している充実感

### 今までも、そしてこれからも

課題の克服として財政があります。現在は健全ですが、問題もあります。

- ・会員の大幅な増は見込めない
  - ・事業収入は不安定
  - ・パソコンの更新財源をどうするか
- 等です。対策として考えているのが、
- ・会費の値上げ（現 12,000 円）
  - ・事業収入のアップ/夜間の講座実施、ホームページ制作費のUP
  - ・寄付の受付/企業からの寄付はこれまで受けていないが、互惠の関係を研究
  - ・受講の際のパソコン使用料UP

などを検討しています。またコアスタッフのスムーズな交代があります。会が進化するためには、リーダー・スタッフの熱意と企画力が重要な要素です。対策として、

- ・2年毎の理事の改選
  - ・女性理事を増やす
  - ・サークル活動リーダーの毎年交代
  - ・役割分担の分散化
- などを検討しています。

### 存在感があり、誇りが持てる会、更なる活動

健康作りはパークゴルフ、知的好奇心づくりはシニアネットのテーマ。

- ◆普及活動を活発にします。
  - ・無料体験講座にワード、エクセル講座も実施
  - ・団塊世代に対する夜間講座の実施
  - ・農村地帯もADSL環境が整ってきたので、出前講座の実施等です。
- ◆中心市街地活性化の各種事業に参画します。

- ・商工会議所、商店街等のイベント
- ・商店街再生事業が展開する中にシニアの関わりを模索します。

- ◆楽しさ、生きがい作り/気楽に帰属できる環境を整えます。
  - ・サークル活動は毎年リーダーを交代し、新しい発想で運営
  - ・新入会員に適切なアドバイスをする為、担当する理事を決め、6ヶ月間声を掛けながらサポートする
  - ・指導する事は生きがいに繋がるので、アドバイザー教育のため、対外講座にも新しいアドバイザーを登用していきます。

このように、とちまちシニアネットは会員相互の親睦と研鑽をはかる交流の場ですが、最後に私どもの「四つのしるべ」をお伝えします。

1. 好意と友情を深めているか
2. ルールとマナーを守っているか
3. 感謝とねぎらいの心を忘れていないか
4. 社会への貢献を考えているか

をモットーに会員同士確認しながら邁進します。ご静聴ありがとうございました。

### <質疑応答>

**司会** 高橋さん、どうもありがとうございました。高橋さんに質疑をいただきます。

**質問者** 会費が年間 12,000 円だと聞いてビックリしておりますが、会員からの苦情はでないのでしょうか。その他の所の会費はいくらぐらいでしょうか。

**高橋** 年間 12,000 円にしたのは、かなり早い時期にしました。外部の講習に行けば1時間 1,000 円は取られますので、月 1,000 円の会費については特に問題の起こる状況には無いようです。

**司会** 12,000 円を払って受けられるサービスはどんなものがあるのですか。

**高橋** 12,000 円によって総ての講習が受けられます。ただしパソコンの使用料 200 円はいただくことになります。

**司会** 二羽さんの所はどの位ですか？

**二羽** 私のところは、家賃も、光熱費も、パソコンも自前で揃え、講師も有償ボランティアでやっております。したがって皆さんから貰っている

会費は、1時間 500 円でございます。

**司会** 山口さんの所はどうですか。

**山口** 天草の場合は、空調費のいる場合は 200 円、それ以外は 100 円です。時間は 13 時から 16 時までの 3 時間です。ただし、30 分いた人も 3 時間いた人も同じ金額です。

### 【全体に対するまとめ】

**司会** 最後に皆さんから一言いただき、コメントターの江口さんにまとめていただきます。

**山口** この 8 年間やってきて、これは駄目だというやり方が判りました。それはプロジェクターを使った授業方式のパソコン教室では、付いて行けない人が出てきて 1 年でやめました。だんだん減っていきます。

その点、サロン方式は各自が本当に必要にしている部分を教える、各人の要望に答える方式が永續きして、成功したと思っています。決して上手になることではなく、文章が書けて、簡単な表が作れる。メールが書けて、送れて、見られる。またホームページが見られて、必要な情報が得られれば良いと思っています。もっと上手になりたい人は、お金を払って業者のところに行っておりまう。もう一つ成功のきっかけは、サロンの開催日を明確にすること、開催日は曜日を決めて、時間を決めて実施する事でした。

**二羽** 基本は、今山口さんが言われた通りですね。かならず来る人は千差万別で、全くパソコンをいじれなかった人、メールを開けない人、家ではパソコンを開かない人等が、サロンに来て皆さんとおしゃべりしながら、「パソコンと遊ぶ」ことを、楽しみにしている。このような方々もいらっしやいます。

従ってすべての希望をかなえることはできませんが、なるべく 1 人 1 人に対応して行くことが大切と思っております。詰込みは忘れますが各人の生活パターンを実地に生かした手段としてパソコンを生活のツールにすることが一生つき合うために肝心です。熊本シニアネットの長い経験を聞かせていただきましたので参考にして、運営パターンは違いますが、シニアライフのためになるようやっていく所存です。

**高橋** 今ですね、講座の受講生の数から見ます

と、通常のエクセル・ワード講座の受講者は減ってきています。なぜかと言うと、ある程度エクセル・ワードは判ってきたねという人が増えてきましたので、こういうことを加味して、講座のカルキュラムを検討している所です。受講者を増やすことは財源確保につながりますので、そのような方向から検討している所です。またどのようにしたら事業収入を増やすことができるかも、私どものテーマでございます。

**コメントター** 皆さん、ありがとうございました。実は私がいろいろな所で耳にするのは、現役を引退した後、男性の方は社会とのつながりを持ちにくいという事です。

女性の方は何時でも、どこでも生活の場として、地域の人たちと関わりながらの日常生活を送られている。すべてがそうではありませんが、男性は仕事を中心で、仕事をする事で社会と繋がっていた。それで退職後は、なかなか社会とのつながりを持ってなくなってしまっている。その中でパソコン、インターネットをツールとして社会との繋がりを持ち、そのことでシニアとして社会貢献、地域貢献をされている事が判りました。

私もまだ先の事ではあります、仕事を定年した後、社会との繋がりをどう持てば良いのか、今日の話聞いて具体的なイメージが理解できたような気がしました。

本日コメントターとしての役をいただきましたが、当初は何を求められているのか解かりませんでした。話を聞いてシニアの方がパソコンを扱うという目的だけでなく、それを通じて生きがいを見つけ、それによって社会、地域に貢献されていることを知りました。

私の仕事を通じたシニアネットとの関わりを一例挙げさせていただきますと、2 年後に熊本でねんりんピックが開催されますが、その大会テーマの募集案内を熊本シニアネットに流してもらいました。応募期間が 1 ヶ月と短かったのですが、お蔭様で応募数が期待した以上に多くありました。ありがとうございました。本日はこのようにシニアネットの役割と皆さんが目指している事を、改めて認識することができました。今後の仕事の中で活かして行きたいと考えております。本日は大変ありがとうございました。

## シニアネット交流広場



全国各地で活発に活躍しているシニアネットの活動の様子が展示され、参加者同士が顔を合わせて意見を交換し交流が深まりました。

この情報交換がお互いの今後の活動にお役に立つでしょう。

平成 21 年 10 月 23 日(金)

10:30～18:00





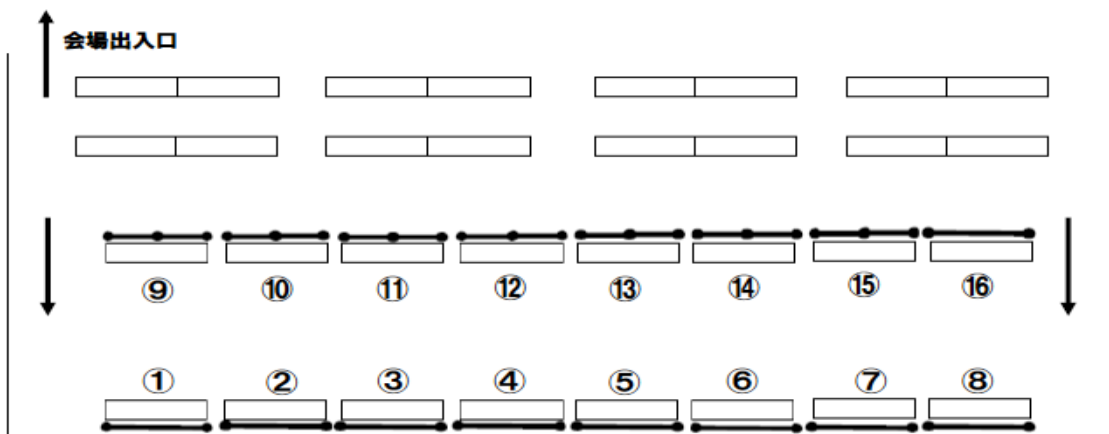






## 【出展団体】

① 財団法人 ニューメディア開発協会 <a href="http://www.nmda.or.jp/mellow/adviser/">http://www.nmda.or.jp/mellow/adviser/</a>	⑨ NPO法人 まちづくりねっと・うじ <a href="http://www.ujimachi.or.jp/">http://www.ujimachi.or.jp/</a>
② 財団法人 JKA <a href="http://www.keirin-autorace.or.jp/">http://www.keirin-autorace.or.jp/</a>	⑩ NPO法人 おおさかシニアネット <a href="http://www.osaka-senior.net/">http://www.osaka-senior.net/</a>
③ NPO法人 とかちシニアネット ④ <a href="http://www.tokachisenior.net/">http://www.tokachisenior.net/</a>	⑪ NPO法人 シニアネット北九州 <a href="http://www.mottainai.or.jp/">http://www.mottainai.or.jp/</a>
⑤ NPO法人 シニアネットクラブ <a href="http://snc.nngo.jp/">http://snc.nngo.jp/</a>	⑫ NPO法人 シニアネット久留米 <a href="http://www.snk.or.jp/">http://www.snk.or.jp/</a>
⑥ メローク倶楽部 <a href="http://www.mellow-club.org/">http://www.mellow-club.org/</a>	⑬ シニアネット 基山 <a href="http://www.senior-net.gr.jp/kiyama/">http://www.senior-net.gr.jp/kiyama/</a>
⑦ シニアネット加賀 ⑧ <a href="http://hp1.cyberstation.ne.jp/seniornet-kaga/">http://hp1.cyberstation.ne.jp/seniornet-kaga/</a>	⑭ 熊本 シニアネット ⑮ <a href="http://ksn1.huu.cc/">http://ksn1.huu.cc/</a>
	⑯ パソコンお役立ちコーナー (協力 マイクロソフト株式会社) <a href="http://www.microsoft.com/ja/jp/default.aspx">http://www.microsoft.com/ja/jp/default.aspx</a>



# 「シニアネット・フォーラム21 in 九州」総括

熊本シニアネット代表  
中島 敬也

皆さんこんにちは、熊本シニアネット代表の中島敬也でございます。

熊本シニアネットの創立10周年記念事業の一環として「シニアネットフォーラム21 in 九州」を九州で初めて熊本で開催いたしましたところ、北は北海道から南は沖縄まで全国からお集まりいただき、シニアネットに対する関心の深さに感心し、また感謝しております。ありがとうございました。

熊本シニアネットも、高齢者の孤独をなくし、高齢者が情報技術を活用して、いつまでも生き生き、そして楽しく充実した生活を送り、社会に発展のために活躍できるよう「高齢者自立型・参加型情報社会」の実現を目指してまいりました。

ほとんどのシニアネットが10周年を迎えつつある今「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットはシニアの生きがい、シニアパワーを結集し、シニアネットの輪を広げよう」を合言葉に基調講演、パネルディスカッション、ケーススタディ、シニアネット交流広場の四つの柱を立てて開催いたしました。

基調講演にありましたように、10年に一度の大不況と金融危機の中で、高齢社会の先進国である日本にあって、シニア時代は新しい時代と課題に直面しています。

福祉社会を担う新しい働き手として、熟練の技術を伝承し、必要とする地域、世界で技能の発揮、地域社会に崩れつつある伝統を新しい地域づくりとして再生させること、若い人たちと連携して共に創り上げる地域づくり等々、役割は山ほどあります。

シニアネットが、シニアの生きがいづくり、地域の振興にと重要な役割を果たしている事例も示



されましたし、シニアが今後どうあるべきか、シニアネットが行う市民活動の意義等についても議論がなされました。そして自治体等とのコラボレーションを促進し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に欠かすことのできない強力なパートナーとなってきている事例等も示されました。

ここにご参加いただいた皆様が、今日の熱い議論と深い交流を通して、明日のシニアネットの在り方や、高齢者の生き方等について、肩ひじ張らず、自分の得意なものを活用し、知恵を出し合うネットワークづくり等について一緒にお考えいただき、多くの方がシニアネットの活動に参画し邁進していただけるものと信じます。

最後になりましたが、フォーラムを主催していただきました「ニューメディア開発協会」はもとより、ご後援をいただきました「経済産業省」「熊本県」「熊本市」そして裏方として支えていただいた「熊本シニアネット」のスタッフの皆さん、(株)デジブック、マイクロソフト株式会社様に心から感謝申し上げて締めくくりのご挨拶といたします。

シニアネット・フォーラム 21 in 九州

付 属 資 料

## シニアネットフォーラム21 in 九州

◇シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットはシニアの生きがい、  
シニアパワーを結集し、シニアネットの輪を広げよう◇  
平成21年10月23日(金)  
くまもと県民交流館パレア(熊本県熊本市)  
主催:財団法人 ニューメディア開発協会(<http://www.nmda.or.jp>)

現在、我が国では65歳以上の高齢者の人口は約2819万人、総人口の22.1%を占めております。また一段と高齢化が進み、実に4.5人に1人が65歳以上と言うこととなります。近いうちに団塊の世代が高齢者の仲間入りをする等高齢化は益々進み、少子化と相俟って2055年には65歳以上の高齢者が41%を占めるであろうと予測されております。まさに、ほぼ二人に一人が高齢者という時代がやってくることとなります。

高齢者が数の上でメジャーとなる時代、かつて団塊の世代がそうであったように、高齢者のパワーが社会を変えていく、と言っても過言ではありません。今後、高齢者が社会の主役として、高齢者の新しい文化を形成しつつ、さまざまな形で活躍されることがより一層重要となって参ります。

そこでは、高齢者一人一人が自身の意識や生活様式等自らの生き方を変えていくことが大切になるものと思われまます。

そうした中、好きなITを生かして充実したシニアライフを送りたい、そして少しでも社会のためにお役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」が各地にあって、高齢者へのIT講習を行ったり、長年培ってこられた知見・ノウハウ等をITを駆使して地域に還元したりと、仲間と共に楽しく、生き生きと、地域に根差したさまざまな活動を展開しております。

シニアネットは、まさに高齢者に“地域デビュー”の機会をもたらし、シニアライフを豊かで楽しいものにするなど高齢者の生きがいの創出に大きな役割を果たしております。最近当協会が行ったアンケートでも「シニアネットは“自分の居場所”であり“自己実現、仲間づくり、社会参加・社会貢献”の重要な場であり、まさに生活に根を下ろした“生きがい”となっている」という結果が得られました。少子高齢社会にあって、高齢者の持つ豊かな知識・技術・経験等は、地域の情報化促進はもとより、街づくり、地域振興等に大きく貢献するものであり、今や自治体等の強力なパートナーとなってきております。

このように、シニアネットは、高齢者にとっては勿論のこと、自治体等にとって、大変重要な組織であると言えます。

当協会は、旧通商産業省(現経済産業省)が提唱された「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指すために、こうしたシニアネットの活動なくしては実現しえないと認識し、シニアネットを強力なパートナーと位置づけ連携を強化して参りました。当協会はシニアネットが全国津々浦々、至る所において、高齢者が地域地域で生き生きと活躍している、そうした姿を創出していくことが急務と考えております。

そこで、当協会は、シニアネットの普及・拡充を図るため、経済産業省や財団法人JKAのご指導、ご支援を得て、シニアネット諸団体と一体となって「シニアネットフォーラム21」を全国で開催しております。

この度は「シニアネットフォーラム21in九州」を熊本市で開催し、全国のシニアネット同士が集う中、とりわけ九州での更なる普及を目指すことと致しました。

既にシニアネットに加わって活動されている方々は勿論、「シニアネットに参加したい…」「シニアネットを創りたい…」「地域デビューをしてみたい…」「何か地域のために活動してみたい…」等々お考えの高齢者や団塊の世代はじめとする高齢者予備軍・現役世代の方、そして「高齢者と協働して施策や事業に取り組みたいが…」とお考えの自治体や企業の関係者の方など、幅広い分野の方々に気軽に参加頂き、熱い議論と深い交流を通して、シニアネットの普及・発展はもとより高齢者や地域の発展につながる有意義なものにしていきたくと切望しております。是非、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

このフォーラムが火付け役となって、シニアネットの普及・拡充が一層加速され、高齢者の充実したシニアライフや豊かな高齢社会の構築に貢献できれば、これに勝る喜びはありません。

## 開催概要

日時 平成21年10月23日(金) 10:30~18:10  
(懇親会18:30~20:00)

会場 くまもと県民交流館パレア  
〒860-8554  
熊本市手取本町8番9号 テトリアくまもとビル  
(鶴屋百貨店10階)

主催 財団法人ニューメディア開発協会

後援 経済産業省(予定)  
熊本県(予定)  
熊本市(予定)

協力(五十音順)  
熊本シニアネット  
株式会社デジブック  
マイクロソフト株式会社

定員 約150名

参加費 無料

参加対象

- ・シニアネットへの参加や新規設立等、シニアネットに関心のある方
- ・シニアネットのメンバーの方
- ・団塊の世代の方
- ・シニア情報生活アドバイザーの方
- ・自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO活動推進をご担当の方
- ・企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリーなどシニア向け商品・サービスの企画開発等に携わっておられる方
- ・コミュニティビジネスやNPO活動に取り組んでおられる方 等々

### ●参加申し込みについて

下記いずれかの方法でお申し込み下さい。

#### ①FAXまたは郵送でのお申し込みの場合

同封の参加申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にて下記「フォーラム事務局」までお送り下さい。

#### ②ウェブサイトよりお申し込みの場合

下記ウェブサイトへアクセスして頂き、専用フォームよりお申し込み下さい。

#### ◆フォーラム事務局

<http://ksn2.huu.cc/saron/seibu/fo-ramu/ksn2009.html>

#### ◆主催者

<http://www.nmda.or.jp/mellow/adviser>

※申込締切後「参加証」をお送り致します。なお定員に達した時点で締め切らせていただきますのでご了承下さい。

### ●懇親会のご案内

どなたでもお気軽に、ご参加下さい。

新しい出会いをつくり、お互いの親交を深めて頂ける場です。ご参加頂いた皆様同士、親しく、そして楽しくご歓談頂きながら、有意義なひとときをお過ごし下さい。また、余興など楽しい催し物をご用意しております。

■会場：メルパルクKUMAMOTO

熊本県熊本市水道町14-1

■会費：5,000円

### ●ご昼食のご案内

お弁当をご用意致します。どうぞご利用下さい。

■料金：1,000円

### ●費用の振込みについて

懇親会・ご昼食をご希望の方は、事前に下記口座に所定の金額をお振込頂けますようお願い申し上げます。尚、振込手数料はご負担下さいますようお願い申し上げます。

お振込み先

ゆうちょ銀行

口座番号:00110-0-393489

口座名:シニアネットフォーラム21事務局

申込締切:平成21年10月6日(火)

(郵送の場合、当日消印有効)

【参加申込書送付先/お問い合わせ先】

「シニアネットフォーラム21事務局」

〒100-0013東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18階

日本コンベンションサービス株式会社内(堀内、白川)

TEL 03-3508-1213 / FAX 03-3508-0820 / e-mail snf21@convention.co.jp

### 会場へのご案内

- ◆JR熊本駅から
  - ・市電で17分、「水道町」又は「通町筋」電停下車
  - ・バスで18分、「水道町」又は「通町筋」バス停下車
  - ・タクシーで15分
- ◆熊本交通センターから
  - ・市電で6分、「水道町」又は「通町筋」電停下車
  - ・バスで7分、「水道町」又は「通町筋」バス停下車
  - ・タクシーで5分
- ◆熊本空港から
  - ・バスで40分、「通町筋」バス停下車



## プログラム

10月23日(金) くまもと県民交流館パレア 10階パレアホール

09:30~10:30	受付	
10:30~10:50	開会 オープニングセッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者挨拶 岡部 武尚(財団法人ニューメディア開発協会 理事長)</li> <li>・来賓挨拶 橋高 公久氏(九州経済産業局長)(予定) 蒲島 郁夫氏(熊本県知事)(予定) 幸山 政史氏(熊本市長)(予定)</li> </ul>
10:50~12:00	基調講演	『高齢社会に於けるアクティブシニアの新しい生き方』 ーシニアならではの新しい文化を創り、社会の主力にー 坂本 正氏(熊本学園大学 学長)
10:30~18:00 12:00~13:00	シニアネット交流広場 昼食	シニアネットの成果展示による相互交流の場
13:00~15:10	パネルディスカッション	『シニアネットはシニアの生きがい、 新しい時代のシニアネットの魅力的な姿とは』 ●コーディネーター 吉田 敦也氏(徳島大学 大学院 教授/ 徳島大学 地域創生センター長) ●パネリスト(五十音順) 今津 一躬氏(NPO法人 シニアネット久留米 理事長) 田鍋 晴久氏(NPO法人 シニアネット北九州 理事長) 中村 俊二氏 (宇治市総務部次長/NPO法人 まちづくりねっと・うじ) 林 恵美子氏(メロウ倶楽部) 堀池 喜一郎氏 (NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 元代表理事)
15:10~15:20	休憩	
15:20~18:00	ケーススタディ	「シニアネットがシニアを変える、地域を変える」 ●司会 花田 昌宣氏(熊本学園大学 教授) ●コメンテーター 江口 満氏(熊本県健康福祉部高齢者支援総室長)  【テーマ1】「シニアネットはシニアの生きがい、自己実現の場」 課題提供者 山口 隆信氏(熊本シニアネット 天草支部長) 【テーマ2】「社会貢献はシニアネットの使命、 行政との協働を促進」 課題提供者 二羽 英明氏 (NPO法人 シニアネットクラブ 理事長) 【テーマ3】「無から有へ、熱い想いを形にする シニアネットの新たな立ち上げ」 課題提供者 高橋 克司氏 (NPO法人 とかちシニアネット 理事長)
18:00~18:10	クロージングセッション 閉会	総括 中島 敬也氏(熊本シニアネット 代表)

## 実施予定プログラム

### 基調講演 (10:50~12:00)

#### 『高齢社会に於けるアクティブシニアの新しい生き方』 —シニアならではの新しい文化を創り、社会の主役に—

坂本 正 氏(熊本学園大学 学長)

我が国の高齢化は急速に進み、2055年には実に総人口の41%が65歳以上になると見込まれています。シニアが数の上でもメジャーとなる時代、まさにシニアがこれからの社会を変えていく、と言っても過言ではありません。「活老なくして繁栄なし」と言われております通り、高齢者が主役になって社会で活躍することがますます重要となって参ります。

そうした中、多くのシニアがそれぞれの地域で「シニアネット」に集い、得意のITを駆使しながら元気に、楽しみながら、IT講習などをはじめとするボランティア活動等に邁進し、豊かで充実したシニアライフを目指しております。まさに、自ら自立し、社会を支える側に立とうと意欲的な活動を展開しております。

今や、シニアネットはシニアの生きがいづくり、地域の振興にと重要な役割を果たしており、シニアにとって大変有意義な組織となってきております。シニアが地域の主役となって活動する大きな場であり、シニアの新しい文化として今後の普及拡大が急務であります。

そこで、一段と進む高齢社会、世界同時不況等激動の時代にある中、シニアが今後どう生きるべきか、シニアネット等シニアが行う市民活動の意義等について触れていただきながら、経済学者であるとともに、シニアネット活動・ボランティア活動にも造詣の深い学識経験者より、示唆に富んだ提言をして頂きます。

### パネルディスカッション (13:00~15:10)

#### 『シニアネットはシニアの生きがい、新しい時代のシニアネットの魅力的な姿とは』

(コーディネーター)

吉田 敦也 氏(徳島大学 大学院 教授/徳島大学 地域創生センター長)

(パネリスト)(五十音順)

今津 一躬 氏(NPO法人シニアネット久留米 理事長)

田鍋 晴久 氏(NPO法人シニアネット北九州 理事長)

中村 俊二 氏(宇治市総務部次長/NPO法人まちづくりねっと・うじ)

林 恵美子 氏(メロウ倶楽部)

堀池 喜一郎 氏(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 元代表理事)

我が国にシニアネットが誕生して以来、10年余が過ぎ、この間多くのシニアネットが全国に誕生し、各地でシニアの情報リテラシー向上を通してその活性化や地域の情報化促進等有意義な活動を展開し、大きな成果を収めてきております。当協会のアンケートにおいても、シニアネットは今では“生き甲斐”として生活の中に定着してきており“元気に生きる源”になってきております。高齢社会はシニアが主役と言われる中、「シニアネット」の活動はますます重要になって参ります。

また、シニアの仲間入りを間近に控えた“団塊の世代”の新たな地域デビューが期待され、男女共同参画が謳われているなか、シニアネットの世界は、どちらかといえば“男社会”といわれておりますが、これからはこうした団塊の世代や女性の方々の積極的な参加も重要になって参ります。

新しい局面を迎えようとしております今日、新しい時代におけるシニアネットのあり方について議論することは、少子高齢化と高度情報化がますます進む中、シニアのこれからの生き方を考える上で極めて重要なことと思いません。

そこで、各地で活躍中のシニアネットの代表者にお集まりいただき、これまでの経緯を振り返る中、シニアがいきいきとシニアライフを送るため、これからのシニアネットはどうあるべきか、どう進化すべきか、について参加者全員で大いに考えて参りたいと思います。

## ケーススタディ (15:20~18:00)

### 「シニアネットがシニアを変える、地域を変える」

●司会:花田 昌宣氏(熊本学園大学 教授)

●コメンテーター:江口 満氏(熊本県健康福祉部高齢者支援総室長)

シニアネットは、シニアの想いを実現する場として、様々な形で活動を展開し大きな成果を挙げてきており、まさにシニアの生きがいとなって生活の中に定着してきております。

団塊の世代がシニアの仲間入りを間近に控えるなど、また一段と高齢化が加速する新しい節目を迎えようとしているこの時、シニアネットの更なる普及、発展が急務であります。

そこで、全国からお招きしたシニアネットの代表の方より、豊富な事例を交えて活動状況をお話頂く中、シニアや地域にとってシニアネット活動がいかに重要であるかを皆で考え、多くのシニアがシニアネットに参画するきっかけとなる等、今後の普及や発展の礎になればと思っております。

### 【テーマ1】「シニアネットはシニアの生きがい、自己実現の場」

課題提供者 山口 隆信氏(熊本シニアネット 天草支部長)

高齢社会において、シニアは最大の社会的資源であると言われておりますが、とりわけシニアネットは、その活動実績等からシニアの生きがいとなってきており、シニアの良き拠り所、資源の源泉として大きく期待されております。多くのシニアの方々は、これまで培ってこられた豊富な経験や見識等をもとに“自己実現”を果たし、シニアライフを豊かで実りあるものになりたいと切望されております。

女性も男性も、そしてこれからシニア世代になる団塊の世代も、多くの方々がシニアネットに参加し、生き生きと活動でき、シニア一人一人の持ち味をいかに発揮できる魅力あるシニアネット像を皆で考え、実現させていくことは大変意義深いことと思っております。

そこで、九州は熊本県で13の支部、20カ所のサロンに1,300名を超える会員が集い、生き生きと活発に活動している「熊本シニアネット」の活動状況を皆で学び合い、自己実現の場として、シニアの生きがいとして、シニアが参加したくなる魅力あるシニアネットとはどのようなものか、これからの姿について皆で考えて行きたいと思っております。

### 【テーマ2】「社会貢献はシニアネットの使命、行政との協働を促進」

課題提供者 二羽 英明氏(NPO法人シニアネットクラブ 理事長)

多くのシニアネットは自ら持てる力をシニアのために、地域のためにお役に立てればと熱い想いを抱き、活動を展開されております。そのためシニアネットがシニア向けのIT講習等、その活動を通して社会に貢献しようとするとき、関係自治体や企業等と協働(コラボレーション)して事業を展開することは極めて重要であります。一方、少子高齢化と高度情報化が同時進行する社会にあって、自治体にとっても、高齢者の生きがいづくりや生涯学習等の諸施策や電子自治体や地域の情報化促進等地域振興諸政策を進める上で、シニアネットの豊富な経験や優れたノウハウを活用することは重要な要素となってきており、これまでも大きな実績を挙げてきております。今や、両者の協働(コラボレーション)は必須と言っても過言ではありません。

そこで東京の西、日野市を中心に行政との協働事業を積極的に展開し、地域社会に貢献している「NPO法人シニアネットクラブ」の活動を通して、今後、“世のため、人のため”行政とのコラボレーションのあり方や更なる促進を図るための諸方策について、参加者全員で考えて参ります。



### 【テーマ3】「無から有へ、熱い想いを形にするシニアネットの新たな立ち上げ」

課題提供者 高橋 克司 氏(NPO法人とかちシニアネット 理事長)

最近ではシニアにとって、シニアネットが“生きがい”となって生活の中に深く関わってきており、シニアネットのさまざまな活動がシニアを元気にし、地域に活力をもたらしております。各地で大きく評価されてきており、今後もますますその活動が注目されていくものと思っております。

もとより、自らの想いを実現するためにシニアネットを設立したいとするシニアは多いと言われております。しかし、どうしたら出来るのか、思い悩んでいるシニアが多いのもまた事実であります。一方で、かかるシニアネットを全国津々浦々、至る所に存在する姿を創ることが急務となっております。

そこで、かつてシニアネットがなかった帯広市にあって、自らの熱い想いを実現しようと、同士を募って新たに立ち上げ、運営に当たってきたNPO法人とかちシニアネットの高橋理事長より、設立し、その運営を軌道に乗せるまでの実体験に裏付けられたノウハウ等をお話いただき、新規設立や運営についてその方策等について共に考えていきたいと思っております。

### シニアネット交流広場 (10:30~18:00)

全国各地で活躍しているシニアネットの活動状況を展示しあい、参加者同士フェース・ツー・フェースで意見交換し相互交流を深めていただく場と致します。また、協力企業のお役立ちコーナーも設けております。これまで多くの参加者から大変ご好評を頂いており、皆様の今後の活動に必ずお役に立つものと確信いたしております。自治体や企業の方も是非、お立ち寄り下さい。

なお、全国のシニアネット諸団体におかれましては、積極的な出展をお願いいたしたく、皆様のご応募をお待ちいたしております。



## シニアネットフォーラム21 in 九州 アンケート

財団法人 ニューメディア開発協会

### より良いフォーラムにするためアンケートにご協力をお願い致します

1. 本フォーラムに参加された中で、どのプログラムが一番参考になったでしょうか。一番参考になったものに○をつけて下さい。

- イ. 基調講演
- ロ. パネルディスカッション
- ハ. ケーススタディ
- ニ. シニアネット交流広場

2. 本フォーラムに参加された動機についてお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

- イ. ご自分のシニアネットでの活動に役立てるため
- ロ. シニアネットの設立に役立てるため
- ハ. シニアネットに参加するにあたって役立てるため
- ニ. シニアネットについて詳しく知るため（以下にその目的等をお聞かせ下さい）

.....

- ホ. その他（出来るだけ具体的にお聞かせ致します）

.....

3. 本フォーラムに参加されて、シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

- イ. シニアネットについての理解が非常に深まった
- ロ. シニアネットについての理解が深まった
- ハ. あまり理解が深まらなかった（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....

- ニ. 全く理解できなかった（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....

.....

4. 本フォーラムに参加されて、ご自身シニアネットにどのように関わっていきたいと思われましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

イ. 既にシニアネットで活動しているが、さらに活発に活動したい

ロ. シニアネットを自ら設立し、始めてみたい

ハ. 身近なシニアネットに参加してみたい

ニ. 別段関わっていこうとは思わない（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....  
.....

ホ. 参加すべきかどうか、よくわからない（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....  
.....

5. 本フォーラム全体について、ご感想をお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。また、ご意見等がありましたら、是非お聞かせ下さい。

イ. 今後の活動や設立・参加のために大変役に立った

ロ. 今後の活動や設立・参加のために役に立った

ハ. あまり参考にならなかった（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....  
.....

ニ. 全く参考にならなかった（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....  
.....

■ご意見・ご意見欄

.....  
.....

6. 行政や企業関係者の方にお願ひ致します。

今後、諸施策、諸事業を展開するにあたり、シニアネットとの協働（コラボレーション）を、どのようにお考えでしょうか。

イ. 是非、協働していきたい（分野等：\_\_\_\_\_）

ロ. 協働出来るところがあれば、していきたい（分野等：\_\_\_\_\_）

ハ. 今のところ、考えていない（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

.....  
.....

■シニアネットとの協働についてのご意見（出来るだけお願い致します）

.....  
.....

7. 「シニアネット交流広場」(展示コーナー) はいかがでしたでしょうか。ご意見やご感想をお聞かせ下さい。

.....  
.....  
.....

8. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るため「シニアネットフォーラム21」は、どうあるべきか、具体的なお意見をお聞かせください。

.....  
.....  
.....

9. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るため「シニアネットフォーラム21」を含め、どのような活動を行う必要があるか、ご意見を具体的にお聞かせください。

.....  
.....  
.....

10. あなたご自身にとってシニアネットはどのような存在でしょうか。一言でも結構です。お願い致します。

.....  
.....

11. あなたご自身のことについてお聞かせください。

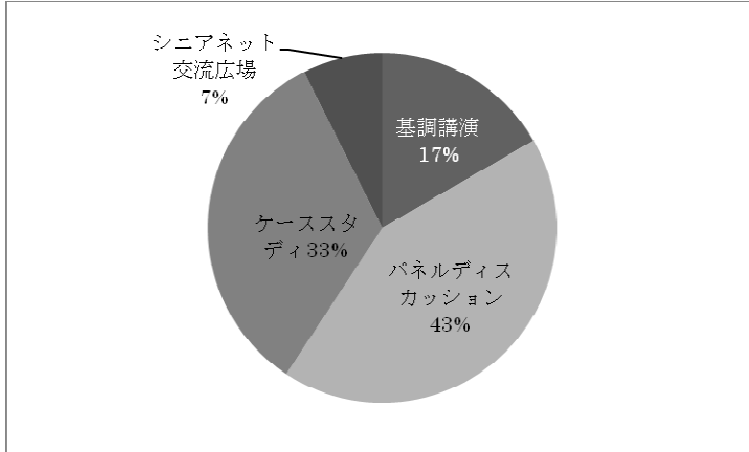
- ①性別： 男 女      ②年齢：      歳  
③ご住所(市区町村まで)：      都・道・府・県      市・区・町・村  
④所属(該当するところを○で囲んで下さい。職種は差し支えない範囲でお願いします)  
イ. シニアネット(含むNPO法人)  
ロ. NPO法人等各種団体、グループ(シニアネット系以外)  
ハ. 行政機関(ご担当分野：      )  
ニ. 民間企業(ご担当分野：      )  
ホ. 自営業(職種：      )  
ヘ. どこにも係わっていない(個人)  
ト. その他(      )  
⑤パソコン経験年数：約      年  
⑥生活の中でパソコンをどのように利活用していますか。また利活用したいですか。ご自由にお書き下さい。

.....  
.....

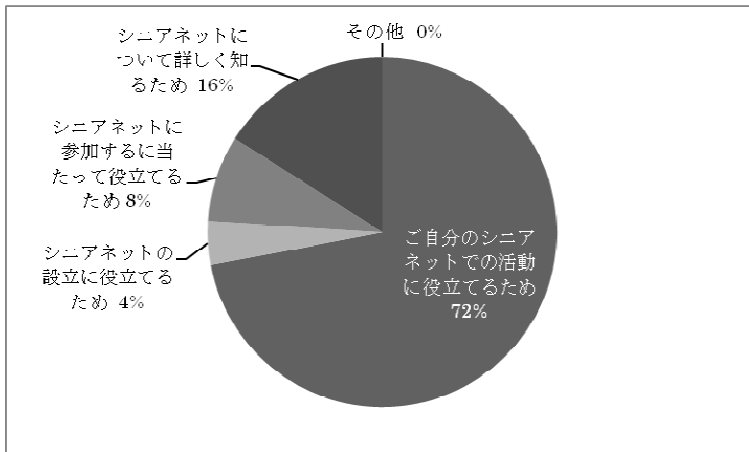
**アンケートはこれでおしまいです。どうもご協力有難うございました。**

## ◆シニアネットフォーラム21 in 九州・アンケート結果(回収48)◆

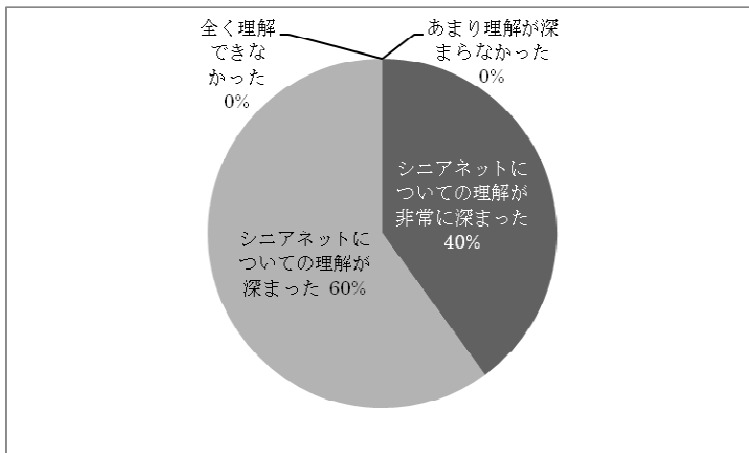
1. 本フォーラムに参加された中で、どのプログラムが一番参考になったでしょう(回答54、重複あり)



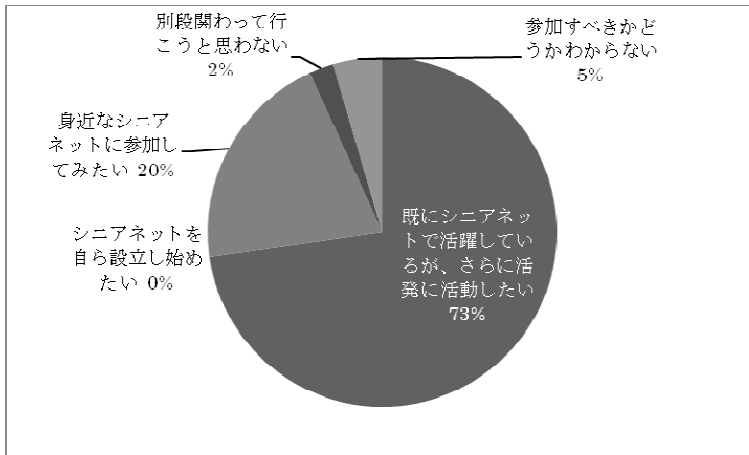
2. 本フォーラムに参加された動機について(回答50、重複あり)



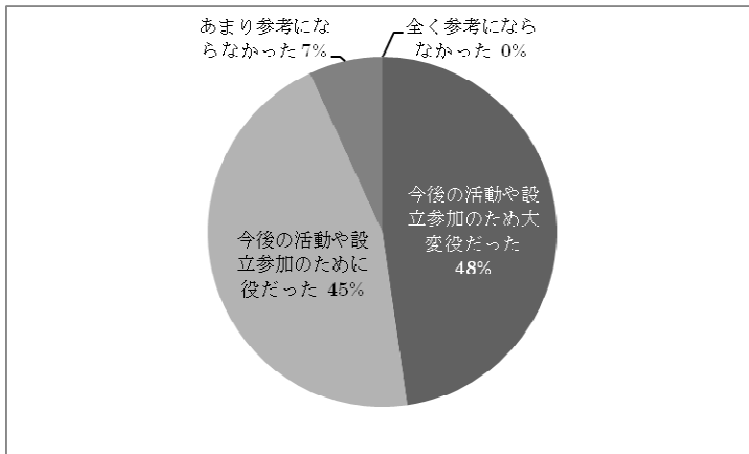
3. 本フォーラムに参加されてシニアネットという組織と活動について理解は深まりましたか(回答45)



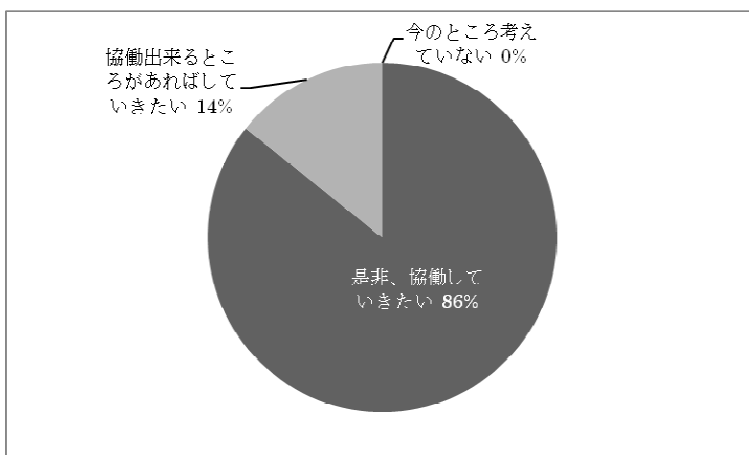
4. 本フォーラムに参加されて、ご自身シニアネットにどのように関わっていきたいと思われましたか(回答44)



5. 本フォーラム全体について、ご感想をお聞かせください(回答44)



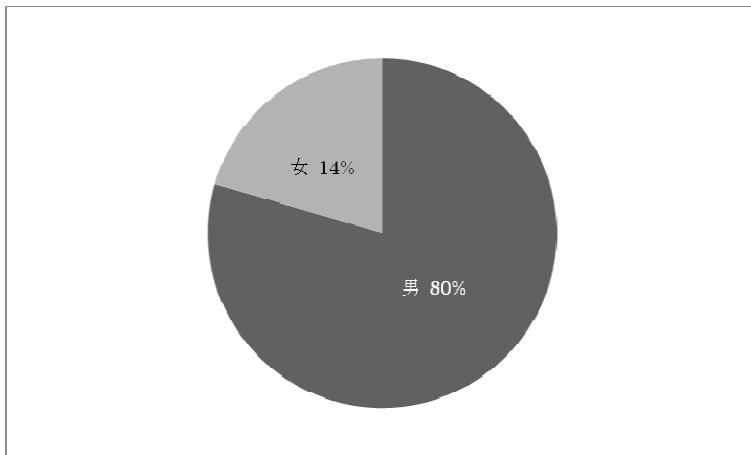
6. 行政や企業関係者の方をお願い致します。今後、諸施策、諸事業を展開するにあたりシニアネットとの協同(コラボレーション)をどのようにお考えでしょうか(回答7)



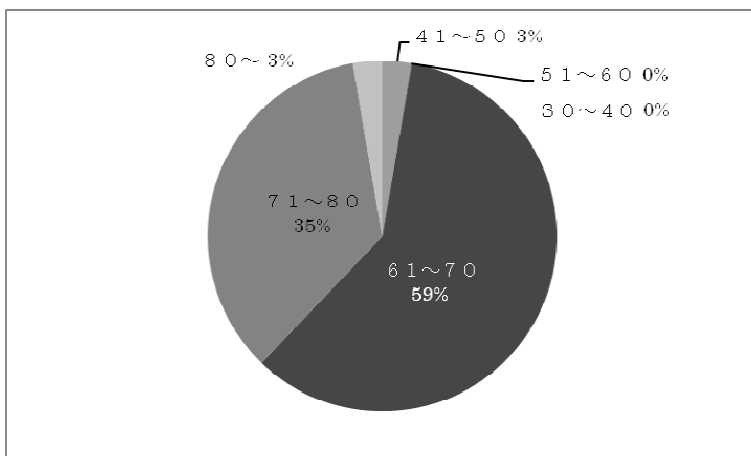
7. ～10. 自由記述

11. あなたご自身のことについてお聞かせください(回答44)

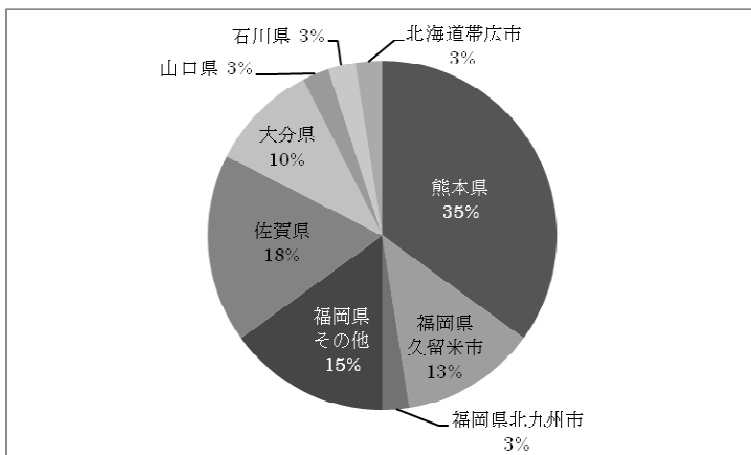
①性別



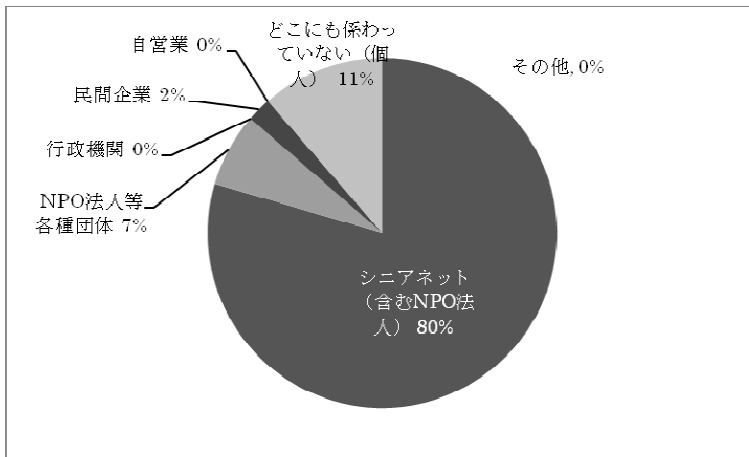
②年齢(回答37)



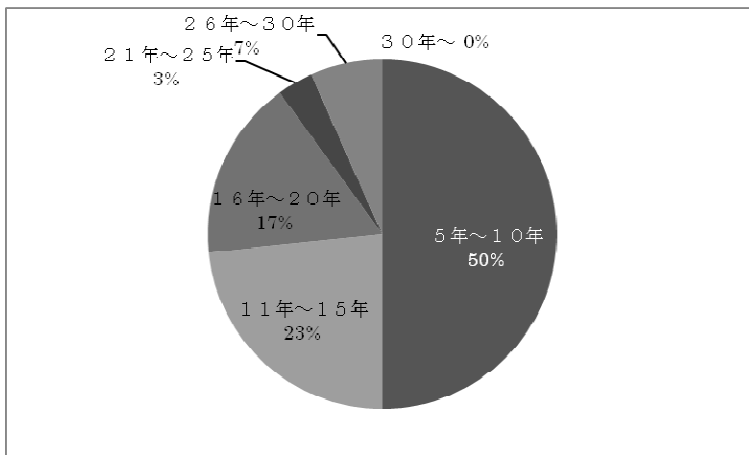
③ご住所(回答40)



④所属（回答44）



⑤パソコン経験年数（回答30）





編集・発行

**財団法人 ニューメディア開発協会**

〒112-0014 東京都文京区関口1丁目43番5号 新目白ビル6階

電話：03-5287-5034 FAX：03-5287-5029

<http://www.nmda.or.jp/>

発行日 2010年2月

